

(様式第 10)

29 事務第 26 号
平成 29 年 10 月 4 日

厚生労働大臣 加藤 勝信 殿

公立大学法人 名古屋市立大学
理事長 郡 健二郎 (印)

名古屋市立大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
氏 名	公立大学法人 名古屋市立大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

名古屋市立大学病院

3 所在の場所

〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地 電話(052)851-5511

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
⑤神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑪リウマチ科	
診療実績	・呼吸器内科、アレルギー疾患内科については呼吸器・アレルギー疾患内科で主に診療している。 ・血液内科は血液・腫瘍内科、内分泌内科は内分泌・糖尿病内科にて主に診療している。		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績 ・ 内分泌外科の診療実績については、 28年度、耳鼻咽喉科で6件、泌尿器科で7件内分泌外科手術等を実施した。	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1. 肝臓内科 2. 膵臓内科 3. 呼吸器・アレルギー疾患内科 4. 内分泌・糖尿病内科 5. 血液・腫瘍内科 6. 形成外科 7. 小児泌尿器科 8. リハビリテーション科 9. 病理診断科 10. 臨床検査科
--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	床	床	床	772床	808床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	277人	184.9人	461.9人	看 護 補 助 者	88人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	5人	16.6人	21.6人	理 学 療 法 士	14人	臨床検査技師	65人
薬 剤 師	45人	9.7人	54.7人	作 業 療 法 士	4人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	4人	そ の 他	0人
助 産 師	42人	0人	42人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	819人	32.9人	851.9人	臨 床 工 学 士	14人	医療社会事業従事者	7人
准 看 護 師	0人	0.8人	0.8人	栄 養 士	0人	その他の技術員	25人
歯科衛生士	1人	1.9人	2.9人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	153人
管理栄養士	9人	2.9人	11.9人	診 療 放 射 線 技 師	46人	そ の 他 の 職 員	3人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	51人	眼 科 専 門 医	13人
外 科 専 門 医	47人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	17人
精 神 科 専 門 医	14人	放 射 線 科 専 門 医	14人
小 児 科 専 門 医	20人	脳 神 経 外 科 専 門 医	10人
皮 膚 科 専 門 医	10人	整 形 外 科 専 門 医	27人
泌 尿 器 科 専 門 医	12人	麻 酔 科 専 門 医	19人
産 婦 人 科 専 門 医	13人	救 急 科 専 門 医	7人
		合 計	274人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (小椋 祐一郎) 任命年月日 平成29年4月1日

平成29年4月～ 医療安全管理委員会 委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	676.9人	5.7人	682.6人
1日当たり平均外来患者数	1,671人	79.2人	1,750.2人
1日当たり平均調剤数			1,416 剤
必要医師数			168.2人
必要歯科医師数			5人
必要薬剤師数			23人
必要(准)看護師数			401人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	367.85m ²	S造 一部SRC/RC造	病床数	14床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 245.97m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	15床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 62.81m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	520.90m ²	S造 一部SRC/RC造	(主な設備) 検体検査システム			
細菌検査室	123.15m ²		(主な設備) 微生物検査システム			
病理検査室	221.79m ²		(主な設備) 病理標本染色封入システム			
病理解剖室	81.18m ²	S・SRC造	(主な設備) 解剖台、臓器撮影台、滅菌装置			
研究室	193.13m ²	S造 一部SRC/RC造	(主な設備) クリーンベンチオートクレーブ滅菌装置			
講義室	401.90m ²		室数	1室	収容定員	320人
図書室	96.98m ²		室数	2室	蔵書数	5,400冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	70.9%	逆紹介率	67.4%
算出根拠	A: 紹介患者の数		14,972 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		17,074 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,990 人
	D: 初診の患者の数		25,340 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
中村 勝己	後藤・太田・立岡法律事務所 所属弁護士	○	法律に関する見識を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
宮本 忠壽	知多厚生病院 名誉病院長		医療及び病院管理の見識を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
小島 一彦	元中日新聞社 編集委員		報道機関に努めた経歴を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
岩崎 良平	日本ガイシ株式会社 取締役専務執行役員		一般企業において組織管理の経験を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法	
病院ホームページにて公表している	
https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/anzen-kanri/externalauditor/	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	化学放射線療法後再発食道癌に対する光線力学療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 化学放射線治療後に食道に再発を来した食道癌に対するPDレーザー照射とTalaporfinを用いた癌治療。医師主導治験を経て2015年10月から保険適用になった。この手技を施行するには、全国規模で行われている講習会を受講し、修了証の取得が必要となる。当院ではこれまで3名が取得、1名が講師認定を受けている。			
医療技術名	インパルスオキシレーション法 (IOS)	取扱患者数	182人
当該医療技術の概要 安静呼吸時に、複数の周波数波を気道内に送り、各周波数ごとの呼吸抵抗などを測定する検査。周波数により中枢気道成分と末梢気道成分を分けて測定が可能。			
医療技術名	誘発喀痰	取扱患者数	78人
当該医療技術の概要 高張食塩水(3%)吸入により喀痰を採取し、その細胞所見やメディエーター濃度等を検討する。炎症性気道疾患の病態解析に有効			
医療技術名	呼気一酸化窒素濃度	取扱患者数	201人
当該医療技術の概要 呼気中の一酸化窒素濃度を測定することにより、喘息など好酸球性気道炎症の存在が推定可能。病態解明や治療効果判定への応用が期待される。			
医療技術名	気管支サーモプラスティ	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 重症喘息患者を対象とした新治療。気管支鏡下に中葉を除く全気管支に専用のプローブを用いて熱を加えることで気管支平滑筋の容量減少から発作回数減少などの効果が期待される。当科では全国的にも早期導入し積極的に治療を行っている。			
医療技術名	造血幹細胞移植療法	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 自家および同種造血幹細胞移植療法は、造血器腫瘍治療において極めて重要な手段である。高度の骨髄抑制および免疫抑制に伴う合併症管理が治療成績を左右し、多臓器にわたる専門的な管理が必要であるため、チーム医療を学ぶ良い機会となる。			
医療技術名	腹腔鏡下食道アカラシア手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 アカラシア手術を腹腔鏡下にて安全に施行している。			
医療技術名	胸腔鏡下食道亜全摘出術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 切除可能食道癌に対して胸腔鏡下に施行している。			
医療技術名	胸腔鏡下食道腫瘍摘出術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 良性腫瘍またはGISTなどに対して、胸腔鏡下腫瘍摘出術を施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下大腸全摘出術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 主に潰瘍性大腸炎、家族性大腸ポリポーシス患者に対して大腸を腹腔鏡下に全摘している。			

医療技術名	骨盤内臓全摘出術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
骨盤内の臓器を合併切除する。(膀胱・子宮含む)			
医療技術名	腹腔鏡下肝部分切除術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
肝外側区域切除または肝部分切除を腹腔鏡下に行っている。			
医療技術名	腹腔鏡下肝亜区域切除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
肝腫瘍を亜区域範囲で切除する。			
医療技術名	膵頭十二指腸切除術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要			
膵頭部癌または遠位部胆管癌、十二指腸乳頭部癌などに対して、食べ物の流れ道、膵液の流れ道、胆汁の流れ道を十二指腸と同時に合併切除し、空腸を用いて再建する。			
医療技術名	腹腔鏡下膵体尾部切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
良性または低悪性度膵体尾部腫瘍に対して、腹腔鏡下に膵体尾部切除を行っている。			
医療技術名	膵全摘出術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
膵残存しきれない高度な膵管内進展をきたす症例や、広範囲膵外進展をきたす膵腫瘍症例に対し、膵臓全摘に加え解剖学的見識から胆管十二指腸切除を伴う。(術式は膵頭十二指腸切除術に準ずる)			
医療技術名	亜全胃温存膵頭十二指腸切除術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
胃機能を温存させた膵頭十二指腸切除術。			
医療技術名	Frey手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
内科的治療の困難な慢性膵炎に対し、膵管内圧の上昇を防ぐ目的で、膵頭部のくり抜きと、膵管を長軸方向に開放した上で、膵管と空腸を吻合する手術。			
医療技術名	胸腔鏡下前縦隔腫瘍切除術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
前縦隔腫瘍は通常胸骨正中切開を用いて手術するが、胸腔鏡を用いることで胸骨を切開することなく前縦隔腫瘍を切除する。			
医療技術名	胸膜肺全摘術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
悪性胸膜中皮腫に対して、胸膜肺全摘術を行い、横隔膜を人工物で再建する。			
医療技術名	胸腺悪性腫瘍手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
肺など周辺臓器浸潤を伴う悪性胸腺腫瘍に対して、浸潤臓器を含めた拡大切除再建を行う。			
医療技術名	胸腔鏡下気管支形成術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
気管支浸潤を伴う肺癌に対する肺切除+気管支形成は、通常は開胸手術で行うが、これを侵襲の少ない胸腔鏡下に行う。			

医療技術名	胸腔鏡下肺動脈形成術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
肺動脈へ浸潤している肺癌に対する肺動脈形成は、通常は開胸手術で行うが、侵襲の少ない胸腔鏡下にこれを行う。			
医療技術名	胸腔鏡下気管支形成、肺動脈形成術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
気管支及び肺動脈へ浸潤している肺癌に対する気管支形成/肺動脈形成は、通常は開胸手術で行うが、これを侵襲の少ない胸腔鏡下に行う。			
医療技術名	胸腔鏡下胸壁合併切除術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
通常であれば、大きな皮膚切開を要する胸壁浸潤を伴う肺癌に対して、胸腔鏡を使用することによって皮膚切開を小さくし、肺と胸壁を切除する。			
医療技術名	人工心肺下肺動脈形成、気管支形成、大動脈切除再建術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
下行大動脈浸潤を伴う中枢型肺癌に対して、人工心肺下に左肺切除に加え、気管支形成、肺動脈形成、下行大動脈切除、再建を行う。			
医療技術名	腎悪性腫瘍に対する腎摘出術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
小児の巨大な腎芽腫に対する腎摘出術			
医療技術名	新生児の臍帯ヘルニア修復術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
新生児の臍帯ヘルニア修復ならびに、合併する腸回転異常症とメッケル憩室遺残に対する手術			
医療技術名	膵胆道合流異常に対する膵胆道分流手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
小児における肝・膵外胆道の切除と腸管による胆道再建術			
医療技術名	鎖肛修復術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
新生児の低位鎖肛に対する一期的修復術			
医療技術名	胸腔鏡補助下肺区域切除	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
胸腔鏡を補助的に用いた小児の肺区域切除術			
医療技術名	肝悪性腫瘍に対する肝切除術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
小児肝芽腫に対する肝切除術			
医療技術名	脊椎側弯症手術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
成長期に脊椎が弯曲して変形する側弯症に対して、曲がりを矯正して固定する手術			
医療技術名	脊椎内視鏡手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
内視鏡を用いて、小さい皮膚切開で骨や靭帯を削り、または、椎間板ヘルニアを切除して神経の圧迫を取り除く手術			

医療技術名	大腿骨頭回転骨切術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
大腿骨頭壊死症に対して、大腿骨頸部で骨切を行い、大腿骨頭を回転して温存する手術			
医療技術名	3次元大腿骨形状解析による転子下減念短縮骨切を併用した人工股関節置換術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
高度前捻異常や高位脱臼を伴った股関節に対し、コンピューター3次元形状解析を行い、適切な骨切りの位置、大きさ、減念の量を算出したうえこの手術方法に最適化して設計された人工関節を用いた人工股関節置換術。			
医療技術名	前十字靭帯、後十字靭帯を温存した人工膝関節置換術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
従来切除せざるを得なかった前十字靭帯を温存することにより、より正常膝に近い人工膝関節置換術を目指す。			
医療技術名	悪性軟部腫瘍に対する放射線温熱化学療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
放射線療法、温熱療法、化学療法を併用することにより、悪性軟部腫瘍の局所制御率を向上させる。			
医療技術名	習慣流産患者の妊娠管理	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要			
抗リン脂質抗体症候群は不育症の原因の1つであり、抗凝固療法（ヘパリン・アスピリン）により治療する。			
医療技術名	習慣流産患者の妊娠管理	取扱患者数	150人
当該医療技術の概要			
習慣流産患者の診断、治療をおこない妊娠継続分娩管理をおこなう。			
医療技術名	重症妊娠高血圧症候群患者の管理	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要			
重症妊娠高血圧症候群の患者を、高度な集約的治療により、妊娠・分娩管理をおこなう。			
医療技術名	前置胎盤・胎盤早期剥離などハイリスク妊婦に対する帝王切開術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
重圧な合併症を引き起こす可能性のある疾患である、高度な集約的治療により、妊娠・分娩管理をする。			
医療技術名	妊娠中期破水妊娠の管理	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要			
妊娠中期の前期破水は母体のみでなく胎児にも大きな影響を与える。集約的な治療によって妊娠分娩管理をする。			
医療技術名	胎児異常の出生前診断	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要			
胎児異常の出生前診断は困難で、専門医による診断が必要である。また診断後のカウンセリングにも専門知識が必要である。			
医療技術名	異常胎児妊娠妊婦の管理	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要			
胎児異常妊娠は合併症のみで無く、胎児の状態の把握も重要である。			
医療技術名	子宮頸がんに対する広汎子宮全摘術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
広汎子宮全摘術は専門性の高い婦人科医のみが実施できる手術である。また術後合併症の頻度も高い。			

医療技術名	子宮癌に対する子宮温存療法	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 早期子宮癌は細心の注意を払った治療をすることにより、子宮を温存することができる。このことにより治療後の妊娠を望む事が出来る。			
医療技術名	精巣内精子回収法(TESE)により得られた精子を用いた顕微授精	取扱患者数	33人
当該医療技術の概要 精巣内から直接得られた精子を用いた顕微授精をおこなうことにより、この男性不妊症の患者が、生児を得ることが出来る。			
医療技術名	筋硬直性ジストロフィーに対する着床前診断	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 筋硬直性ジストロフィーは遺伝疾患であり、着床前診断することが出来る。			
医療技術名	染色体相互転座に起因する習慣流産患者に対する着床前診断	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 習慣流産の原因の1つである染色体相互転座は着床前診断することが出来る。			
医療技術名	脈絡膜新生血管、黄斑浮腫に対する抗VEGF硝子体内注射	取扱患者数	1475人
当該医療技術の概要 加齢黄斑変性、近視性脈絡膜新生血管、および、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症による黄斑浮腫に対して抗VEGF薬を硝子体内に注射して、新生血管を縮小あるいは浮腫の改善を測る。			
医療技術名	加齢黄斑変性に対する光線力学療法	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 光感受性物質を静脈内投与したのちに、レーザー光線をあて、加齢黄斑変性の脈絡膜新生血管を縮小させる。			
医療技術名	増殖硝子体網膜症に対する増殖硝子体網膜症手術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 難治性網膜剥離である増殖硝子体網膜症に対し、輪状締結を行い、硝子体および増殖膜を切除、ガスあるいはシリコンオイルで眼内を置換する。			
医療技術名	インプラントを用いた緑内障手術	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 他の治療法で眼圧コントロール不良の緑内障患者に対して、インプラントを用いた濾過手術を施行する			
医療技術名	糖尿病黄斑浮腫に対する選択的網膜光凝固	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 糖尿病黄斑浮腫にたいして、インドシアニングリーン蛍光眼底造影を施行し、原因となる毛細血管瘤を自動追尾装置をもったレーザーの機械で選択的に光凝固する			
医療技術名	糖尿病黄斑浮腫に対する域値下光凝固	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 糖尿病黄斑浮腫に対して、黄斑部域値下網膜光凝固を施行する			
医療技術名	顔面神経減荷術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 重度の顔面神経麻痺に対する治療 手術講習会を行い、中部地区6大学より参加者があった。また浜松医大より医師の見学を受け入れた。			
医療技術名	ロボット支援腔鏡下前立腺全摘術	取扱患者数	96人
当該医療技術の概要 2012年4月より保険適応になり週4名の手術を行い、大きなトラブル無く施行している。 前立腺周囲の解剖が従来の腹腔鏡より繊細にわかり、より高度な手術を可能にしている			

医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 ロボットの特性を生かした手術が行え、従来の腹腔鏡よりも安全かつ迅速に手術が行える。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 ロボットの特性を生かした手術が行え、従来の腹腔鏡よりも安全・確実に手術が行える。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下逆流防止術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 先進医療として厚生労働省が認めた高度な手術である腹腔鏡手術をロボットで行った、日本で唯一行える手術である。細かな縫合技術が必要であるが、ロボットの特徴をまさにいかせる手術である。			
医療技術名	腹腔鏡下逆流防止術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 先進医療として厚生労働省が認めた高度な手術である。小児泌尿器科領域では全国でも稀な施設である。細かな縫合技術が必要になるため、他の腹腔鏡手術への技術応用が可能になる。			
医療技術名	腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下手術において経腸間膜的に行って全国でも例をみない手法を用いている。特殊な方法であるため、解剖としての知識も必要になり、またこれを開腹手術あるいは他の腹腔鏡下手術の研修にもなっている。			
医療技術名	腹腔鏡内精巣に対する腹腔鏡下精巣固定術	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 小児に対するより低侵襲な手術として腹腔鏡を全国に先駆けて取り入れ行っている。腹腔内からの精巣の観察ができ、開腹による手術の時の理解にもつながっている。			
医療技術名	尿道下裂形成術	取扱患者数	48人
当該医療技術の概要 全国一の手術経験を持っている。拡大鏡を用いての繊細かつ高度な技術を要する。繊細な手術になるため、形成術全般に対する知識が深まる。			
医療技術名	顕微鏡下精子採取術	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要 男性不妊症に対する補助生殖医療技術。産婦人科と協調しながら顕微鏡下に精子採取術を行っている。東海地区の大学病院では唯一当院でしか経験できないため、特殊な手術の経験となっている。			
医療技術名	腹腔鏡下膀胱全摘除術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下手術においてより低侵襲な手術。特殊な器具やカメラを時に必要となりその使用により、他の腹腔鏡手術に技術と知識が応用できる。			
医療技術名	不安障害に対する認知行動療法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 パニック障害や社交不安障害患者に、まず呼吸コントロール法や注意訓練法、認知再構成法といった不安をコントロールする技法を習得してもらい、その後不安や恐怖の対象への段階的なエクスポージャー法を施行して、回避等の症状低減を図る。			
医療技術名	慢性めまいに対する新世代認知行動療法(アクセプタンス&コミットメント・セラピー)	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 慢性めまい(心因性めまい)の患者に対して、アクセプタンス、観察者としての自己、脱フュージョン、現在との接触、価値、コミットされた行為、というアクセプタンス&コミットメント・セラピーのコアプロセスを体験的に習得してもらい、心理的柔軟性を高めることで、QOLの向上を目指し、結果として慢性めまい症状の低減を図る。			
医療技術名	児童外来	取扱患者数	1440人
当該医療技術の概要 児童・思春期に特有な疾患について個人精神療法を中心を行う。			

医療技術名	電気けいれん療法	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 これまでに数種類の抗うつ薬を十分量、十分期間服用しても改善の得られない難治性うつ病や、副作用のために薬物治療を行えない治療抵抗性うつ病、高齢者のうつ病などに対しては、修正型電気けいれん療法(週2回ずつ約10回を1クールとして施行)を麻酔科の協力を得て行う。			
医療技術名	サイコオンコロジー	取扱患者数	600人
当該医療技術の概要 がん患者とその家族に対して、支持的精神療法を基本としつつ、がんという疾患の特性を良く理解し、患者の苦痛を包括的に評価し、多職種と協働しながら精神心理的支援を提供する。			
医療技術名	難治性てんかんの診断と治療	取扱患者数	200人
当該医療技術の概要 難治性てんかんの診断として、入院・外来で終夜脳波などの発作時ビデオ脳波同時記録を行っている。治療としては入院・外来で抗てんかん薬による薬物療法および迷走神経刺激療法(VNS)を行っている。			
医療技術名	覚醒下開頭脳腫瘍摘出術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 開頭を行った後、患者を覚醒させ、脳表面の電気刺激を行いながら、患者の指示動作ができない部位を脳機能がある部位として確認しながら、脳腫瘍の摘出範囲を調べて脳機能を温存しながら、脳腫瘍を摘出する手術である。			
医療技術名	耳鼻科との合同手術 聴神経腫瘍摘出術、真珠腫摘出術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 耳鼻科と合同で脳神経モニタリングを行いながら、顔面神経、聴神経の機能温存しながら腫瘍摘出を行う手術である			
医療技術名	脳深部刺激装置埋め込み術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 脳深部刺激装置をMRI定位手術装置を用いて微小電極で脳深部の電気信号を確認しながら、正確な位置に埋め込む手術である			
医療技術名	硬膜動静脈瘻血管内塞栓術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 硬膜動静脈瘻を血管撮影検査でAV-shuntの部位を正しく診断し、血管内塞栓術により、AV-shunt部位を遮断する手術である			
医療技術名	神経内視鏡手術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 神経内視鏡を用いて、頭蓋底の腫瘍、脳内血腫を摘出する手術である。			
医療技術名	インプラント骨造成	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 フィブリン塊であるPlatetet Rich Fibrin を応用したインプラントのための骨造成			
医療技術名	悪性腫瘍に対する集学的治療	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 周術期の口腔ケアから顎骨再建までを含めた悪性腫瘍に対する治療			
医療技術名	顎変形症手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 顎変形症や睡眠時無呼吸症候群に対して3Dモデルを応用した手術			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	8	56	ベーチェット病	94
2	筋萎縮性側索硬化症	14	57	特発性拡張型心筋症	49
3	脊髄性筋萎縮症	14	58	肥大型心筋症	32
4	原発性側索硬化症	14	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	14	60	再生不良性貧血	52
6	パーキンソン病	421	61	自己免疫性溶血性貧血	9
7	大脳皮質基底核変性症	6	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	83
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	11	65	原発性免疫不全症候群	3
11	重症筋無力症	181	66	IgA腎症	72
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	18
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	79	68	黄色靱帯骨化症	0
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	12	69	後縦靱帯骨化症	0
15	封入体筋炎	55	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クドウ・深瀬症候群	7	71	特発性大腿骨頭壊死症	0
17	多系統萎縮症	6	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	27	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	22	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	5	75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	41	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	4	78	下垂体前葉機能低下症	344
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	434
25	進行性多巣性白質脳症	2	80	甲状腺ホルモン不応症	2
26	HTLV-1関連脊髄症	7	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	6	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	26	83	アジソン病	4
29	ウルリッヒ病	44	84	サルコイドーシス	300
30	遠位型ミオパチー	44	85	特発性間質性肺炎	40
31	ベスレムミオパチー	44	86	肺動脈性肺高血圧症	113
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	113
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	16	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	7
34	神経線維腫症	32	89	リンパ管筋腫症	8
35	天疱瘡	65	90	網膜色素変性症	37
36	表皮水疱症	6	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	24	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	85
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	41
40	高安動脈炎	18	95	自己免疫性肝炎	83
41	巨細胞性動脈炎	9	96	クローン病	70
42	結節性多発動脈炎	24	97	潰瘍性大腸炎	262
43	顕微鏡的多発血管炎	24	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	89	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	19	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	1
46	悪性関節リウマチ	0	101	腸管神経節細胞減少症	1
47	バージャー病	7	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	4
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	148	103	CFC症候群	1
49	全身性エリテマトーデス	395	104	コステロ症候群	21
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	103	105	チャージ症候群	1
51	全身性強皮症	34	106	クリオピリン関連周期熱症候群	4
52	混合性結合組織病	60	107	全身型若年性特発性関節炎	6
53	シェーグレン症候群	228	108	TNF受容体関連周期性症候群	4
54	成人スチル病	0	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	0	110	ブラウ症候群	4

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	18	161	家族性良性慢性天疱瘡	25
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	6
113	筋ジストロフィー	44	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	16	164	眼皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	2	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	6	166	弾性線維性仮性黄色腫	25
117	脊髄空洞症	15	167	マルファン症候群	8
118	脊髄髄膜瘤	37	168	エーラス・ダンロス症候群	4
119	アイザックス症候群	16	169	メンケス病	8
120	遺伝性ジストニア	3	170	オクシピタル・ホーン症候群	8
121	神経フェリチン症	6	171	ウィルソン病	8
122	脳表ヘモジデリン沈着症	8	172	低ホスファターゼ症	11
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	4
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	1
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	24	175	ウィーバー症候群	4
126	ペリー症候群	9	176	コフィン・ローリー症候群	7
127	前頭側頭葉変性症	8	177	有馬症候群	6
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	7	178	モワット・ウィルソン症候群	5
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	11	179	ウィリアムズ症候群	7
130	先天性無痛無汗症	1	180	ATR-X症候群	5
131	アレキサンダー病	10	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	5
133	メビウス症候群	5	183	ファイファー症候群	5
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	5
135	アイカルディ症候群	1	185	コフィン・シリズ症候群	5
136	片側巨脳症	4	186	ロスムンド・トムソン症候群	25
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	5
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	3
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	3
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	7
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	31	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	21
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	21
144	レノックス・ガストー症候群	33	194	ソトス症候群	4
145	ウエスト症候群	33	195	ヌーナン症候群	21
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	5
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	11
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	2
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	8
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	11
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	3
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	3
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	16	207	総動脈幹遺残症	6
158	結節性硬化症	13	208	修正大血管転位症	15
159	色素性乾皮症	3	209	完全大血管転位症	36
160	先天性魚鱗癬	2	210	単心室症	35

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	6	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	6	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	43	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	90	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	90	263	脳腫黄色腫症	3
216	両大血管右室起始症	60	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	8	265	脂肪萎縮症	1
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	2
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	4
220	急速進行性糸球体腎炎	96	268	中條・西村症候群	4
221	抗糸球体基底膜腎炎	2	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	4
222	一次性ネフローゼ症候群	80	270	慢性再発性多発性骨髄炎	4
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	0
224	紫斑病性腎炎	27	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	5	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	15
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	3	274	骨形成不全症	15
227	オスラー病	7	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	12	276	軟骨無形成症	5
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	21	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	3
233	ウォルフラム症候群	1	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	4
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	5	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	13	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	3	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	5
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	48	285	ファンコニ貧血	5
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	11	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	16	287	エプスタイン症候群	599
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	2
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	5
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	2
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	4
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	3
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	3
249	グルタル酸血症1型	1	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	5	298	遺伝性膝炎	114
251	尿素サイクル異常症	44	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	1	300	IgG4関連疾患	204
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	37
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	43
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	1	303	アッシャー症候群	1
256	筋型糖原病	8	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	8	305	遅発性内リンパ水腫	218
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	3	306	好酸球性副鼻腔炎	5

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナパン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	2	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	13	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	6	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	1
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	44	330	先天性気管狭窄症	2

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般7:1,精神10:1)	・新生児治療回復室入院医療管理料
・超急性期脳卒中加算	・小児入院管理料2
・診療録管理体制加算2	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・急性期看護補助体制加算	・歯科外来診療環境体制加算
・看護職員夜間配置加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1・2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊婦管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・データ提出加算2	・
・退院支援加算2・3	・
・精神疾患診療体制加算	・
・救命救急入院料1	・
・特定集中治療室管理料3	・
・総合周産期特定集中治療室管理料1・2	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・がん性疼痛緩和指導管理料	・内服・点滴誘発試験
・がん患者指導管理料 1・2・3	・CT透視下気管支鏡検査加算
・外来緩和ケア管理料	・画像診断管理加算1
・院内トリアージ実施料	・CT撮影及びMRI撮影
・外来放射線放射線照射診療料	・冠動脈CT撮影加算
・ニコチン依存症管理料	・心臓MRI撮影加算
・がん治療連携計画策定料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・外来化学療法加算1
・薬剤管理指導料	・無菌製剤処理料
・医療機器安全管理料1・2	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・歯科治療総合医療管理料(Ⅰ・Ⅱ)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・遺伝学的検査	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・HPV核酸及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・がん患者リハビリテーション料
・検体検査管理加算 Ⅰ・Ⅳ	・歯科口腔リハビリテーション料2
・遺伝カウンセリング加算	・児童思春期精神科専門管理加算
・国際標準検査管理加算	・認知療法・認知行動療法2
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・胎児心エコー法	・医療保護入院等診療料
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・エタノールの局所注入(甲状腺・副甲状腺)
・ヘッドアップティルト試験	・透析液水質加算1
・長期継続頭蓋内脳波検査	・CAD/CAM冠
・神経学的検査	・歯科技工加算1・2
・補聴器適合検査	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・ロービジョン検査判断料	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)

施設基準の種類	施設基準の種類
・骨移植術(軟骨移植術を含む)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る)))	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)	・同種死体腎移植術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・膀胱水圧拡張術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・網膜再建術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・輸血管管理料 I
・乳癌悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・輸血適正使用加算
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る)	・胃瘻増設時嚥下機能評価加算
・経皮的肝動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・麻酔管理料(I・II)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・放射線治療専任加算
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・外来放射線治療加算
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術	・高エネルギー放射線治療
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・1回線量増加加算
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・体外衝撃波胆石破砕術	・定位放射線治療
・腹腔鏡下肝切除術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・体外衝撃波膀胱石破砕術	・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・テレパソロジーによる術中迅速細胞診
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・病理診断管理加算2
・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	・クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託
中高年に対する開発化粧品塗布効果の検討	赤津裕康	総合内科・総合診療科	¥500,000	委 サポイン事業
次につなぐ地域包括終末期ケアの模索	赤津裕康	総合内科・総合診療科	¥1,500,000	補 杉浦記念財団
担がんモデル動物を用いたCUL3-BTBP-基質軸標的効果の検証	城 卓志	消化器内科	¥2,500,000	委 愛媛大学
臨床応用のための新規光感受性糖鎖連結クロリンを用いた癌細胞超選択的次世代光線力学療法の開発	片岡 洋望	消化器内科	¥50,000,000	委 日本医療研究開発機構
癌間質の腫瘍会合性マクロファージを標的とした糖連結光機能分子による光治療法の開発	片岡 洋望	消化器内科	¥800,000	補 文部科学省
慢性ウイルス性肝炎の病態把握(重症度・治療介入時期・治療効果判定・予後予測)のための非侵襲的病態診断アルゴリズムの確立	野尻 俊輔	肝・膵臓内科	¥280,000	委 近畿大学
肝線維化からみた肝発癌メカニズムの解明と新規治療法の開発	野尻 俊輔	肝・膵臓内科	¥1,200,000	補 文部科学省
PD-L1膜蛋白質輸送を制御するCUL3-BTBPの同定と作用機序解析	谷田 諭史	消化器内科	¥800,000	補 文部科学省
DNA修復機構を標的とした新規消化器癌治療の開発	久保田 英嗣	消化器内科	¥1,300,000	補 文部科学省
胃癌の形質発現に関するエピジェネティクスネットワークの解明	林 香月	肝・膵臓内科	¥1,500,000	補 文部科学省
肝組織に存在する4種類のB型肝炎ウイルスRNA定量測定系の開発	藤原 圭	肝・膵臓内科	¥2,000,000	補 文部科学省
胃型化・腸型化の分子メカニズム解明と幹細胞をターゲットとした分化誘導療法の開発	溝下 勤	消化器内科	¥700,000	補 文部科学省
胆管癌に対するFISH法を用いた新規内視鏡的診断方法とバイオマーカーの確立	内藤 格	肝・膵臓内科	¥900,000	補 文部科学省

小計13件

胃癌・大網相互コミュニケーションからみた胃癌腹膜播種メカニズムの解明	志村 貴也	消化器内科	¥900,000	補	文部科学省
siRNA screeningによる新規エピジェネティクス治療標的の探索	岡本 泰幸	消化器内科	¥1,100,000	補	文部科学省
BTB蛋白を介したCullin3 E3リガーゼの新たな消化器疾患メカニズムの解明	尾関 啓司	消化器内科	¥1,500,000	補	文部科学省
Amphiregulin核移行による抗癌剤耐性獲得メカニズムの解明と膀胱癌への応用	吉田 道弘	肝・膵臓内科	¥2,000,000	補	文部科学省
筋線維芽細胞の消化管幹細胞制御機構の解明とニッチ因子による上皮分化誘導への応用	片野 敬仁	消化器内科	¥1,600,000	補	文部科学省
癌細胞と腫瘍会合性マクロファージを標的とした光線力学的療法の癌性腹膜炎への応用	林 則之	消化器内科	¥1,500,000	補	文部科学省
肺癌化学療法の効果・副作用予測因子としての有機カチオントランススターの橋渡し研究	小栗鉄也	呼吸器・アレルギー内科	¥1,430,000	補	文部科学省
胃食道逆流症における咳嗽機序:食道粘膜のTRPV1発現と神経原性炎症の関与	竹村昌也	呼吸器・アレルギー内科	¥1,430,000	補	文部科学省
小細胞肺癌におけるネスチンの臨床的意義および治療標的としての研究	前野健	呼吸器・アレルギー内科	¥1,040,000	補	文部科学省
間質性肺炎における3次元CT構築画像と病理組織型の比較検討	大久保仁嗣	呼吸器・アレルギー内科	¥650,000	補	文部科学省
本邦におけるHFpEFの実態に関する多施設共同調査研究	大手 信之	循環器内科	¥500,000	委	国立循環器病センター
PETを用いた変事性不全における心臓交感神経β関する研究	後藤 利彦	循環器内科	¥800,000	補	独立行政法人日本学術振興会
左室収縮が保たれた心不全発症におけるバゾプレッシン分泌の臨床的意義の解明	北田 修一	循環器内科	¥1,700,000	補	独立行政法人日本学術振興会
多発性骨髄腫における分子標的薬の効果を予測する血液中バイオマーカーの同定	飯田真介	血液・腫瘍内科学	¥1,340,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計14件

革新的医薬品・医療機器・再生医療等製品実用化促進事業	飯田真介	血液・腫瘍内科学	¥3,000,000	補	厚生労働省
がん免疫療法における抗CCR4抗体によるTreg除去療法—抗体単独療法から複合免疫療法への医師主導治験—	飯田真介	血液・腫瘍内科学	¥6,750,000	委	日本医療研究開発機構
アミロイドーシスに関する調査研究	飯田真介	血液・腫瘍内科学	¥250,000	補	厚生労働省
高齢者多発性骨髄腫患者に対する至適な分子標的療法の確立と治療効果および有害事象を予測するバイオマーカーの探索的研究	飯田真介	血液・腫瘍内科学	¥9,500,000	委	日本医療研究開発機構
多発性骨髄腫に対する至適分子標的療法の確立とバイオマーカーの探索研究(26-A-4)	飯田真介	血液・腫瘍内科学	¥1,500,000	委	がん研究開発費
多発性骨髄腫の臨床ルシーケンス体制の確立とデータ共有	飯田真介	血液・腫瘍内科学	¥4,400,000	委	日本医療研究開発機構
モガムリズマブを用いた成人T細胞白血病リンパ腫に対する革新的治療法の確立	石田高司	血液・腫瘍内科学	¥3,900,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
リンパ系腫瘍・多発性骨髄腫に対する標準的治療確立のための多施設共同研究(26-A-4)	石田高司	血液・腫瘍内科学	¥400,000	委	がん研究開発費
成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)に対する新規治療を開発する医師主導治験	石田高司	血液・腫瘍内科学	¥850,000	委	日本医療研究開発機構
成人T細胞性白血病/リンパ腫(ATLL)に対しNY-ESO-1+AS15ASCIのモガムリズマブ併用での安全性と有効性探索のための医師主導治験(第I/II相)	石田高司	血液・腫瘍内科学	¥8,800,000	委	日本医療研究開発機構
モガムリズマブ治療後のB型肝炎ウイルス再活性化メカニズムの解明	楠本 茂	血液・腫瘍内科学	¥1,560,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
ゲノム網羅的解析によるB型肝炎ウイルス感染の病態関連遺伝子の同定と新規診断法の開発	楠本 茂	血液・腫瘍内科学	¥2,600,000	委	日本医療研究開発機構
B型肝炎ウイルス再活性化に関与するウイルス・宿主主要因の解明に基づく予防対策法の確立を目指す研究	楠本 茂	血液・腫瘍内科学	¥5,000,000	委	日本医療研究開発機構
Interim PETに基づく初発進行期ホジキンリンパ腫に対するABVD療法およびABVD/増量BEACOPP療法の非ランダム化検証的試験:JCOG1305試験	楠本 茂	血液・腫瘍内科学	¥1,500,000	委	日本医療研究開発機構

小計13件

プロテアソーム阻害剤獲得耐性機序の解明と耐性を克服する新規分子標的の探索研究	李 政樹	血液・腫瘍内科学	¥1,690,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
血中の抗炎症性脂質により腫瘍が分子標的薬に高感受性を示す作用機序	李 政樹	血液・腫瘍内科学	¥168,648	補	独立行政法人 日本学術振興会
モガムリズマブによる皮膚障害の病態解明	伊藤 旭	血液・腫瘍内科学	¥1,430,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
エフェクター制御性T細胞の統合的制御に基づく新たながん免疫治療法の確立	伊藤 旭	血液・腫瘍内科学	¥150,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
パーキンソン病の認知機能障害に対するメマンチンの治療効果の多角的検討	川嶋将司	神経内科	500,000	補	文部科学省
食道癌におけるポストゲノムシーケンスの変異遺伝子機能解析	木村昌弘	消化器・一般外科	¥1,000,000	補	文部科学省
食道癌におけるmicroRNAの機能解析	石黒秀行	消化器・一般外科	¥1,300,000	補	文部科学省
臨床応用を目的としたゲムシタピン耐性膵癌における癌幹細胞マーカーCXCR4の検討	竹山廣光	消化器・一般外科	¥1,100,000	補	文部科学省
癌関連線維芽細胞中のシグナル阻害による抗腫瘍効果	原 賢康	消化器・一般外科	¥900,000	補	文部科学省
臨床応用を目指した、膵癌血管新生におけるIGF1シグナルの解明	松尾洋一	消化器・一般外科	¥1,100,000	補	文部科学省
臨床応用を目的とした膵癌リンパ管新生メカニズムの解明	齊藤健太	消化器・一般外科	¥1,500,000	補	文部科学省
胸腺癌における発癌原因候補遺伝子の機能解析及び個別化治療法の確立	奥田 勝裕	呼吸器外科	¥1,000,000	補	文部科学省
肺葉切除術後胸腔ドレーン早期抜去の安全性	森山 悟	呼吸器外科	¥300,000	補	那古野医学振興会
神経芽腫におけるアダプター蛋白質Shfの機能解析と治療への応用	高木大輔	小児外科	¥1,000,000	補	文部科学省
心奇形患児の脳機能障害を回避する選択的脳灌流法の開発と成人への応用	三島 晃	心臓血管外科	¥1,381,052	補	文部科学省

小計14件

唾液を用いた乳癌の新規 検診モダリティーおよび新 規バイオマーカーの開発	遠山竜也	乳腺外科	¥3,700,000	補	日本学術 振興会
ホルモン療法低感受性乳 癌に対するマイクロRNA- 1290ノックダウン療法	波戸ゆかり	乳腺外科	¥3,700,000	補	日本学術 振興会
ホルモン療法抵抗性乳癌 における骨髄転移メカニ ズムの解明と新規分子標 的治療薬の開発	近藤直人	乳腺外科	¥3,700,000	補	日本学術 振興会
乳癌におけるタキサン耐 性機序の解明と新規分子 標的治療薬の開発	遠藤友美	乳腺外科	¥3,600,000	補	日本学術 振興会
乳癌に対する新規治療薬 の開発を目的としたマイクロ RNA-569ノックダウン療 法	西本真弓	乳腺外科	¥3,600,000	補	日本学術 振興会
骨代謝における低分子量 ストレス蛋白質の分子標 的の解析	大塚 隆信	整形外科	¥1,430,000	補	文部科学 省
ASIC1aノックアウトマウスを 用いた育児障害の研究	若林 健二郎	整形外科	¥1,040,000	補	文部科学 省
グリオスタチンは関節リウ マチの新規治療ターゲット となりうる	永谷 祐子	整形外科(関節リウマ チ寄附講座)	¥1,430,000	補	文部科学 省
グリオスタチンのシグナル カスケード制御による関節 リウマチ治療への応用	小林 正明	整形外科	¥1,560,000	補	文部科学 省
癌骨転移に対する新規治 療法の開発	三輪 真嗣	整形外科	¥1,300,000	補	文部科学 省
骨肉腫の転移巣形成機序 の解明と治療標的の探索	三輪 真嗣	整形外科	¥2,000,000	委	上原記念 生命科学 財団
小児悪性骨腫瘍に対する 低侵襲手術の開発	三輪 真嗣	整形外科	¥300,000	委	公益財団 法人がん の子どもを 守る会
骨壊死マウスモデルを用 いた分子レベルでの骨壊 死発症機序の解明とそれ に基づく治療法の開発	黒柳 元	整形外科	¥1,000,000	委	公益財団 法人日本リ ウマチ財団
骨壊死における病態解明 とそれに基づく治療法 の開発	黒柳 元	整形外科	¥3,600,000	委	上原記念 生命科学 財団
胎生期における脳性麻痺 に関する病態解明の研究	杉浦 真弓	産科婦人科	¥2,500,000	補	公益財団 法人 日母 おぎゃー献 金基金
卵巣癌の早期再発に関す るエピジェネティクス変化 の検討	間瀬 聖子	産科婦人科	¥500,000	補	一般財団 法人 愛知 健康増進 財団

小計15件

不育症における非侵襲的着床期子宮内膜機能臨床検査方法と新規関連バイオマーカーの開発	尾崎 康彦	産科婦人科	¥1,600,000	補	文部科学省
胚盤胞腔液内のDNAを用いた無侵襲性着床前診断技術の確立と臨床への応用	佐藤 剛	産科婦人科	¥1,200,000	補	文部科学省
子宮内膜の脱落膜化不全病態に関わるプロテアーゼの同定及び非侵襲的臨床診断法の開発	後藤 志信	産科婦人科	¥1,000,000	補	文部科学省
遺伝性腫瘍における医療格差の打開に必要なものは！？	大瀬戸 久美子	産科婦人科	¥1,100,000	補	文部科学省
不育症・ヒト生殖メカニズム解明のための共同研究拠点	杉浦 真弓	産科婦人科	¥5,615,198	補	厚生労働省
ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウム治療法の開発研究-試薬からの希少疾病治療薬開発の試み-	斎藤 伸治	小児科	¥620,000	委	AMED(学校法人久留米大学)
PRRT2遺伝子変異の臨床的解析・PRRT2遺伝子変異を有する患者の脳波学解析	斎藤 伸治	小児科	¥384,616	委	AMED(国立大学法人長崎大学)
希少・難治性疾患領域における臨床ゲノムデータストレージに整備に関する研究	斎藤 伸治	小児科	¥4,500,000	委	AMED(学校法人慶應義塾)
国際標準に立脚した奇形症候群領域の診療指針に関する学際的・網羅的検討	斎藤 伸治	小児科	¥1,000,000	補	厚労省科研費
小児の急性脳症・けいれん重積状態の診療指針の確立	斎藤 伸治	小児科	¥300,000	補	厚労省科研費
mTOR経路の異常により起こる巨脳症の診断法および治療法開発	斎藤 伸治	小児科	¥1,200,000	補	日本学術振興会(文科省科研費)
筋ジストロフィーにおける呼吸管理を病院と在宅との連携の視点から確立する	服部 文子	小児科	¥400,000	委	国立精神・神経医療研究センター
小児期発症の神経筋疾患における心拍変動解析の臨床応用	服部 文子	小児科	¥1,036,885	補	日本学術振興会(文科省科研費)
遅発型ボンペ症患者ハイリスクスクリーニング調査研究	服部 文子	小児科	¥183,924	委	国立精神・神経医療研究センター
小児ビタミンD欠乏症の実態把握と発症率の推定	水野 晴夫	小児科	¥250,000	補	厚労省科研費
先天性ゴナドトロピン分泌不全症男性の網羅的遺伝	水野 晴夫	小児科	¥2,068,372	補	日本学術振興会(文

小計15件

子解析と精子形成治療法 選択への応用	小児 成人	小児科	¥2,000,000	補	科省科研 費)
HTLV-I母子感染予防に 関する研究:HTLV-I抗 体陽性母体からの出生児 のコホート研究	杉浦 時雄	小児科	¥400,000	補	厚労省科 研費
新生児・乳児胆汁うっ滞に 対する新しい診断ストラテ ジーの確立	杉浦 時雄	小児科	¥500,000	補	日本学術 振興会(文 科省科研 費)
包括的遺伝子解析法によ る新生児・乳児胆汁うっ滞 疾患の原因遺伝子同定	遠藤 剛	小児科	¥1,100,000	補	日本学術 振興会(文 科省科研 費)
肺動脈性肺高血圧症にお ける線維性血管閉鎖病変 に対する治療薬の開発	篠原 務	小児科	¥1,400,000	補	日本学術 振興会(文 科省科研 費)
小児HBVキャリアーにお けるHBV遺伝子の網羅 的解析	伊藤 孝一	小児科	¥900,000	補	日本学術 振興会(文 科省科研 費)
抗原特異的T細胞に注目 したスギ舌下免疫療法の 作用機序の解明	野村 孝泰	小児科	¥1,147,080	補	日本学術 振興会(文 科省科研 費)
網膜脈絡膜・視神経萎縮 症に関する調査研究	小椋 祐一郎	眼科	¥100,000	補	国立保健 医療科学 院
生体内滞留性ガスを用い た薬物徐放システムの開 発	小椋 祐一郎	眼科	¥2,500,000	補	国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
新規糖尿病網膜症モデル マウスの開発と創薬コンセ プトの確立	小椋 祐一郎	眼科	¥5,590,000	補	独立行政 法人 日 本学術振 興会
ペリサイト消失による血液 網膜関門の不可逆的波状	植村 明嘉	眼科	¥7,930,000	補	独立行政 法人 日 本学術振 興会

小計14件

網膜新生血管における内皮細胞ダイナミクスの解析	植村 明嘉	眼科	¥2,340,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
硝子体血管の異所性網膜内進入によるPHPV発症機序の解明	吉田 宗徳	眼科	¥1,690,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
加齢黄斑変性の病態におけるブルッフ膜への加齢性沈着脂質の役割の解明	安川 力	眼科	¥1,820,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
ケモカイン受容体を標的にした眼内血管新生制御機構の解明と新規治療法の開発	野崎 実穂	眼科	¥1,690,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
加齢黄斑変性におけるブルッフ膜修復過程の解明へ～Gタンパクの役割～	加藤 亜紀	眼科	¥1,950,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
加齢黄斑変性における炎症とアポトーシスの関与解明と新規治療法開発	平野 佳男	眼科	¥1,690,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
組織プラスミノゲン活性化因子による脈絡膜血管新生抑制	水谷 武史	眼科	¥1,040,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
培養網膜色素上皮シートへのROCK inhibitor応用シート安定化と移植へ	臼井 英晶	眼科	¥780,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
Fasリガンドを介したアポトーシス制御による加齢黄斑変性の新規治療法開発	平野 佳男	眼科	¥2,000,000	補	公益財団法人 武田科学振興財産
加齢黄斑変性における炎症とアポトーシスの関与解明	平野 佳男	眼科	¥3,000,000	補	公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団
マクロファージによる血液網膜関門の破綻機構の解明	植村 明嘉	眼科	¥5,000,000	補	公益財団法人 大幸財団
糖尿病網膜症における血管網膜関門の破綻機構の解明	植村 明嘉	眼科	¥1,000,000	補	公益財団法人 先進医薬研究振興財団
経頭蓋磁気刺激を用いた顔面神経麻痺の新たなリハビリテーションの開発	村上 信五	耳鼻咽喉科	¥3,600,000	補	文部科学省
カルシウムチャネル修飾薬の聴覚増強作用の検討	稲垣 彰	耳鼻咽喉科	¥2,600,000	補	文部科学省
聴覚前庭系に発現するカルシウムチャネルの機能とその薬理的制御に関する包括的解析	稲垣 彰	耳鼻咽喉科	¥3,000,000	補	文部科学省
嗅神経鞘細胞と生体吸収性ハイドロゲルを用いた顔面神経麻痺モデルマウスへの効果	勝見 さち代	耳鼻咽喉科	¥3,000,000	補	文部科学省

小計15件

神経栄養因子を導入した鼻粘膜由来組織幹細胞による末梢神経再生の研究	濱島 有喜	耳鼻咽喉科	¥700,000	補	特別研究奨励費
ふらつき改善・転倒防止用ヘルメット型前庭補助装置の開発	蒲谷 嘉代子	耳鼻咽喉科	¥450,000	補	特別研究奨励費
細菌感染に対する吻合部血栓形成:機序の解明と対策	鳥山 和宏	形成外科	¥3,900,000	補	文部科学省
乾癬の病態における制御性T細胞とIL-17産生細胞の役割	西田 絵美	皮膚科	¥3,770,000	補	文部科学省
フォトフェレーズ用新紫外光照射装置の研究開発	森田 明理	皮膚科	¥2,500,000	委	名古屋大学 AMED
精巣腫瘍のLSD1による増殖機構解明とその阻害剤による治療法開発のための基礎研究	秋田 英俊	泌尿器科	¥1,900,000	補	文部科学省
拡散強調画像併用MRIで同定しうる膀胱癌の分子プロファイル解明と新規診断法の樹立	永田 大介	泌尿器科	¥1,500,000	補	文部科学省
ゲノム不安定性に着目した浸潤性膀胱がん遺伝子治療法の開発	山田 健司	泌尿器科	¥1,600,000	補	文部科学省
天然食品由来抗酸化フラボノイドの前立腺癌予防に関わる分子基盤	内木 拓	泌尿器科	¥1,900,000	補	文部科学省
尿道下裂の遺伝子制御機構の解明と遺伝子導入細胞シートを用いた新規手術法の開発	黒川 寛史	泌尿器科	¥2,000,000	補	文部科学省
腎臓分化誘導因子が関わる結石形成機序の解明と治療法への応用	藤井 泰普	泌尿器科	¥2,400,000	補	文部科学省
エストロゲンの抗酸化作用に着目した新規尿路結石予防法の解明と臨床応用	広瀬 真仁	泌尿器科	¥2,000,000	補	文部科学省
体細胞に着目した精子形成メカニズムの解明と男性不妊症治療への新規開拓	神谷 浩行	泌尿器科	¥1,500,000	補	文部科学省
セルトリ細胞の分化・成熟メカニズムの包括的解明と生殖医療への新展開	林 祐太郎	泌尿器科	¥1,600,000	補	文部科学省
男性不妊症治療へ向けた精巣へのin vivo及びex vivo遺伝子導入法の確立	岩月 正一郎	泌尿器科	¥1,700,000	補	文部科学省
浸潤性膀胱がんに対する磁性ナノ粒子と免疫治療を用いた新しい治療法の開発	小林 大地	泌尿器科	¥1,600,000	補	文部科学省

小計15件

幼若期における精子幹細胞とセルトリ細胞の相互作用の解明と男性不妊症の新規治療戦略	加藤 大貴	泌尿器科	¥1,300,000	補	文部科学省
セルトリ細胞の分化・成熟メカニズムの包括的解明と細胞療法への展開	林 祐太郎	泌尿器科	¥1,050,000	補	特別研究奨励費
Nrf2酸化ストレス応答系の尿路結石形成への関与と治療への応用	戸澤 啓一	泌尿器科	¥690,000	補	特別研究奨励費
低活動膀胱に対する幹細胞因子(SCF)を介した新たな分子標的治療薬の開発	窪田 泰江	泌尿器科	¥630,000	補	特別研究奨励費
ロボット手術と尿路結石予防法の開発を目指した日中共同研究	安井 孝周	泌尿器科	¥275,000	補	特別研究奨励費
前立腺肥大症の診断マーカーとしての細胞外マトリックスTSP-1の検討と臨床応用	濱川 隆	泌尿器科	¥500,000	委	一般社団法人日本泌尿器科学会
緑茶によるインスリン抵抗性改善に着目した尿路結石予防法の開発	安藤 亮介	泌尿器科	¥400,000	委	公益財団法人東洋医学研究財団
特定健診におけるインスリン抵抗性測定の評価と尿路結石予防法への応用	安井 孝周	泌尿器科	¥1,000,000	委	公益財団法人三井生命厚生財団
精子幹細胞の分化メカニズムの包括的解明と男子不妊症に対する新規治療薬戦略の開発	水野 健太郎	泌尿器科	¥2,000,000	委	公益財団法人武田科学振興財団
尿路結石予防薬開発のための腎結石形成過程におけるオートファジーの機能解析	海野 怜	泌尿器科	¥300,000	委	公益財団法人愛知腎臓財団
ヒト停留精巣における精祖細胞(gonocyte)分化異常の解明	守時 良演	泌尿器科	¥400,000	委	公益財団法人金原一郎記念医学医療振興財団
メタボリックシンドロームにおける尿路結石の形成促進と褐色脂肪細胞の誘導による新規予防法の開発	岡田 淳志	泌尿器科	¥500,000	委	一般財団法人愛知健康増進財団
オートファジー制御を応用した尿路結石に対する新規治療薬の開発	海野 怜	泌尿器科	¥900,000	委	一般財団法人東海産業技術振興財団
尿路結石の形成機序解明による発症バイオマーカーの開発	安井 孝周	泌尿器科	¥500,000	委	公益財団法人健康科学財団
腎乳頭石灰化組織(Randall's plaque)における尿路結石形成に対する責任遺伝子の網羅的解析と結石貪食作用を担うマクロファージ関連分子のオミックス解析	瀨本 周造	泌尿器科	¥500,000	委	公益財団法人市原国際奨学財団
汎用性のある系統的な苦痛のスクリーニング手法の確立とスクリーニング効果	田知 詔里	精神科	¥500,000	補	厚生労働

小計15件

に基づいたトリアージ体制の構築と普及に関する研究	氏名	科	予算(円)	種別	省
致死的疾患の再発・転移の不安、恐怖の評価法の確立および新規心理学的介入方法の開発	明智 龍男	精神科	¥1,400,000	補	文部科学省
人生において一度だけの重大かつ困難な意思決定に際して医師に求められる望まし態度	明智 龍男	精神科	¥900,000	補	文部科学省
高齢がん患者の在宅療養を阻む要因の早期発見: 認知機能障害の観点から	明智 龍男	精神科	¥800,000	補	公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団
小児がん患者・家族に対する新たなサポートシステムおよびケア方法の開発研究	明智 龍男	精神科	¥500,000	補	公益財団法人日本対がん協会
乳がんサバイバーの経験する再発不安・恐怖の緩和に資する新たな心理的介入方法の開発	明智 龍男	精神科	¥1,000,000	補	公益財団法人がん研究振興財団
乳がんサバイバーの再発不安・恐怖に対する Information and communication technology(ICT)を応用した問題解決療法の有用性に関する予備的検討	明智 龍男	精神科	¥4,200,000	補	特別研究奨励費
重篤な身体疾患に罹患した高齢者における、病状悪化に備えた事前意思決定に関する研究	奥山 徹	精神科	¥900,000	補	文部科学省
摂食障害地域家族会の治療的要素の解明: コホート研究デザインによる症状改善率の評価	山田 敦朗	精神科	¥150,000	補	文部科学省
パニック障害併存症に対する認知行動療法の効果予測因子	小川 成	精神科	¥1,200,000	補	文部科学省
進行・再発がん患者の意思決定を支えるウェブツールの開発	内田 恵	精神科	¥600,000	補	文部科学省
強迫性障害におけるメタ認知の神経基盤と認知行動療法への応用の検討	橋本 伸彦	精神科	¥800,000	補	文部科学省
慢性めまいに対する新世代認知行動療法: 無作為化比較試験による効果検証と病態解明	近藤 真前	精神科	¥1,000,000	補	文部科学省
早期精神病の家族負担軽減のための新規介入の開発とRCTによる効果研究	白石 直	精神科	¥600,000	補	文部科学省
難治性パニック障害に対する新規心理療法の開発研究と効果検証	井野 敬子	精神科	¥900,000	補	文部科学省
ゲーミフィケーションを用いた抗不安薬中止のためのWebプログラム: 無作為割付試験	伊井 俊貴	精神科	¥1,300,000	補	文部科学省

小計14件

拒絶過敏性を愛着の問題として介入する否定型うつ病の対人関係療法の開発と効果検証	今井 理紗	精神科	¥900,000	補	文部科学省
身体心理学的アプローチを取り入れた看護師のストレスケアプログラムの開発と効果検証	中口 智博	精神科	¥900,000	補	文部科学省
陽子線治療における生物学的現象の徹底解明 ～ X線生物学との比較～	芝本 雄太	放射線科	¥1,100,000	補	文部科学省
最新陽子線治療技術下の超寡分割照射と長時間間歇照射と適応応答の影響と臨床応用	杉江 愛生	放射線科	¥1,000,000	補	文部科学省
初発孤立性肝細胞癌に対する体幹部定位放射線治療の有効性を検証する多施設共同試験	石倉 聡	放射線科	¥850,000	補	文部科学省
小児転生心疾患に対する高速二重螺旋状スキャン使用下心電同期CTの臨床応用	中川 基生	放射線科	¥900,000	補	文部科学省
縦隔腫瘍におけるmonoenergetic CTを用いた画像診断法の確立	小澤 良之	放射線科	¥500,000	補	文部科学省
肺動静脈奇形に対する根治治療:ハイドロコイルによる再開通しない寒栓術の確立	下平 政史	放射線科	¥500,000	補	文部科学省
新しいMRI手法を用いた腫瘍内低酸素イメージングの開発	村井 太郎	放射線科	¥600,000	補	文部科学省
ステントグラフト内挿術:数値による周術期の新たな下肢血流評価方法の確立	鈴木 一史	放射線科	¥800,000	補	文部科学省

小計14件

超音波エラストグラフィによる乳房硬化の評価と患者ケアおよび効果判定モデルの構築	浦野 みすぎ	放射線科	¥1,500,000	補	文部科学省
認知症患者に対する安全な麻酔法と周術期の増悪予防法の確立	祖父江 和哉	麻酔科	¥1,450,000	補	文部科学省
糖尿病患者における術後痛増強への酸感受性イオンチャネルの関与の解析	草間 宣好	麻酔科	¥1,160,000	補	文部科学省
抗酸化作用に注目した人工呼吸器関連肺障害予防法の開発	平手 博之	麻酔科	¥1,040,000	補	文部科学省
水チャネルに注目した重症感染症に伴う中枢神経障害の発症機序解明と新規治療法の開発	徐 民恵	麻酔科	¥1,040,000	補	文部科学省
ミクログリアを介したエリスロポエチンの脳保護作用機序の解明と治療薬開発の基盤研究	田村 哲也	麻酔科	¥1,170,000	補	文部科学省
周術期脳傷害に対する再生医療の応用を目指した基礎的研究	太田 晴子	麻酔科	¥910,000	補	文部科学省
術後有害事象レジストリによる麻酔後ケアユニットの有用性検証	仙頭 佳起	麻酔科	¥1,170,000	補	文部科学省
糖尿病患者における術後認知機能障害の発症機序の解明と予防法の確立	森島 徹朗	麻酔科	¥1,690,000	補	文部科学省
MicroRNAプロファイリングによる頸動脈石灰化粥腫の安定化機構の解明	片野 広之	脳神経外科	¥1,400,000	補	文部科学省
正常圧水頭症患者における髄液中水分子のターンオーバー解析	間瀬 光人	脳神経外科	¥800,000	補	リハビリテーション研究基金 研究事業 等助成金
食品成分からの口腔がん予防活性化化合物の探索法確立と単離道程	渋谷 恭之	口腔外科	¥6,500,000	補	文部科学省
光線力学療法を応用した新規インプラント周囲炎治療法の開発	堀井 幸一郎	口腔外科	¥5,000,000	補	文部科学省
錯覚を利用した感覚運動統合リハビリテーションシステムの開発	和田郁雄	リハビリテーション科	¥5,070,000	補	文部科学省
難治性脊柱変形の病態解明と脊柱変形手術低侵襲化への集学的挑戦	水谷 潤	リハビリテーション科	¥2,210,000	補	文部科学省

小計15件

TDP-43分子病変の時空間解析技術の創出と、そのFTLD早期診断への応用	植木美乃	リハビリテーション科	¥1,950,000	補	文部科学省
C型肝炎の新たな治療関連因子及び治癒後の病態進展・改善に関連する宿主因子等の同定を目指したゲノムワイド研究	田中 靖人	中央臨床検査部	¥24,000,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
B型肝炎ウイルスの持続感染を再現する効率的な培養細胞評価系の開発に関する研究	田中 靖人	中央臨床検査部	¥101,000,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)

小計3件

合計189件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Mizoshita T, Tanida S, Ozeki K, et al	消化器内科	Long-Term Clinical Remission in Biologically Naive Crohn's Disease Patients with Adalimumab Therapy, Including Analyses of Switch from Adalimumab to Infliximab	Case Rep Gastroenterol:2016;10:283 -91	Case report
2	N.Hayashi, H.Kataoka, S.Yano,et al	消化器内科	Anti-cancer effects of a new aminosugar- conjugated platinum complex agent against cisplatin- resistant gastric cancer.	Anticancer Res. 2016;36: 6005-6010.	Original Article
3	Kataoka H,et al	消化器内科	A multicenter phase II study of salvage photodynamic therapy using talaporfin sodium (ME2906) and a diode laser (PNL6405EPG) for local failure after chemoradiotherapy or radiotherapy for esophageal cancer.	Oncotarget. 2017 Mar 28;8(13):22135-22144. doi: 10.18632/oncotarget.1402 9	Original Article
4	Kataoka H, et al	消化器内科	Photodynamic Therapy Using Novel Glucose-conjugated Chlorin Increases Apoptosis of Cholangiocellular Carcinoma in Comparison with Talaporfin Sodium.	Anticancer Res. 2016; 36(9): 4493-501, 2016.	Original Article
5	Kamiya T, et al	消化器内科	Persistent reflux symptoms cause anxiety, depression, and mental health and sleep disorders in gastroesophageal reflux disease patients.	J Clin Biochem Nutr. 2016 ;59(1):71-7.	Original Article

6	Hori Y, Naitoh I, Hayashi K, et al	肝・膵内科	Predictors of outcomes in patients undergoing covered and uncovered self-expandable metal stent placement for malignant gastric outlet obstruction: a multicenter study.	.Gastrointest Endosc. 2016 Jul 27. pii: S0016-5107(16)30433-3. doi: 10.1016/j.gie.2016.07.048	Case report
7	Tanaka M, Kataoka H, Yano S, et al	消化器内科	Immunogenic cell death due to a new photodynamic therapy (PDT) with glycoconjugated chlorin (G-chlorin)	.Oncotarget. 2016 May 30. doi: 10.18632/oncotarget.9725	Original Article
8	Kataoka H, Mori Y, Shimura T, et al	消化器内科	A phase II prospective study of the trastuzumab combined with 5-weekly S-1 and CDDP therapy for HER2-positive advanced gastric cancer.	Cancer Chemother Pharmacol. 2016 ;77(5):957-62.	Original Article
9	Kataoka H, et al	消化器内科	Maltotriose-conjugation to a fluorinated chlorin derivative generating a PDT photosensitizer with improved water-solubility.	Org Biomol Chem. 2016 ;14(14):3608-13.	Original Article
10	Joh T, Kataoka H, Kubota E, et al	消化器内科	Questionnaire-Based Survey on Diagnostic and Therapeutic Endoscopies and H. pylori Eradication for Elderly Patients in East Asian Countries.	Digestion. 2016; 93(1):93-102.	Original Article
11	Kataoka H, et al	消化器内科	Autonomic nervous responses in colorectal polypectomy: Randomized control trial comparing air and carbon dioxide insufflation.	Dig Endosc. 2016; 28: 203-209.	Original Article
12	Nishie H, Kataoka H, Yano S et al	消化器内科	1A next-generation bifunctional photosensitizer with improved water-solubility for photodynamic therapy and diagnosis.	Oncotarget. 2016 Nov 8;7(45):74259-74268. doi: 10.18632/oncotarget.12366.	Original Article

13	Katano T, Mizoshita T, Tsukamoto H, et al	消化器内科	Ectopic Gastric and Intestinal Phenotypes, Neuroendocrine Cell Differentiation, and SOX2 Expression Correlated With Early Tumor Progression in Colorectal Laterally Spreading Tumors.	Clin Colorectal Cancer. 2017 Jun;16(2):141-146. doi: 10.1016/j.clcc.2016.09.009. Epub 2016 Oct 6.	Original Article
14	Tanida S, Takemura M, Mizoshita T et al	消化器内科	Organizing Pneumonia in a patient with quiescent Crohn's disease.	Case Rep Gastrointest Med. 2016;2016:8129864. doi: 10.1155/2016/8129864. Epub 2016 Jun 20.	Original Article
15	Tanida S, Mizoshita T, Nishie H, et al	消化器内科	Long-Term Efficacy of Adalimumab in Patients With Intestinal Behcet's Disease: Eight Consecutive Cases.	Clin Med Res. 8(4):334-337, 2016	Original Article
16	Naitoh I, Nakazawa T, Okumura F,	肝・膵内科	Endoscopic retrograde cholangiopancreatography-related adverse events in patients with type 1 autoimmune pancreatitis.	.Pancreatology. 2016;16:78-82.	Original Article
17	Naitoh I, Nakazawa T, Kato A, et al	肝・膵内科	Predictive factors for positive diagnosis of malignant biliary strictures by transpapillary brush cytology and forceps biopsy.	Dig Dis. 2016;17:44-51	Original Article
18	Kondo H, Naitoh I, et al	肝・膵内科	Clinical features of acute obstructive suppurative pancreatic ductitis: a retrospective review of 20 cases	Gastroenterol Hepatol. 2016;31:1366-73.	Original Article
19	Hori Y, Hayashi K, Yoshida M, et al	肝・膵内科	New concept of traction force applied to biliary self-expandable metallic stents.	.Endoscopy. 2016;48:472-6.	Original Article
20	.Kondo H, Naitoh I, et al	肝・膵内科	Development of fatal systemic gas embolism during direct peroral cholangioscopy under carbon dioxide insufflation	.Endoscopy. 2016;48 Suppl 1:E215-6	Original Article

21	Kato A, Hayashi K, et al	肝・膵内科	Neuroendocrine carcinoma of the ampulla of Vater causing ectopic adrenocorticotrophic hormone-dependent Cushing's syndrome.	Mol Clin Oncol. 2016;5:113-116.	Original Article
22	Yoshida M, et al	肝・膵内科	Transgenic Expression of Human Lysophosphatidic Acid Receptor LPA2 in Mouse Intestinal Epithelial Cells Induces Intestinal Dysplasia.	.PLoS One. 2016 Apr 28;11(4):e0154527	Original Article
23	Yoshida M, et al	肝・膵内科	Deletion of Na ⁺ /H ⁺ exchanger regulatory factor 2 represses colon cancer progress by suppression of Stat3 and CD24.	2016 Apr15;310(8):G586-98.	Original Article
24	Hori Y, Naitoh I, Hayashi K, et al	肝・膵内科	Predictors of outcomes in patients undergoing covered and uncovered self-expandable metal stent placement for malignant gastric outlet obstruction: a multicenter study.	.Gastrointest EndoscVolume 85, Issue 2, February 2017, Pages 340-348.e1	Original Article
25	Hori Y, Hayashi K, Yoshida M, et al	肝・膵内科	Novel characteristics of traction force in biliary self-expandable metallic stents.	.Dig Endosc. 2016	Original Article
26	Nojiri S, Fujiwara K, et al	肝・膵内科	Effects of branched-chain amino acid supplementation after radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma: A randomized trial.	Nutrition Volume 33, January 2017, Pages 20-27	Original Article
27	Matsunami K, et al	肝・膵内科	Genome-Wide Association Study Identifies ZNF354C Variants Associated with Depression from Interferon-Based Therapy for Chronic Hepatitis C.	PLoS one. 2016; 11 (10): e0164418	Original Article
28	Iio E, et al	肝・膵内科	Efficacy of daclatasvir/asunaprevir according to resistance-associated variants in chronic hepatitis C with genotype 1.	;52(1):94-103. doi: 10.1007/s00535-016-1225-x	Original Article

29	Sone K, Oguri T, Nakao M, et al	呼吸器・アレルギー内科	CYFRA 21-1 as a Predictive Marker for Non-small Cell Lung Cancer Treated with Pemetrexed-based Chemotherapy	Anticancer Res. 2017 Feb;37(2):935-939.	Original Article
30	Ohkubo H, Okayama M, Fukumitsu K, et al	呼吸器・アレルギー内科	Summer-type hypersensitivity pneumonitis in a patient with rheumatoid arthritis on methotrexate and tacrolimus.	Respirol Case Rep.2016 Oct;4(6):e00194	Case report
31	Fukuda S, Oguri T, Kunii E, et al	呼吸器・アレルギー内科	A folypoly- γ -glutamate synthase single nucleotide polymorphism associated with response to pemetrexed treatment combined with platinum for non-small cell lung cancer.	Lung Cancer. 2016 Dec;102:15-20.	Original Article
32	Kanemitsu Y, Matsumoto H, Osman N, et al	呼吸器・アレルギー内科	"Cold air" and/or "talking" as cough triggers, a sign for the diagnosis of cough variant asthma.	Respir Investig. 2016 Nov;54(6):413-418.	Original Article
33	Oguri T, Kunii E, Fukuda S, et al	呼吸器・アレルギー内科	Organic cation transporter 6 directly confers resistance to anticancer platinum drugs.	Biomed Rep. 2016 Nov;5(5):639-643.	Original Article
34	Takemura M, Niimi A, Matsumoto H, et al	呼吸器・アレルギー内科	Imbalance of endogenous prostanoids in moderate-to-severe asthma.	Allergol Int. 2017 Jan;66(1):83-88.	Original Article
35	Kanemitsu Y, Niimi A, Matsumoto H	呼吸器・アレルギー内科	Gastroesophageal dysmotility is associated with the impairment of cough-specific quality of life in patients with cough variant asthma.	Allergol Int. 2016 Jul;65(3):320-6.	Original Article
36	Ito Y, Nagao M, Iinuma Y, et al	呼吸器・アレルギー内科	Risk factors for nosocomial tuberculosis transmission among health care workers.	Am J Infect Control. 2016 May 1;44(5):596-8.	Original Article
37	Takemura M, Inoue D, Takamatsu K, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Co-existence and seasonal variation in rhinitis and asthma symptoms in patients with asthma.	Respir Investig. 2016 Sep;54(5):320-6.	Original Article

38	Tanida S, Takemura M (co-first author), Mizoshita T, et al	呼吸器・アレルギー内科	Organizing Pneumonia in a Patient with Quiescent Crohn's Disease.	Case Rep Gastrointest Med. 2016;2016:8129864.	Case report
39	Naniwa T, Iwagaitu S, Kajiura M	リウマチ・膠原病内科	Efficacy of add-on tacrolimus on methotrexate to maintain clinical remission after rediscontinuation of a tumor necrosis factor inhibitor in rheumatoid arthritis patients who relapsed shortly after discontinuation of the same tumor necrosis factor inhibitor due to clinical remission.	Mod Rheumatol. 2017;27:29-34.	Original Article
40	Iwagaitu S, Naniwa T, Maeda S et al	リウマチ・膠原病内科	A comparative analysis of two interferon- γ releasing assays to detect past tuberculosis infections in Japanese rheumatoid arthritis patients.	Mod Rheumatol. 2016;26:690-5.	Original Article
41	Naniwa T, Iwagaitu S, Tamechika S, et al.	リウマチ・膠原病内科	Signs of forefeet joint synovitis have a limited impact on patient's perception of rheumatoid arthritis disease activity and acute- phase reactants.	Mod Rheumatol. 2016;26(2):200-5.	Original Article
42	Naniwa T, Tamechika S, Okazaki Y, et al.	リウマチ・膠原病内科	Coexistence of anti- melanoma differentiation- associated gene 5 and anti-aminoacyl- transfer RNA synthetase antibodies in a patient with dermatomyositis and rapidly progressive and relapsing interstitial lung disease	Mod Rheumatol Case Rep 2017;1:3-8 Published online: 24 Jan 2017 (Online only)	Case report
43	Hachiya K, Wakami K, Yoshida A, et al.	循環器内科	Infected Aortic Aneurysm Mimicking Anti-proteinase 3- Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-associated Vasculitis.	Intern Med. 2016;55(23):3465-3469. Epub 2016 Dec 1.	Case report

44	Ito T, Ohte N.	循環器内科	Reply to the letter to editor "Impact of epicardial adipose tissue volume quantified by non-contrast electrocardiogram-gated computed tomography on ergonovine-induced epicardial coronary artery spasm".	Int J Cardiol. 2017 Feb 15;229:41. doi: 10.1016/j.ijcard.2016.11.293. Epub 2016 Nov 17.	Others
45	Fukuta H, Goto T, Wakami K, et al.	循環器内科	The effect of beta-blockers on mortality in heart failure with preserved ejection fraction: A meta-analysis of observational cohort and randomized controlled studies.	Int J Cardiol. 2017 Feb 1;228:4-10. doi: 10.1016/j.ijcard.2016.11.239. Epub 2016 Nov 11.	Original Article
46	Kitada S, Kikuchi S, Sonoda H, et al.	循環器内科	Elevation of arginine vasopressin levels following loop diuretic therapy as a prognostic indicator in heart failure.	J Int Med Res. 2016 Dec;44(6):1430-1442. doi: 10.1177/0300060516663779. Epub 2016 Oct 27.	Original Article
47	Goto T, Wakami K, Mori K,	循環器内科	Vascular Physiology according to Clinical Scenario in Patients with Acute Heart Failure: Evaluation using the Cardio-Ankle Vascular Index.	Tohoku J Exp Med. 2016;240(1):57-65. doi: 10.1620/tjem.240.57.	Original Article
48	Sugiura T, Dohi Y, Yamashita S, et al.	循環器内科	A case report of asymptomatic aortic thrombosis incidentally detected by computed tomography in apparently healthy subject with a history of cancer surgery.	Thromb J. 2016 Aug 2;14:16. doi: 10.1186/s12959-016-0090-4. eCollection 2016.	Case report
49	Ito T, Fujita H, Ichihashi T, et al.	循環器内科	Impact of epicardial adipose tissue volume quantified by non-contrast electrocardiogram-gated computed tomography on ergonovine-induced epicardial coronary artery spasm.	Int J Cardiol. 2016 Oct 15;221:877-80. doi: 10.1016/j.ijcard.2016.07.139. Epub 2016 Jul 9.	Original Article
50	Sugiura T, Dohi Y, Takase H, et al.	循環器内科	Serum levels of Mac-2 binding protein increase with cardiovascular risk and reflect silent atherosclerosis.	Atherosclerosis. 2016 Aug;251:192-196. doi: 10.1016/j.atherosclerosis.2016.06.027. Epub 2016 Jun 16.	Original Article

51	Ichihashi T, Ito T, Murai S, et al.	循環器内科	Acute myocardial infarction due to spontaneous, localized, acute dissection of the sinus of Valsalva detected by intravascular ultrasound and electrocardiogram-gated computed tomography.	Heart Vessels. 2016 Sep;31(9):1570-3. doi: 10.1007/s00380-015-0787-5.	Original Article
52	Ito T, Fujita H, Ichihashi T, et al.	循環器内科	Electrocardiographic changes associated with takotsubo cardiomyopathy in a patient with pre-existing left bundle branch block.	Heart Vessels. 2016 Aug;31(8):1393-6. doi: 10.1007/s00380-015-0766-x.	Case report
53	Goto T, Wakami K, Fukuta H, et al.	循環器内科	Patients with left ventricular ejection fraction greater than 58 % have fewer incidences of future acute decompensated heart failure admission and all-cause mortality.	Heart Vessels. 2016 May;31(5):734-43. doi: 10.1007/s00380-015-0657-1.	Original Article
54	Ito T, Murai S, Fujita H, et al.	循環器内科	Fractional flow reserve-guided percutaneous coronary intervention for an intermediate stenosis complicated by a coronary-to-pulmonary artery fistula.	Heart Vessels. 2016 May;31(5):816-8. doi: 10.1007/s00380-015-0641-9.	Case report
55	Fukuda M, Hotta O, Mizuno M,et al.	腎臓内科	Immunosuppressive therapy for active IgA nephropathy is effective and safe, even in "elderly" patients.	Clin Exp Nephrol. 2016 Dec;20(6):832-834.	Others
56	Miura T, Fukuda M, Mizuno M, Ohte N	腎臓内科	Need for public awareness of low birth weight and bottle-feeding milk	Hypertens Res. 2016 Nov; 39(11):825-826.	Letter
57	Fuwa D, Fukuda M, Ogiyama Y,et al.	腎臓内科	Addition of hydrochlorothiazide to angiotensin receptor blocker therapy can achieve a lower sodium balance with no acceleration of intrarenal renin angiotensin system in patients with chronic kidney disease.	J Renin Angiotensin Aldosterone Syst. 2016 Jun 9;17(2):1470320316652032. doi: 10.1177/1470320316652032. Print 2016 Apr-Jun.	Original Article

58	Fukuda M, Ogiyama Y, Sato R, et al.	腎臓内科	L/T-type calcium channel blocker reduces non-Gaussianity of heart rate variability in chronic kidney disease patients under preceding treatment with ARB.	J Renin Angiotensin Aldosterone Syst. 2016 Apr 18;17(2):1470320316643905. doi: 10.1177/1470320316643905. Print 2016 Apr-Jun.	Original Article
59	Totani H, Kusumoto S, Tanaka Y, et al.	血液・腫瘍内科	The value of serum Wisteria floribunda agglutinin-positive human Mac-2-binding protein as a predictive marker for hepatitis C virus-related complications after systemic chemotherapy.	Int J Hematol 2016;104:384-391.	Original Article
60	Iida S, Ogiya D, Abe Y, et al.	血液・腫瘍内科	Dose-escalation study of tabalumab with bortezomib and dexamethasone in Japanese patients with multiple myeloma.	Cancer Sci 2016;107:1281-1289.	Original Article
61	Iida S, Tobinai K, Taniwaki M, et al.	血液・腫瘍内科	Phase I dose escalation study of high dose carfilzomib monotherapy for Japanese patients with relapsed or refractory multiple myeloma.	Int J Hematol 2016;104:596-604.	Original Article
62	Iida S, Nagai H, Kinoshita G, et al.	血液・腫瘍内科	Elotuzumab with lenalidomide and dexamethasone for Japanese patients with relapsed/refractory multiple myeloma: phase 1 study.	Int J Hematol 2017;105(3):326-334.	Original Article
63	Iida S.	血液・腫瘍内科	Guest Editorial "Progress in Hematology" Mechanisms of action and resistance for multiple myeloma novel drug treatments.	Int J Hematol 2016: 104(3) : 271-272.	Review
64	Ishida T1, Fujiwara H1, Nosaka K, et al.	血液・腫瘍内科	Multicenter Phase II Study of Lenalidomide in Relapsed or Recurrent Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma : ATLL-002.	J Clin Oncol. 2016: 34(34):4086-4093.	Original Article

65	Ohno Y, Oomura M, Sakurai K, et al	神経内科	Hyperdense Vessel Signs Showing Migration of a Thrombus.	Intern Med.2016 Jun; 56:465-466	Case report
66	Fujioka T, Kaneko N, Ajioka I, et al	神経内科	β 1 integrin signaling promotes neuronal migration along vascular scaffolds in the post-stroke brain.	EBioMedicine. 2017 Feb;16:195-203	Others
67	Uchida Y, Kato D, Toyoda T, et al	神経内科	Combination of ketogenic diet and stiripentol for super-refractory status epilepticus: A case report.	J Neurol Sci. 2017 Feb 15;373:35-37	Case report
68	Morimoto M, Matsuo Y, Koide S,他	消化器・一般外科	Enhancement of the CXCL12/CXCR4 axis due to acquisition of gemcitabine resistance in pancreatic cancer: effect of CXCR4 antagonists.	BMC Cancer 2016 16(1) 1-13	Original Article
69	Sato T, Saiura A, Inoue Y,他	消化器・一般外科	Distal pancreatectomy with En Bloc resection of the celiac axis with preservation or reconstruction of the left gastric artery in patients with pancreatic body cancer.	World J Surg 2016 40(9) 2245-2253	Original Article
70	Sugiyama Y, Sakamoto N, Ohsawa M,他	消化器・一般外科	A retrospective study on the effectiveness of switching to oral methadone for relieving severe cancer-related neuropathic pain and limiting adjuvant analgesic use in Japan.	J Palliat Med 2016 1-9	Original Article
71	Sato T, Matsuo Y, Shiga K,他	消化器・一般外科	Factors that predict the occurrence of and recovery from non-alcoholic fatty liver disease after pancreatoduodenectomy.	Surgery 2016 160(2) 318-330	Original Article
72	Takahashi H, Hara M, Tsuboi K,他	消化器・一般外科	Laparoscopically resected obturator nerve schwannoma: A case report.	Asian J Endosc Surg 2016 9(4) 307-310	Original Article

73	Kataoka M, Kanda M, Ishigure K, 他	消化器・一般外科	The COMET open-label phase II study of neoadjuvant FOLFOX or XELOX treatment combined with molecular targeting monoclonal antibodies in patients with resectable liver metastasis of colorectal cancer.	Ann Surg Oncol 2016 24(2) 546-553	Original Article
74	Hara M, Nagasaki T, Shiga K,他	消化器・一般外科	High serum levels of interleukin-6 in patients with advanced or metastatic colorectal cancer: The effect on the outcome and the response to chemotherapy plus bevacizumab.	Surg Today 2016 47(4) 483-489	Original Article
75	Ishiguro H, Wakasugi T, Terashita Y, 他	消化器・一般外科	Decreased expression of CDH1 or CTNNB1 affects poor prognosis of patients with esophageal cancer.	World J Surg Oncol 2016 14(1) 1-8	Original Article
76	Saito S, Ishiguro H, Kimura M,他	消化器・一般外科	Clinical significance of NOTCH1 intracellular cytoplasmic domain translocation into the nucleus in gastric cancer.	Biomed Rep 2016 5(3) 344-348	Original Article
77	Inoue Y, Saiura A, Sato T,他	消化器・一般外科	Laparoscopic pancreaticoduodenectomy combined with a novel self-assessment system and feedback discussion: a phase 1 surgical trial following the IDEAL guidelines.	Langenbecks Arch Surg 2016 401(8) 1123-1130	Original Article
78	Funahashi H, Shinagawa N, Saitoh T,他	消化器・一般外科	Conservative treatment for isolated dissection of the superior mesenteric artery: Report of two cases.	Int J Surg Case Rep 2016 26 17-20	Original Article
79	Yanagita T, Kusanagi H.	消化器・一般外科	Safety and effectiveness of enoxaparin as venous thromboembolism prophylaxis after gastric cancer surgery in Japanese patients.	Am Surg 2016 82(12) 1232-1237	Original Article

80	Sato T, Inoue Y, Takahashi Y,他	消化器・一般外科	Distal pancreatectomy with celiac axis resection combined with reconstruction of the left gastric artery.	J Gastrointest Surg 2017 21(5) 910-917	Original Article
81	Moriyama Storu, Yano Motoki, Haneda Hiroshi,et al.	呼吸器外科	Solitary metastasis from renal cell carcinoma in the anterior mediastinal lymph node	Int J Clin Exp Med. 2016 Oct;9(10):20345-20348	Case report
82	Okuda K, Nakanishi R	呼吸器外科	The non-intubated anesthesia for airway surgery	J Thorac Dis. 2016 Oct;8(11):3414-3419	Review
83	Okuda K, Nakanishi R	呼吸器外科	Thoracoscopic surgery for lung cancer without interruption of anti-platelet agents: Is it really safe?	Transl Cancer Res. 2016 Oct;5(Suppl 6):S1153-S1156	Others
84	Yano Motoki, Moriyama Satoru, Haneda Hiroshi,et al.	呼吸器外科	Thymectomy using the subxiphoid approach	J Thorac Cardiovasc Surg. 2016 Jul;152(1):278-9	Original Article
85	Yano Motoki, Yamada Takeshi, Uchida Tatsuo,et al.	呼吸器外科	The advantage of selecting cartridges with a 1.8 mm height for pulmonary stapling.	Surg Today. 2016 Oct;46(10):1176-80	Original Article
86	Yano M, Yoshida Junji, Koike Terumoto,et al.	呼吸器外科	The Outcomes of a Limited Resection for Non-Small Cell Lung Cancer Based on Differences in Pathology	World J Surg. 2016 Nov;40(11):2688-2697	Original Article
87	Yano Motoki, Moriyama Satoru, Haneda Hiroshi,et al.	呼吸器外科	The Subxiphoid Approach Leads to Less Invasive Thoracoscopic Thymectomy Than the Lateral Approach	World J Surg. 2017 Mar;41(3):763-770	Original Article
88	Hato Y, Kondo N, Yoshimoto N	乳腺外科	Prognostic impact of a single-nucleotide polymorphism near the CTSSO gene in hormone receptor-positive breast cancer patients.	Int J Clin Oncol. 2016 Jun; 21(3):539-47	Original Article

89	Hisada T, Sawaki M, Ishiguro J, Adachi Y	乳腺外科	Impact of intraoperative specimen mammography on margins in breast- conserving surgery	Mol Clin Oncol,2016 Sep, 5(3):269-272	Original Article
90	Endo Y, Dong Y, Kondo N	乳腺外科	HER2 mutation status in Japanese HER2-positive breast cancer patients	Breast Cancer. 2016 Nov;23(6):902-907	Original Article
91	Kuroyanagi G, Tokuda H, Yamamoto N 他	整形外科	(-)-Epigallocatechin gallate synergistically potentiates prostaglandin E(2)-stimulated osteoprotegerin synthesis in osteoblasts.	Prostaglandins Other Lipid Mediat. 2017 Jan;128-129:27-33.	Original Article
92	Kainuma S, Tokuda H, Fujita K 他	整形外科	Attenuation by incretins of thyroid hormone-stimulated osteocalcin synthesis in osteoblasts.	Biomed Rep. 2016 Dec;5(6):771-775.	Original Article
93	Kobayashi M, Ota S, Terada S 他	整形外科	The Combined Use of Losartan and Muscle-Derived Stem Cells Significantly Improves the Functional Recovery of Muscle in a Young Mouse Model of Contusion Injuries.	Am J Sports Med. 2016 Dec;44(12):3252-3261.	Original Article
94	Yamamoto N, Tokuda H, Kuroyanagi G 他	整形外科	Heat shock protein 22 (HSPB8) limits TGF- β 1-stimulated migration of osteoblasts.	Mol Cell Endocrinol. 2016 Nov 15;436:1-9.	Original Article
95	Hayakawa K, Mizutani J, Suzuki N 他	整形外科	Surgical Management of the Pregnant Patient With Lumbar Disc Herniation in the Latter Stage of the Second Trimester.	Spine (Phila Pa 1976). 2017 Feb;42(3):E186-E189.	Original Article
96	Kainuma S, Otsuka T, Kuroyanagi G 他	整形外科	Possible involvement of AMP-activated protein kinase in PGE(1)-induced synthesis of osteoprotegerin in osteoblasts.	Exp Ther Med. 2016 May;11(5):2042-2048.	Original Article

97	Aiba H, Kimura T, Yamagami T 他	整形外科	Prediction of skeletal-related events in patients with non-small cell lung cancer.	Support Care Cancer. 2016 Aug;24(8):3361-7.	Original Article
98	Kainuma S, Otsuka T, Kuroyanagi G 他	整形外科	Regulation by AMP-activated protein kinase of PGE2-induced osteoprotegerin synthesis in osteoblasts.	Mol Med Rep. 2016 Apr;13(4):3363-9.	Original Article
99	Takeda E,Suzumori N,Sugiura-Ogasawara M, et al,	産科婦人科	Background of couples undergoing non-invasive prenatal testing (NIPT) in Japan.	J Obstet Gynecol Res:42, 1222-1228,2016	Review
100	Suzumori N, Ebara T, Yamada T, et al,	産科婦人科	Fetal cell-free DNA fraction in maternal plasma is affected by fetal trisomy.	J Hum Genet :61, 647-652,2016	Review
101	Mayumi Sugiura-Ogasawara, Yasuhiko Ozaki, et al,	産科婦人科	Recurrent Pregnancy Loss, Evidence-Based Evaluation, Diagnosis and Treatment, Part III, Management of Recurrent Pregnancy Loss, 11 Contemporary Prevention and Treatment of Recurrent Pregnancy Loss,	Springer,2016	Review
102	Ito S, Hayashi H, Sugiura T 他	小児科	Effects of 4-phenylbutyrate therapy in a preterm infant with cholestasis and liver fibrosis	Pediatr Int 2016 Jun;58: 506-509	Case report
103	Kawase K, Sugiura T, Nagaya Y 他	小児科	Single nucleotide polymorphisms in AGTR1, TFAP2B, and TRAF1 are not associated with the incidence of patent ductus arteriosus in Japanese preterm infants.	Pediatr Int. 2016 Jun;58(6):461-6.	Original Article

104	Togawa T, Sugiura T, Ito K 他	小児科	Molecular Genetic Dissection and Neonatal/Infantile Intrahepatic Cholestasis Using Targeted Next-Generation Sequencing.	J Pediatr. 2016 Apr;171:171-7.e1-4.	Original Article
105	Hori I, Miya F, Ohashi K 他	小児科	Novel splicing mutation in the ASXL3 gene causing Bainbridge-Ropers syndrome.	Am J Med Genet A. 2016 Jul;170(7):1863-7	Case report
106	Ogura Shuntaro, Kurata Kaori, Hattori Yuki, et al.	眼科	Sustained inflammation after pericyte depletion induces irreversible blood-retina barrier breakdown.	JCI Insight. 2017 Feb; 2: e90905	Original Article
107	Ogura Yuichiro, Shiraga Fumio, Terasaki Hiroko, et al.	眼科	Clinical practice pattern in management of diabetic macular edema in Japan: survey results of Japanese retinal specialists.	Jpn J Ophthalmol. 2017 Jan; 61: 43-50.	Original Article
108	Suetsugu Tetsuyuki, Kato Aki, Yoshida Munenori, et al.	眼科	Evaluation of peripheral fundus autofluorescence in eyes with wet age-related macular degeneration.	Clin Ophtahlmol. 2016 Dec; 10: 2497-2503.	Original Article
109	Suzuki Norihiro, HiranoYoshio, Ichida Miyu, et al.	眼科	Preoperative optical coherence tomography visualization of epiretinal membranes enhances surgical strategies.	Clin Ophthalmol. 2016 Nov; 10: 2297-2302.	Original Article
110	Suzuki Norihiro, Hirano Yoshio, Tomiyasu Taneto, et al.	眼科	Retinal hemodynamics seen on optical coherence tomography angiography before and after treatment of retinal vein occlusion.	Invest Ophtahlmol Vis Sci. 2016 Oct; 57: 5681-5687.	Original Article
111	Ozone Daisuke, Mizutani Takeshi, Nozaki Miho, et al.	眼科	Tissue plasminogen activator as an antiangiogenic agent in experimental laser-induced choroidal neovascularization in mice.	Ivest Ophthalmol Vis Sci. 2016 Oct; 57: 5348-5354.	Original Article

112	Kimura Masayo, Nozaki Miho, Yoshida Munenori, et al.	眼科	Wide-field optical coherence tomography angiography extended field imaging technique to evaluate the nonperfusion area in retina vein occlusion.	Clin Ophthalmol. 2016 Jul; 10: 1291-5.	Original Article
113	Hasegawa Norio, Nozaki Miho, Takase Noriyuki, et al.	眼科	New into microaneurysms in the deep capillary plexus detected by optical coherence tomography angiography in diabetic macular edema.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2016 Jul; 57: OCT348-55.	Original Article
114	Tomiyasu Taneto, Nozaki Miho, Yoshida Munenori, et al.	眼科	Characteristics of polypoidal choroidal vasculopathy evaluated by optical coherence tomography angiography.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2016 Jul; 57: OCT324-30.	Original Article
115	Tomiyasu Taneto, Hirano Yoshio, Yoshida Munenori, et al.	眼科	Microaneurysms cause refractory macular edema in branch retinal vein occlusion.	Sci Rep. 2016 Jul; 6: 29445.	Original Article
116	Nozaki Miho, Hamada Satoshi, Kimura Masayo, et al.	眼科	Value of angiography in the diagnosis of choroidal neovascularization complicating multiple evanescent white dot syndrome.	Ophthalmic Surg Lasers Retina. 2016 Jun; 47: 580-4.	Original Article
117	Hirahara Shuichiro, Yasukawa Tsutomu, Kominami Aoi, et al.	眼科	Densitometry of choroidal vessels in eyes with and without central serous chorioretinopathy by wide-field indocyanine green angiography.	Am J Ophthalmol. 2016 Jun; 166: 103-111.	Original Article
118	Kachi Ikuko, Yasukawa Tsutomu, Kato Aki, et al.	眼科	Combination therapy with intravitreal tissue plasminogen activator and ranibizumab for subfoveal Type 2 choroidal neovascularization.	Jpn J Ophthalmol. 2016; 60: 179-86.	Original Article
119	Takahashi M 他	耳鼻咽喉科	Prognostic impact of salvage treatment on hearing loss refractory to systemic corticosteroids: A retrospective observation study.	Auris Nasus Larynx. 43(5), 458-94, 2016	Original Article

120	Nakamura Y, Suzuki M, Esaki S他	耳鼻咽喉科	The effect of the leukotriene antagonist pranlukast on pediatric acute otitis media.	Int J Pediatr Otorhinolaryngol. 87:34-8,2016	Original Article
121	Kawakita D, Takano G, Murakami S 他	耳鼻咽喉科	Functional Nerve Preservation in Extracranial Head and Neck Schwannoma Surgery.	JAMA Otolaryngol Head Neck Surg.2016	Original Article
122	Esaki S 他	耳鼻咽喉科	A new patient-derived orthotopic malignant meningioma model treated with oncolytic herpes simplex virus.	Neuro Oncol. 18(9):1278-87,2016	Original Article
123	Akira Inagaki, Shingo Murakami 他	耳鼻咽喉科	Clinical features and treatment outcomes of otitis media with antineutrophil cytoplasmic antibody (ANCA)-associated vasculitis (OMA AV):A retrospective analysis of 235 patients from a nationwide survey in Japan	Modern Rheumatology;1-8,2016	Original Article
124	Murakami S, Inagaki A 他	耳鼻咽喉科	Expression of Cancer-Testis Antigens in Salivary Gland Carcinomas with Reference to MAGE-A and NY-ESO-1 Expression in Adenoid Cystic Carcinoma	Histopathology 2017;71(2): 305-315	Original Article
125	Ono M, Takanari K, Toriyama K et al.	形成外科	Effects of Tissue Component Volumes on Vascular Resistance in Free Flaps. J Reconstr Microsurg	J Reconstr Microsurg. 2017 Jan;33(1):32-39.	Original Article
126	Heo YH, Yagi S, Toriyama K et al.	形成外科	Relationship between BMI and Postoperative Complications with Free Flap in Anterolateral Craniofacial Reconstruction.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2016 Mar 8;4(3):e636.	Original Article

127	Kono M, Hasegawa- Murakami Y, Sugiura K, Ono M, Toriyama K et al.	皮膚科	A 45-year-old Woman with Ehlers- Danlos Syndrome Caused by Dermatan 4-O- sulfotransferase-1 Deficiency: Implications for Early Ageing.	Acta Derm Venereol. 2016 Aug 23;96(6):830-1.	Case report
128	Muramatsu S, Kubo R, Nishida E, 他	皮膚科	Serum interleukin-6 levels in response to biologic treatment in patients with psoriasis.	Mod Rheumatol. 2017 Jan; 27(1): 137-141	Original Article
129	Torii K, Morita A	皮膚科	UVB irradiation induces HMGB1 expression in keratinocytes without promoting apoptosis.	Exp Dermatol. 2016 Sep; 25(9): 741-2	Letter
130	Nakamura M, Nishida E, Morita A	皮膚科	Action spectrum of melanoblast maturation and involvement of the aryl hydrocarbon receptor.	Exp Dermatol. 2016 Aug; 25 Suppl 3:41-4	Original Article
131	Iwatsuki Shoichiro, Naiki Taku, Kawai Noriyasu et al.	腎・泌尿器科	Nonpalpable testicular pure seminoma with elevated serum alpha-fetoprotein presenting with retroperitoneal metastasis: a case report	Journal of Medical Case Reports.2016 May;10(1):114	Case report
132	Kurokawa Satoshi, Mizuno Kentarou, Nakane Akihiro et al.	腎・泌尿器科	Adrenal Neuroblastoma in an Adult: Effect of Radiotherapy on Local Progression after Surgical Removal	Case Report in Urology.2016 Jul(オンライ ン)	Case report
133	Etani Toshiki, Naiki Taku, Nagai Takashi et al.	腎・泌尿器科	Inflammatory myofibroblastic tumor of the urinary bladder: a case report	Case Reports in Oncology.2016 Aug;9(2):464-469	Case report
134	Tozawa Keiichi, Kawai Noriyasu, Ando Ryosuke et al.	腎・泌尿器科	The role of interleukin-6 and interleukin-6 receptor as prognostic biomarkers in prostate cancer	Clinics in Oncology.2016 Oct;1:1124(オンライン)	Others

135	Takada Hideki, Iwatsuki Shoichiro, Itoh Yasunori et al.	腎・泌尿器科	Primary pure carcinoid tumour of the testis: A case report and review of the literature	Archivio Italiano di Urologia e Andrologia.2016 Oct;88(3):245-246	Case report
136	Kanemoto Kazuhiro, Fukuta Katsuhiko, Kawai Noriyasu et al.	腎・泌尿器科	Genomic landscape of experimental bladder cancer in rodents and its application to human bladder cancer: gene amplification and potential overexpression of Cyp2a5/CYP2A6 are associated with the invasive phenotype	PLoS One.2016 Nov;11(11):e0167374(オンライン)	Others
137	Okamura Takehiko, Akita Hidetoshi, Yamada Kenji et al.	腎・泌尿器科	Therapeutic results in elderly patients with prostate cancer: chronological comparison in a single community hospital	The Japanese Association of Rural Medicine.2016 Dec;11(2):59-62(オンライン)	Original Article
138	Kawai Noriyasu, Kobayashi Takeshi, Kobayashi Daichi et al.	腎・泌尿器科	Safety of regional 8-MHz radiofrequency capacitive hyperthermia combined with magnetic cationic liposomes in patients with castration-resistant prostate cancer: a phase I clinical study	Journal of International Translational Medicine.2016 Dec;4(4):258-267	Others
139	Taguchi Kazumi, Okada Atsushi, Hamamoto Shuzo et al.	腎・泌尿器科	M1/M2-macrophage phenotypes regulate renal calcium oxalate crystal development	Scientific Reports.2016 Oct;6:35167(オンライン)	Case report
140	Taguchi Kazumi, Hamamoto Shuzo, Okada Atsushi et al.	腎・泌尿器科	Genome-wide gene expression profiling of randall's plaques in calcium oxalate stone formers	Journal of the American Society of Nephrology.2017 Jan;28(1):333-347	Others
141	Iwatsuki Shoichiro, Sasaki Shoichi, Taguchi Kazumi et al.	腎・泌尿器科	Effect of obesity on sperm retrieval outcome and reproductive hormone levels in Japanese azoospermic men with and without Klinefelter syndrome	Andrology.2017 Jan;5(1):82-86	Original Article

142	Nozaki Satoshi, Naiki Taku, Hamamoto Shuzo et al.	腎・泌尿器科	A case of delayed radiation myelopathy of the thoracic vertebrae following low dose radiation therapy for metastatic renal cell carcinoma	Urology Case Reports.2017 Feb;11:66-68	Case report
143	Kubota, Y., T. Okuyama, M. Uchida,et al	精神科	Effectiveness of a psycho-oncology training program for oncology nurses: a randomized controlled trial.	Psychooncology, 2016. 25(6): p. 712-8.	Original Article
144	Okuyama, T., Y. Kizawa, T. Morita, H. Kinoshita, M.,et al	精神科	Current Status of Distress Screening in Designated Cancer Hospitals: A Cross-Sectional Nationwide Survey in Japan.	J Natl Compr Canc Netw, 2016. 14(9): p. 1098-104.	Original Article
145	Yamada, A., N. Miyachi, T. Miura, M.,et al	精神科	Long-term poor rapport, lack of spontaneity and passive social withdrawal related to acute post-infectious encephalitis	Springerplus, 2016. 5: p. 345.	Case report
146	Kawai T, Ozawa Y, Ogawa M,et al	放射線科	Quality Improvement of Dual-Energy Lung Perfusion Image by Reduction of Low-Energy X-Ray Spectrum: An Evaluation on Clinical Images.	Pol J Radiol. 2016 Dec 10;81:593-597. eCollection 2016	Original Article
147	Ozawa Y, Hara M, Nakagawa M,etal	放射線科	Utility of Electrocardiography (ECG)-Gated Computed Tomography (CT) for Preoperative Evaluations of Thymic Epithelial Tumors.	Pol J Radiol. 2016 Nov 25;81:566-571. eCollection 2016.	Original Article
148	Urano M, Maki Y, Nishikawa H, etal	放射線科	Diagnostic utility of a computer-aided diagnosis system for whole-body bone scintigraphy to detect bone metastasis in breast cancer patients.	Ann Nucl Med. 2017 Jan;31(1):40-45. doi: 10.1007/s12149-016-1132-5	Original Article
149	Shimohira M, Hashizume T, Sasaki S, etal	放射線科	Transcatheter Arterial Embolization for Hepatic Arterial Injury Related to Percutaneous Transhepatic Portal Intervention.	Cardiovasc Intervent Radiol. 2017 Feb;40(2):291-295. doi: 10.1007/s00270-016-1471-6.	Original Article

150	Maki H, Shimohira M, Hashizume T, et al	放射線科	Visualization of the Spinal Artery by CT During Embolization for Pulmonary Artery Pseudoaneurysm.	Pol J Radiol. 2016 Aug 15;81:382-5. doi: 10.12659/PJR.897975. eCollection 2016.	Original Article
151	Murai T, Kamata SE, Sato K, et al	放射線科	Hypofractionated Stereotactic Radiotherapy for Auditory Canal or Middle Ear Cancer.	Cancer Control. 2016 Jul;23(3):311-6.	Original Article
152	Murai T, Hayashi A, Manabe Y, et al	放射線科	Efficacy of stereotactic radiotherapy for brain metastases using dynamic jaws technology in the helical tomotherapy system.	Br J Radiol. 2016 Oct;89(1066):20160374. doi: 10.1259/bjr.20160374.	Original Article
153	Hashimoto S, Shibamoto Y, Iwata H, et al	放射線科	Whole-pelvic radiotherapy with spot-scanning proton beams for uterine cervical cancer: a planning study.	J Radiat Res. 2016 Sep;57(5):524-532.	Original Article
154	Baba F, Tanaka S, Nonogaki Y, etal	放射線科	Effects of audio coaching and visual feedback on the stability of respiration during radiotherapy.	Jpn J Radiol. 2016 Aug;34(8):572-8. doi: 10.1007/s11604-016-0560-4.	Original Article
155	Toshito T, Omachi C, Kibe Y, et al	放射線科	A proton therapy system in Nagoya Proton Therapy Center.	Australas Phys Eng Sci Med. 2016 Sep;39(3):645-54. doi: 10.1007/s13246-016-0456-8.	Original Article
156	Kan H, Kasai H, Arai N, et al	放射線科	Background field removal technique using regularization enabled sophisticated harmonic artifact reduction for phase data with varying kernel sizes.	Magn Reson Imaging. 2016 Sep;34(7):1026-33. doi: 10.1016/j.mri.2016.04.019	Original Article
157	Nagai A, Shibamoto Y, Ogawa K, et al	放射線科	Analysis and Management of Rectal Gas with Kampo Formulas During Intensity-Modulated Radiotherapy of Prostate Cancer: A Case Series Study.	J Altern Complement Med. 2016 Jun;22(6):480-5. doi: 10.1089/acm.2015.0271	Original Article

158	Maki Y, Mizutani M, Morimoto M, et al	放射線科	The variations of the middle colic vein tributaries: depiction by three-dimensional CT angiography.	Br J Radiol. 2016 Jul;89(1063):20150841. doi: 10.1259/bjr.20150841.	Original Article
159	Iwata H, Ogino H, Hashimoto S, et al	放射線科	Spot Scanning and Passive Scattering Proton Therapy: Relative Biological Effectiveness and Oxygen Enhancement Ratio in Cultured Cells.	Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2016 May 1;95(1):95-102. doi: 10.1016/j.ijrobp.2016.01.017	Original Article
160	Shibamoto Y, Miyakawa A, Otsuka S, et al	放射線科	Radiobiology of hypofractionated stereotactic radiotherapy: what are the optimal fractionation schedules?	J Radiat Res. 2016 Aug;57 Suppl 1:i76-i82. doi: 10.1093/jrr/rrw015.	Review
161	Sakurai K, Imabayashi E, Tokumaru AM, et al	放射線科	Volume of Interest Analysis of Spatially Normalized PRESTO Imaging to Differentiate between Parkinson Disease and Atypical Parkinsonian Syndrome.	Magn Reson Med Sci. 2017 Jan 10;16(1):16-22. doi: 10.2463/mrms.mp.2015-0132.	Original Article
162	Kawai T, Shimohira M, Ohta K, et al	放射線科	The Role of Time-Resolved MRA for Post-treatment Assessment of Pulmonary Arteriovenous Malformations: A Pictorial Essay.	Cardiovasc Intervent Radiol. 2016 Jul;39(7):965-72. doi: 10.1007/s00270-016-1325-2	Others
163	Iwata H, Sato K, Nomura R, et al	放射線科	Long-term results of hypofractionated stereotactic radiotherapy with CyberKnife for growth hormone-secreting pituitary adenoma: evaluation by the Cortina consensus.	J Neurooncol. 2016 Jun;128(2):267-75.	Original Article
164	Yanagi T, Shibamoto Y, Ogino H, et al	放射線科	Definitive Radiotherapy Following Induction Chemotherapy for Hypopharyngeal Cancer: Selecting Candidates for Organ-Preserving Treatment Based on the Response to Induction Chemotherapy.	Kurume Med J. 2016;62(1-2):1-8. doi: 10.2739/kurumemedj.MS65003	Original Article

165	Hattori Y, Murai T, Iwata H, et al	放射線科	Chemoradiotherapy for localized extranodal natural killer/T-cell lymphoma, nasal type, using a shrinking-field radiation strategy: multi-institutional experience.	Jpn J Radiol. 2016 Apr;34(4):292-9. doi: 10.1007/s11604-016-0524-8	Original Article
166	Nakagawa M, Ozawa Y, Nomura N, et al	放射線科	Utility of dual source CT with ECG-triggered high-pitch spiral acquisition (Flash Spiral Cardio mode) to evaluate morphological features of ventricles in children with complex congenital heart defects.	Jpn J Radiol. 2016 Apr;34(4):284-91. doi: 10.1007/s11604-016-0522-x.	Original Article
167	Takenaka R, Shibamoto Y, Miyakawa A, et al	放射線科	The Fate of Residual Tumor Masses That Persist After Stereotactic Body Radiotherapy for Solitary Lung Nodules: Will They Recur?	Clin Lung Cancer. 2016 Sep;17(5):406-411. doi: 10.1016/j.clcc.2015.12.003	Original Article
168	Urano M, Shiraki N, Kawai T, et al	放射線科	Digital mammography versus digital breast tomosynthesis for detection of breast cancer in the intraoperative specimen during breast-conserving surgery.	Breast Cancer. 2016 Sep;23(5):706-11. doi: 10.1007/s12282-015-0628-5.	Original Article
169	Ozawa Y, Hara M, Shimohira M, Sakurai K, et al	放射線科	Associations between computed tomography features of thymomas and their pathological classification.	Acta Radiol. 2016 Nov;57(11):1318-1325. doi: 10.1177/0284185115590288	Original Article
170	Shimohira M, Nagai K, Hashizume T, et al	放射線科	Preoperative transarterial embolization using gelatin sponge for hypervascular bone and soft tissue tumors in the pelvis or extremities.	Acta Radiol. 2016 Apr;57(4):457-62. doi: 10.1177/0284185115590435	Original Article

171	Tamura T, Aoyama M, Ukai S 他	麻酔科	Neuroprotective erythropoietin attenuates microglial activation, including morphological changes, phagocytosis, and cytokine production.	Brain Res. 2017;1662:65-74.	Original Article
172	Yonekura H, Hirate H, Sobue K.	麻酔科	Comparison of anesthetic management and outcomes of robot-assisted vs pure laparoscopic radical prostatectomy.	J Clin Anesth. 2016;35:281-6.	Original Article
173	Yonekura H, Murayama N, Yamazaki H 他	麻酔科	A case of delayed emergence after propofol Anesthesia: Genetic analysis.	A A Case Rep. 2016;7(11):243-6.	Case report
174	Aoki Naofumi	口腔外科	Sinus Augmentation by platelet rich fibrin alone; a report of two case with histological examination	Ccase report in dentistry 2016 オンライン	Case report
175	Inoue Takako, Tanaka Yasuhito	中央臨床検査部	Hepatitis B virus and its sexually transmitted infection - an update.	Microb Cell. 2016 Sep;3(9):420-437	Review
176	Matsuura Kentaroh, Tanaka Yasuhito 他	消化器・代謝内科	Circulating let-7 levels in plasma and extracellular vesicles correlate with hepatic fibrosis progression in chronic hepatitis C.	Hepatology. 2016 Sep;64(3):732-45	Original Article
177	Inoue Takako, Tanaka Yasuhito 他	中央臨床検査部	Clinical Significance of Two Real-Time PCR Assays for Chronic Hepatitis C Patients Receiving Protease Inhibitor-Based Therapy.	Plos One. 2017 Jan (オンライン)	Original Article

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

小計5件

小計7件

小計8件

小計7件

小計8件

小計6件

小計6件

小計6件

小計7件

小計7件

小計6件

小計7件

小計9件

小計8件

小計7件

小計8件

小計8件

小計6件

小計7件

小計7件

小計7件

小計8件

小計7件

小計5件

小計7件

小計3件

合計177件

計 件

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ① 医学系研究倫理審査委員会規程 ② 医学系研究に係わる実施要綱 ③ IRB標準業務手順書 目的と適用範囲、責務、構成、委員長の選任方法、開催、成立要件、資料、調査・審議・報告事項、病院長に答申する事項、会議の運営・記録に関する事項、事務局、記録の保存	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 大学としての利益相反の指針を示す「利益相反マネジメントポリシー」のもと、「利益相反マネジメント規程」並びに「大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会規程」を制定し、毎年利益相反に関する自己申告書を提出のうえ、必要に応じて適宜ヒアリングを実施している。 また、利益相反に関する専門的事項について調査及び審議するため、全学的な組織として外部専門家を含めた利益相反委員会を設置しているほか、別途、医学研究等にかかる利益相反に関する事項を審議するため、医学研究科内に大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会を設置し、適切な	

管理に努めている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会 の開催状況	年1回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>「臨床試験実施セミナー（12回/年）」のうち、上記に合致する内容の開催状況は以下の2回</p> <p>「本学における臨床研究申請システム（研究倫理、UMIN登録等）」開催2016/4/28、参加：112名</p> <p>「臨床研究と倫理体制」開催2016/7/28、参加：35名</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

診療科ごとに各領域の専門医取得を目指す専門的な研修を実施している。また、診療科部長又は部長代理を研修統括者とした指導體制を整備し、目標、指導體制、診療実績、連携施設等を含めた研修プログラムをホームページで明示している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	63.3人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
兼松 孝好	総合内科・総合診療科	部長代理	24	年
城 卓志	消化器内科	部長	39	年
野尻 俊輔	肝・膵臓内科	部長	27	年
新実 彰男	呼吸器・アレルギー内科	部長	32	年
難波 大夫	リウマチ・膠原病内科	部長	23	年
大手 信之	循環器内科	部長	36	年
今枝 憲郎	内分泌・糖尿病内科	部長	28	年
飯田 真介	血液・腫瘍内科	部長	30	年
松川 則之	神経内科	部長	29	年
福田 道雄	腎臓内科	部長	26	年
竹山 廣光	消化器・一般外科	部長	38	年
中西 良一	呼吸器外科	部長	32	年
三島 晃	心臓血管外科	部長	36	年
近藤 知史	小児外科	部長	37	年
遠山 竜也	乳腺外科	部長	28	年
大塚 隆信	整形外科	部長	38	年
杉浦 真弓	産科婦人科	部長	32	年
齋藤 伸治	小児科	部長	32	年
小椋 祐一郎	眼科	部長	37	年
村上 信五	耳鼻いんこう科	部長	37	年
鳥山 和宏	形成外科	部長	28	年
森田 明理	皮膚科	部長	28	年
安井 孝周	泌尿器科	部長	23	年
明智 龍男	精神科	部長	26	年
芝本 雄太	放射線科	部長	37	年
祖父江 和哉	麻酔科	部長	24	年
間瀬 光人	脳神経外科	部長	32	年
渋谷 恭之	歯科口腔外科	部長	28	年
和田 郁雄	リハビリテーション科	部長	39	年
稲垣 宏	病理診断部	部長	33	年
笹野 寛	救急科	部長	30	年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

【看護師】別紙1参照

【薬剤師】

新薬説明会：H28年度中に21回実施、のべ出席者数147名

症例検討会：H28年度中に9回実施、のべ出席者数186名

【臨床検査技師】

*月に1から2回開催される部内研修会又は院内研修会において1時間程度に以下の内容で実施している。

4月10日「ISO 15189解説セミナー」31名：1日 欠席者9名は後日DVDで受講

4月21日「乳腺カンファランス」4名

4月22日「がんサーボード」3名

5月19日「コバスTaq Man 48 カスタマートレーニング研修報告とPCR検査時の諸注意」20名

5月27日「がんサーボード」1名

6月16日「赤血球抗原検索システムについて」26名

6月24日「がんサーボード」3名

7月21日「CD34抹消血幹細胞測定について」18名

8月19日「新たに改善されたルミパルスプレスト用HCV抗原測定試薬の評価」・「新たに改善されたルミパルスプレスト用HCV抗原測定試薬の評価」16名

9月15日「泌尿器細胞診新報告様式について」25名

10月20日「個人情報と倫理」25名

10月28日「がんサーボード」1名

11月17日「新型翼状針の説明と実演」17名

12月1日「乳腺カンファランス」1名

1月19日「平成28年度国公立大学病院医療技術関係職員研修報告」14名

1月27日「キャンサーボード」3名

2月9日「乳腺カンファランス」3名

2月23日「心機能を心エコー検査で評価する」21名

3月16日「肺機能検査について」・「1年間をふりかえって（まとめ）」19名

【診療放射線技師】

①医療機器の安全使用のため、高度管理医療機器研修を実施している。

②最新の医療に対応すべく診療放射線業務全般（医療安全を含む）について検討し、全体のレベル向上を図るための業務検討会を実施している。

【臨床工学技士】

- ① 日本臨床工学技士会にて、高度な医療技術を目指した最新の医療機器及び現行の業務内容・運用手順に関して学ぶ
- ② 日本体外循環技術医学会教育セミナーにて、人工心肺等の体外循環について学ぶ
- ③ 日本透析医学会学術集会にて、透析液清浄化及び血液透析について学ぶ
- ④ 人工臓器学会教育セミナーにて、人工心肺等の体外循環について学ぶ
- ⑤ 不整脈心電図学会学術大会にて、ペースメーカ及びデバイスチェック及び遠隔モニタリング等について学ぶ
- ⑥ 日本呼吸療法医学会学術集会にて、呼吸器保守管理及び呼吸療法について学ぶ
- ⑦ ペーシング治療研究会にて、ペースメーカ及びデバイスチェックについて学ぶ
- ⑧ 日本胸部外科学会にて、人工心肺及び補助人工心臓について学ぶ
- ⑨ 日本体外循環技術医学会、秋の教育セミナーにて、人工心肺及び補助人工心臓について学ぶ
- ⑩ 日本体外循環技術医学会にて、体外循環及び補助循環について学ぶ
- ⑪ カテーテルアブレーション関連秋季大会にて、心臓電気生理学的検査及びカテーテルアブレーション

ションについて学ぶ

- ⑫ 研究倫理研修セミナーにて臨床研究における倫理的側面について学ぶ
- ⑬ 日本臨床補助人工心臓研究会にて補助人工心臓の管理運用について学ぶ
- ⑭ 体外循環技術医学会東海地方会にて、人工心肺及び補助循環について学ぶ
- ⑮ 植込みデバイス関連冬季大会にて、ペースメーカ及び植込みデバイスについて学ぶ
- ⑯ 岐阜周術期神経モニタリングセミナーにて中央手術部におけるモニタリングについて学ぶ
- ⑰ 日本循環学会学術集会にて、ペースメーカ及び植込みデバイスについて学ぶ

・ 研修の期間・実施回数

【看護師】 別紙1参照

【薬剤師】 上記参照

【臨床検査技師】 上記参照

【診療放射線技師】

①2016/4/20 10/27 計2回

②2016/5/30 6/29 7/19 9/15 9/29 10/4 11/24 11/30 12/14 2017/1/19 1/26 2/8 2/23 3/1

3/2 3/14 計16回

【臨床工学技士】

①5/14の1日間、②5/28～5/29の2日間、③6/10～6/12の3日間、④7/16～7/17の2日間、⑤7/14～7/17の4日間、⑥7/16の1日間、⑦9/3の1日間、⑧9/29～9/30の2日間、⑨10/1～10/2の2日間、⑩10/22～10/23の2日間、⑪10/27～10/29の3日間、⑫11/18～11/19の2日間、⑬11/23～11/24の2日間、⑭1/28の1日間、⑮2/17～2/18の2日間、⑯3/11の1日間、⑰3/17～3/19の3日間、

・ 研修の参加人数

【看護師】 別紙1参照

【薬剤師】 上記参照

【臨床検査技師】 上記参照

【診療放射線技師】

① 41人 40人

② 25人 23人 24人 22人 26人 15人 14人 24人 23人 21人 18人 24人 20人
25人 22人 17人

【臨床工学技士】

①1名、②1名、③1名、④1名、⑤2名、⑥1名、⑦2名、⑧1名、⑨1名、⑩2名、⑪1名、⑫1名、⑬1名、⑭4名、⑮1名、⑯4名、⑰1名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

①「臨床試験実施セミナー」のライブ配信（東部・西部医療センター）による研修を提供

②＜吸入指導ネットワーク講習会＞

③＜名市大連携病院合同化学療法勉強会＞

第1回： 1. 化学療法、2. 分子標的療法

第2回： 1. 抗がん剤曝露、2. 投与管理

第3回： 1. 血管外漏出、2. アレルギー

第4回： 1. 骨髄抑制、2. 口腔ケア

第5回： がん患者の「食」を支えるチームアプローチ

第6回： 1. 末梢神経障害、2. 皮膚障害

第7回： 遺伝性腫瘍カウンセリング

・研修の期間・実施回数

①2016/5/30, 6/29, 7/28, 8/16, 10/13, 11/21, 12/19 18:00～19:00の時間帯に計7回開催

②2回（平成28年9月、平成29年3月）

③第1回（6/15）、第2回（7/20）、第3回（8/17）、第4回（9/21）、第5回（10/19）

第6回（11/16）、第7回（12/21）

・研修の参加人数

①9～34名/回

②62名、33名

③第1回 158名、第2回 151名、第3回 165名、第4回 181名、第5回 158名

第6回 145名、第7回 115名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

別紙 1

年度別研修一覧

年度別研修一覧

研修名	日程	時間帯	種別	参加人数	対象年度: 2016年度	テーマ	会場・場所
新規採用者研修	2016/04/07~2016/05/11		院内教育(新人)	42	新規採用者集合研修		本部棟 4階大ホール
静脈注射指導者	2016/05/23	16:00~18:00	院内教育(現任)	42	静脈注射(Ⅰ-Ⅱ)指導者研修		看護部書庫
静脈注射指導者	2016/05/24	16:00~18:00	院内教育(現任)	42	静脈注射(Ⅰ-Ⅱ)指導者研修		看護部書庫
静脈注射指導者	2016/05/26	16:00~18:00	院内教育(現任)	42	静脈注射(Ⅰ-Ⅱ)指導者研修		看護部書庫
静脈注射指導者	2016/05/27	16:00~18:00	院内教育(現任)	42	静脈注射(Ⅰ-Ⅱ)指導者研修		看護部書庫
安全管理Ⅰ	2016/05/30	09:40~12:40	院内教育(新人)	114	安全管理研修Ⅰ 【目的】 医療安全に関する基本的知識を再確認する事例を通して、医療安全確保対策の意図を理解し、行動できる 【目的】 自己のリスク感性を高め、安全な医療が提供できる 【目標】 1) 安全な看護について考えることができる 2) 事例を通して危険を予知した行動が取れる		本部棟 4階大ホール
安全管理Ⅱ	2016/05/30	14:00~17:00	院内教育(新人)	114	安全管理研修Ⅱ 【目的】 医療安全に関する基本的知識を再確認する事例を通して、医療安全確保対策の意図を理解し、行動できる 【目的】 自己のリスク感性を高め、安全な医療が提供できる 【目標】 1) 安全な看護について考えることができる 2) 事例を通して危険を予知した行動が取れる		本部棟 4階大ホール
安全管理Ⅱ	2016/06/03	08:30~12:15	院内教育(現任)	70	医療安全のための事故対策について理解でき、安全な行動が取れる 【目的】 1) 安全な看護について考えることができる 2) 事例を通して危険を予知した行動が取れる 【目標】 1) 安全な看護について考えることができる 2) 事例を通して危険を予知した行動が取れる		4階第1会議室
安全管理Ⅱ	2016/06/03	13:15~17:00	院内教育(現任)	70	医療安全のための事故対策について理解でき、安全な行動が取れる 【目的】 1) 安全な看護について考えることができる 2) 事例を通して危険を予知した行動が取れる 【目標】 1) 安全な看護について考えることができる 2) 事例を通して危険を予知した行動が取れる		4階第1会議室
事例検討(説明会)	2016/06/13	16:00~17:00	院内教育(現任)	83	【目的】 患者のニーズを踏まえた看護が展開できる 【目標】 1) 事例を通して自己の看護過程の展開を振り返り、課題を抽出できる。 2. 論理的にプレゼンテーションができる		3階大ホール
事例検討(説明会)	2016/06/14	16:00~17:00	院内教育(現任)	83	【目的】 患者のニーズを踏まえた看護が展開できる 【目標】 1) 事例を通して自己の看護過程の展開を振り返り、課題を抽出できる。 2. 論理的にプレゼンテーションができる		3階大ホール
マネジメントⅢ	2016/06/19	08:30~17:00	院内教育(新人)	22	【目的】 管理的な視点で、部署の問題解決ができる 【目標】 1. 問題解決技法が理解できる 2. 部署の問題解決ができる		病棟・中央診療等4階第1会議室
主任研修	2016/06/20	08:30~12:15	管理者教育	50	【目的】 固定チームナースにおける主任の役割を果たすことができる 【目標】 1. 固定チームナースにおける主任の役割を理解し、実践できる 2. 共同業務を明確化し、部署内で応援・共同業務を円滑に機能させ、業務の効率化を図ることができる		病棟・中央診療等4階第1会議室
主任研修	2016/06/20	13:15~17:00	管理者教育	50	【目的】 固定チームナースにおける主任の役割を理解し、実践できる 【目標】 1. 固定チームナースにおける主任の役割を理解し、実践できる 2. 共同業務を明確化し、部署内で応援・共同業務を円滑に機能させ、業務の効率化を図ることができる		病棟・中央診療等4階第1会議室
リーダー(宿泊研修)	2016/06/29~2016/07/01	08:30~17:00	院内教育(現任)	28	【目的】 リーダーシップを効果的に発揮し、メンバーが看護の魅力を実感できるように支援する 【目標】 1. 看護の魅力を再認識できる 2. 看護の魅力を引き出すための自己の役割について考えることができる		野間荘
マネジメントⅠ	2016/07/04	13:00~17:00	院内教育(現任)	31	【目的】 所属の目標を達成するために、自己の役割を果たすことができる 【目標】 1. 組織において自己が期待されている役割を知る 2. 期待されている役割を果たすための能力を高めることができる		第1会議室
臨床実習指導者	2016/07/07	13:00~17:00	院内教育(現任)	31	【目的】 看護教育における指導者の役割を再確認し、効果的な実習指導ができる 【目標】 1. 看護教育における指導者の役割を再確認し、効果的な実習指導ができる		第1会議室
新人B.L.S研修	2016/07/21	08:30~10:15	院内教育(新人)	122	新人看護職員研修「B.L.S」		
新人B.L.S研修	2016/07/21	10:35~12:20	院内教育(新人)	122	新人看護職員研修「B.L.S」		
フォローアップⅠ	2016/07/21		院内教育(新人)	119	【目的】 職人として自己管理ができる 【目標】 1. 職場での3か月を振り返り、職人としての心構えを高める。 2. 自己の傾向を知り、入職後の自己の成長を認め、今後の課題を整理する		7月21・22日 病棟・中央診療棟4階第1会議室 7月26日 本部棟4階ホール
新人B.L.S研修	2016/07/22	08:30~10:15	院内教育(新人)	122	新人看護職員研修「B.L.S」		
新人B.L.S研修	2016/07/22	10:35~12:20	院内教育(新人)	122	新人看護職員研修「B.L.S」		
フォローアップⅠ	2016/07/22	13:00~17:00	院内教育(新人)	119	【目的】 職人として自己管理ができる 【目標】 1. 職場での3か月を振り返り、職人としての心構えを高める。 2. 自己の傾向を知り、入職後の自己の成長を認め、今後の課題を整理する		7月21・22日 病棟・中央診療棟4階第1会議室 7月26日 本部棟4階ホール
新人B.L.S研修	2016/07/26	08:30~10:15	院内教育(新人)	122	新人看護職員研修「B.L.S」		
新人B.L.S研修	2016/07/26	10:35~12:20	院内教育(新人)	122	新人看護職員研修「B.L.S」		
フォローアップⅠ	2016/07/26	13:00~17:00	院内教育(新人)	119	【目的】 職人として自己管理ができる 【目標】 1. 職場での3か月を振り返り、職人としての心構えを高める。 2. 自己の傾向を知り、入職後の自己の成長を認め、今後の課題を整理する		7月21・22日 病棟・中央診療棟4階第1会議室 7月26日 本部棟4階ホール
プリセプターフォローアップ①	2016/07/29	15:30~17:00	院内教育(現任)	117	要項参照		日によって会場が異なります 要項で確認して下さい
プリセプターフォローアップ①	2016/08/01	15:30~17:00	院内教育(現任)	117	要項参照		日によって会場が異なります 要項で確認して下さい
プリセプターフォローアップ①	2016/08/02	15:30~17:00	院内教育(現任)	117	要項参照		日によって会場が異なります 要項で確認して下さい
人材育成Ⅰ	2016/08/12	13:00~17:00	院内教育(現任)	81	【目的】 人材育成能力を養うことができる 【目標】 1. 人を育てることで、喜びを感じることができる 2. 対象の背景を知り、臨床指導者の役割を理解できる 3. 指導する際の関わりについて考える、実践することができる		病棟・中央診療棟 第1会議室
カンファレンスの進め方	2016/08/23		院内教育(現任)	52	【目的】 カンファレンスの目的、ゴールを明確にできる 【目標】 1. カンファレンスの目的、ゴールをシンプルに共有し、効果的にカンファレンスを進めることができる		西棟1階臨床シミュレーションセンター 多目的室
急変対応指導者研修	2016/09/02		院内教育(現任)	27	【目的】 防ぎ得た心停止・防ぎ得た後遺障害を回避するため、傷病者の評価と対応のスキルを習得し、急変対応能力を身につけ、部署内で指導できる 【目標】 1. 緊急対応能力を習得できる 2. シミュレーション教育が実践できる		西棟シミュレーションセンター 多目的室 研修室・発熱外来
急変対応指導者研修	2016/09/04		院内教育(現任)	27	【目的】 防ぎ得た心停止・防ぎ得た後遺障害を回避するため、傷病者の評価と対応のスキルを習得し、急変対応能力を身につけ、部署内で指導できる 【目標】 1. 緊急対応能力を習得できる 2. シミュレーション教育が実践できる		西棟シミュレーションセンター 多目的室 研修室・発熱外来
コミュニケーション	2016/09/05	13:00~17:00	院内教育(現任)	26	【目的】 チームを取り巻く様々なコミュニケーションスキルを理解し、実践(活用)できる 【目標】 1. さまざまなコミュニケーションスキルを理解し、実践(活用)できる 2. 業務調整のためのコミュニケーションを図ることができる		病棟・中央診療棟4階第1会議室
プリセプターエイド(フォローアップ)	2016/09/20	14:00~17:00	院内教育(現任)	38	【目的】 新人教育の目的を理解し、プリセプターエイドとしての役割を遂行できる 【目標】 1. 新人教育の目的を理解し、プリセプターエイドとしての役割を遂行できる		西棟1階臨床シミュレーションセンター多目的室
事例検討(グループワーク)	2016/09/26		院内教育(現任)	82	【目的】 患者のニーズを踏まえた看護が展開できる 【目標】 1) 事例を通して自己の看護過程の展開を振り返り、課題を抽出できる。 2. 論理的にプレゼンテーションができる		9月26日(月):中央・病棟診療棟4階第1会議室 10月25日(火)・11月15日(火)・12月22日(木):西棟シミュレーションセンター 多目的室
安全管理Ⅱ(発表会)	2016/09/30		院内教育(現任)	80	【目的】 医療安全のための事故対策について理解でき、安全な行動がとれる 【目標】 1) 安全な看護について考えることができる 2) 事例を通して危険を予知した安全行動をとることができる		中央診療棟4階 第1会議室
リーダーⅠ	2016/10/06		院内教育(現任)	78	【目的】 リーダーの役割を理解し、リーダーシップを発揮できる 【目標】 1. 日々リーダーの役割を理解できる 2. チームで看護を展開できる		西棟シミュレーションセンター 多目的室
フォローアップⅡ	2016/10/20	13:00~17:00	院内教育(新人)	115	【目的】 職人としての自己管理ができる 【目標】 1. 社会基礎力を活用した6か月を振り返り、自己の成長を認めることができる 2. 自分の思考の傾向に基づき振り返りを行うことで、今後どのようにしていくか具体的に考えることができる		病棟・中央診療棟4階 第1会議室
フォローアップⅡ	2016/10/21	13:00~17:00	院内教育(新人)	115	【目的】 職人としての自己管理ができる 【目標】 1. 社会基礎力を活用した6か月を振り返り、自己の成長を認めることができる 2. 自分の思考の傾向に基づき振り返りを行うことで、今後どのようにしていくか具体的に考えることができる		病棟・中央診療棟4階 第1会議室
ファシリテーション研修(実践編)	2016/10/22		院内教育(現任)	43	【目的】 ファシリテーションの実践的なスキルを学び、カンファレンスや会議を効果的に運営することができる 【目標】 1. ファシリテーションにおける自分の強み・弱みを理解できる 2. カンファレンスよりよくするスキルを身につけることができる		西棟シミュレーションセンター 多目的室
ファシリテーション研修(実践編)	2016/10/23		院内教育(現任)	43	【目的】 ファシリテーションの実践的なスキルを学び、カンファレンスや会議を効果的に運営することができる 【目標】 1. ファシリテーションにおける自分の強み・弱みを理解できる 2. カンファレンスよりよくするスキルを身につけることができる		西棟シミュレーションセンター 多目的室
フォローアップⅡ	2016/10/24	13:00~17:00	院内教育(新人)	115	【目的】 職人としての自己管理ができる 【目標】 1. 社会基礎力を活用した6か月を振り返り、自己の成長を認めることができる 2. 自分の思考の傾向に基づき振り返りを行うことで、今後どのようにしていくか具体的に考えることができる		病棟・中央診療棟4階 第1会議室
事例検討(グループワーク)	2016/10/25		院内教育(現任)	82	【目的】 患者のニーズを踏まえた看護が展開できる 【目標】 1) 事例を通して自己の看護過程の展開を振り返り、課題を抽出できる。 2. 論理的にプレゼンテーションができる		9月26日(月):中央・病棟診療棟4階第1会議室 10月25日(火)・11月15日(火)・12月22日(木):西棟シミュレーションセンター 多目的室
プリセプターフォローアップ②	2016/10/31	15:30~17:00	院内教育(現任)	111	【目的】 新人教育の目的を理解し、プリセプターの役割が実践できる 【目標】 1. 新人教育の目的を理解し、プリセプターの役割が実践できる 2. プリセプターの実践を通して自己の成長を感じる事ができる		中央診療棟4階第1会議室
プリセプターフォローアップ②	2016/11/04	15:30~17:30	院内教育(現任)	111	【目的】 新人教育の目的を理解し、プリセプターの役割が実践できる 【目標】 1. 新人教育の目的を理解し、プリセプターの役割が実践できる 2. プリセプターの実践を通して自己の成長を感じる事ができる		中央診療棟4階第1会議室
プリセプターフォローアップ②	2016/11/10	15:30~17:30	院内教育(現任)	111	【目的】 新人教育の目的を理解し、プリセプターの役割が実践できる 【目標】 1. 新人教育の目的を理解し、プリセプターの役割が実践できる 2. プリセプターの実践を通して自己の成長を感じる事ができる		中央診療棟4階第1会議室
事例検討(グループワーク)	2016/11/15		院内教育(現任)	82	【目的】 患者のニーズを踏まえた看護が展開できる 【目標】 1) 事例を通して自己の看護過程の展開を振り返り、課題を抽出できる。 2. 論理的にプレゼンテーションができる		9月26日(月):中央・病棟診療棟4階第1会議室 10月25日(火)・11月15日(火)・12月22日(木):西棟シミュレーションセンター 多目的室

指導者Ⅱ	2016/11/21	08:50~12:00	院内教育(現任)	21	【目的】 1. 人材育成能力を養うことができる。 2. 人を育てることで喜びを感じることができる。 【目 標】 1. 成人教育・継続教育基準・院内の教育体制を理解する。 2. 部内指導者が効果的に指導できるよう支援することができる。	病棟・中央診療棟 4 階第1 会議室
安全管理Ⅲ	2016/11/21	13:30~16:45	院内教育(現任)	22	【目的】 1. リスク完成を高め、安全な医療が提供できる。 【目 標】 1. 安全な医療システム構築の必要性が理解できる。 2. インシデント・アクシデント事例の要因分析方法が理解できる。 3. 事例について、要因分析・解決策の検討ができる。	病棟・中央診療棟 4 階第1 会議室
急変対応	2016/11/22	09:30~12:00	院内教育(現任)	52	【目的】 防ぎえた心停止、防ぎ得た後遺障害を回避するため、患者の評価と対応スキルを学ぶことができる。 【目 標】 1. 迅速評価・一次評価を理解できる。 2. SBARでの報告が理解できる。 3. 研修からの学びを日々の実践に活かすことができる。	①西棟臨床シミュレーションセンター-研修室Ⅲ ②西棟2 階看護学部模擬病室 ③西棟2 階看護学部実習室B
急変対応	2016/11/22	13:30~16:00	院内教育(現任)	52	【目的】 防ぎえた心停止、防ぎ得た後遺障害を回避するため、患者の評価と対応スキルを学ぶことができる。 【目 標】 1. 迅速評価・一次評価を理解できる。 2. SBARでの報告が理解できる。 3. 研修からの学びを日々の実践に活かすことができる。	①西棟臨床シミュレーションセンター-研修室Ⅲ ②西棟2 階看護学部模擬病室 ③西棟2 階看護学部実習室B
急変対応	2016/11/24	09:30~12:00	院内教育(現任)	52	【目的】 防ぎえた心停止、防ぎ得た後遺障害を回避するため、患者の評価と対応スキルを学ぶことができる。 【目 標】 1. 迅速評価・一次評価を理解できる。 2. SBARでの報告が理解できる。 3. 研修からの学びを日々の実践に活かすことができる。	①西棟臨床シミュレーションセンター-研修室Ⅲ ②西棟2 階看護学部模擬病室 ③西棟2 階看護学部実習室B
急変対応	2016/11/24	13:30~16:00	院内教育(現任)	52	【目的】 防ぎえた心停止、防ぎ得た後遺障害を回避するため、患者の評価と対応スキルを学ぶことができる。 【目 標】 1. 迅速評価・一次評価を理解できる。 2. SBARでの報告が理解できる。 3. 研修からの学びを日々の実践に活かすことができる。	①西棟臨床シミュレーションセンター-研修室Ⅲ ②西棟2 階看護学部模擬病室 ③西棟2 階看護学部実習室B
フィジカルアセスメントⅡ	2016/11/25		院内教育(現任)	46	【目的】 1. フィジカルアセスメント能力を高め、患者の観察・判断でき、必要な看護ができる。 【目 標】 1. 事例患者に必要な問診・視診・触診・聴診の方法と根拠がわかる。 2. フィジカルアセスメントから患者の即応アセスメントを行い必要な看護を考案する。	西棟シミュレーションセンター 多目的室
急変対応	2016/11/29	09:30~12:00	院内教育(現任)	52	【目的】 防ぎえた心停止、防ぎ得た後遺障害を回避するため、患者の評価と対応スキルを学ぶことができる。 【目 標】 1. 迅速評価・一次評価を理解できる。 2. SBARでの報告が理解できる。 3. 研修からの学びを日々の実践に活かすことができる。	①西棟臨床シミュレーションセンター-研修室Ⅲ ②西棟2 階看護学部模擬病室 ③西棟2 階看護学部実習室B
多重課題	2016/12/10	08:30~12:00	院内教育(新人)	116	【目的】 1. 看護現場における多重課題を、安全に優先順位を考慮実施できる 【目 標】 1. 多重課題のシミュレーションを通して、自己の行動パターンと思考過程を知ることができる	西棟1 階 臨床シミュレーションセンター多目的室 西棟2 階 看護学部 模擬病室、実習室B 平成28 年度 新人看護職員
多重課題	2016/12/10	13:00~16:30	院内教育(新人)	116	【目的】 1. 看護現場における多重課題を、安全に優先順位を考慮実施できる 【目 標】 1. 多重課題のシミュレーションを通して、自己の行動パターンと思考過程を知ることができる	西棟1 階 臨床シミュレーションセンター多目的室 西棟2 階 看護学部 模擬病室、実習室B 平成28 年度 新人看護職員
多重課題	2016/12/11	08:30~12:00	院内教育(新人)	116	【目的】 1. 看護現場における多重課題を、安全に優先順位を考慮実施できる 【目 標】 1. 多重課題のシミュレーションを通して、自己の行動パターンと思考過程を知ることができる	西棟1 階 臨床シミュレーションセンター多目的室 西棟2 階 看護学部 模擬病室、実習室B 平成28 年度 新人看護職員
多重課題	2016/12/11	13:00~16:30	院内教育(新人)	116	【目的】 1. 看護現場における多重課題を、安全に優先順位を考慮実施できる 【目 標】 1. 多重課題のシミュレーションを通して、自己の行動パターンと思考過程を知ることができる	西棟1 階 臨床シミュレーションセンター多目的室 西棟2 階 看護学部 模擬病室、実習室B 平成28 年度 新人看護職員
急変対応	2016/12/12	13:30~16:00	院内教育(現任)	52	【目的】 防ぎえた心停止、防ぎ得た後遺障害を回避するため、患者の評価と対応スキルを学ぶことができる。 【目 標】 1. 迅速評価・一次評価を理解できる。 2. SBARでの報告が理解できる。 3. 研修からの学びを日々の実践に活かすことができる。	①西棟臨床シミュレーションセンター-研修室Ⅲ ②西棟2 階看護学部模擬病室 ③西棟2 階看護学部実習室B
急変対応	2016/12/13	09:30~12:00	院内教育(現任)	52	【目的】 防ぎえた心停止、防ぎ得た後遺障害を回避するため、患者の評価と対応スキルを学ぶことができる。 【目 標】 1. 迅速評価・一次評価を理解できる。 2. SBARでの報告が理解できる。 3. 研修からの学びを日々の実践に活かすことができる。	①西棟臨床シミュレーションセンター-研修室Ⅲ ②西棟2 階看護学部模擬病室 ③西棟2 階看護学部実習室B
急変対応	2016/12/13	13:30~16:00	院内教育(現任)	52	【目的】 防ぎえた心停止、防ぎ得た後遺障害を回避するため、患者の評価と対応スキルを学ぶことができる。 【目 標】 1. 迅速評価・一次評価を理解できる。 2. SBARでの報告が理解できる。 3. 研修からの学びを日々の実践に活かすことができる。	①西棟臨床シミュレーションセンター-研修室Ⅲ ②西棟2 階看護学部模擬病室 ③西棟2 階看護学部実習室B
プリセプターエイド	2016/12/15	13:15~17:00	院内教育(現任)	28	【目的】 1. 新人教育の目的を理解し、プリセプターエイドの役割を遂行できる	中央診療棟4 階第1 会議室
多重課題	2016/12/17~2016/12/24	08:30~12:00	院内教育(新人)	116	【目的】 1. 看護現場における多重課題を、安全に優先順位を考慮実施できる 【目 標】 1. 多重課題のシミュレーションを通して、自己の行動パターンと思考過程を知ることができる	西棟1 階 臨床シミュレーションセンター多目的室 西棟2 階 看護学部 模擬病室、実習室B 平成28 年度 新人看護職員
多重課題	2016/12/17	13:00~16:30	院内教育(新人)	116	【目的】 1. 看護現場における多重課題を、安全に優先順位を考慮実施できる 【目 標】 1. 多重課題のシミュレーションを通して、自己の行動パターンと思考過程を知ることができる	西棟1 階 臨床シミュレーションセンター多目的室 西棟2 階 看護学部 模擬病室、実習室B 平成28 年度 新人看護職員
急変対応	2016/12/19	09:30~12:00	院内教育(現任)	52	【目的】 防ぎえた心停止、防ぎ得た後遺障害を回避するため、患者の評価と対応スキルを学ぶことができる。 【目 標】 1. 迅速評価・一次評価を理解できる。 2. SBARでの報告が理解できる。 3. 研修からの学びを日々の実践に活かすことができる。	①西棟臨床シミュレーションセンター-研修室Ⅲ ②西棟2 階看護学部模擬病室 ③西棟2 階看護学部実習室B
急変対応	2016/12/19	13:30~16:00	院内教育(現任)	52	【目的】 防ぎえた心停止、防ぎ得た後遺障害を回避するため、患者の評価と対応スキルを学ぶことができる。 【目 標】 1. 迅速評価・一次評価を理解できる。 2. SBARでの報告が理解できる。 3. 研修からの学びを日々の実践に活かすことができる。	①西棟臨床シミュレーションセンター-研修室Ⅲ ②西棟2 階看護学部模擬病室 ③西棟2 階看護学部実習室B
事例検討(グループワーク)	2016/12/22		院内教育(現任)	82	【目的】 1. 既知のケースを踏まえた看護が展開できる。 【目 標】 1. 事例を通して自己の看護過程の展開を振り返り、課題を抽出できる。 2. 論理的にプレゼンテーションができる。	9 月26 日(月):中央・病棟診療棟4 階第1 会議室 10 月25 日(火):11 月15 日(火)・12 月22 日(木):西棟シミュレーションセンター 多目的室
意思決定支援Ⅰ	2017/01/16	13:30~17:00	院内教育(現任)	27	【目的】 1. 患者中心の意思決定のための情報共有、支援ができる。 【目 標】 1. 意思決定支援の必要性を理解できる。 2. 患者が自ら意思決定できる支援の方法を理解できる。	西棟シミュレーションセンター 多目的室
マネジメントⅡ	2017/01/19	13:00~17:00	院内教育(現任)	22	【目的】 1. 部署および組織の目標を達成するために、自己の役割を果たすことができる。 【目 標】 1. 組織目標達成のための問題解決の方法を理解する。 2. 自部署の組織の現状分析ができる。	病棟・中央診療棟4 階第1 会議室
リーダー(宿泊研修のフォローアップ)	2017/01/26		院内教育(現任)	21	【目的】 1. リーダーシップを効果的に発揮し、メンバーが看護の魅力を実感できるよう支援することができる。 【目 標】 1. 看護の魅力を再確認できる。 2. 看護の魅力を引き出すための自己の役割について考えることができる。	西棟シミュレーションセンター 多目的室
プリセプター	2017/01/27	08:50~12:15	院内教育(現任)	58	【目的】 1. 新人教育の目的を理解し、プリセプターの役割が実践できる 2. プリセプターの役割を通して自己の成長を実感できる	病棟・中央診療棟4 階 第1 会議室
プリセプター	2017/01/27	13:15~16:40	院内教育(現任)	58	【目的】 1. 新人教育の目的を理解し、プリセプターの役割が実践できる 2. プリセプターの役割を通して自己の成長を実感できる	病棟・中央診療棟4 階 第1 会議室
交渉術	2017/01/30	13:00~17:00	院内教育(現任)	23	【目的】 1. 交渉の基本及び交渉をうまく進めるためのスキルを理解し、実践に活かせる。 2. コンフリクト発生時の協働的解決策の合意までの問題解決フローを理解でき、実践に活かせる。	病棟・中央診療棟4 階第1 会議室
主任研修(検討会)	2017/01/31	08:30~12:00	管理者教育	25	主任研修(検討会) 【目的】 1. 固定チームナースにおける主任の役割を果たすことができる。 【目 標】 1. 固定チームナースにおける主任の役割を理解し、実践できる。 2. 共同業務を明文化し、部署内で応援・共同業務を円滑に機能させ、業務の効率化を図る	病棟・中央診療棟4 階第1 会議室
主任研修	2017/01/31	09:00~12:00	管理者教育	17	主任研修(検討会) 【目的】 1. 固定チームナースにおける主任の役割を果たすことができる。 【目 標】 1. 固定チームナースにおける主任の役割を理解し、実践できる。 2. 共同業務を明文化し、部署内で応援・共同業務を円滑に機能させ、業務の効率化を図る	病棟・中央診療棟4 階第1 会議室
主任研修(検討会)	2017/01/31	12:45~16:45	管理者教育	25	主任研修(検討会) 【目的】 1. 固定チームナースにおける主任の役割を果たすことができる。 【目 標】 1. 固定チームナースにおける主任の役割を理解し、実践できる。 2. 共同業務を明文化し、部署内で応援・共同業務を円滑に機能させ、業務の効率化を図る	病棟・中央診療棟4 階第1 会議室
主任研修	2017/01/31	13:30~16:30	管理者教育	17	主任研修(検討会) 【目的】 1. 固定チームナースにおける主任の役割を果たすことができる。 【目 標】 1. 固定チームナースにおける主任の役割を理解し、実践できる。 2. 共同業務を明文化し、部署内で応援・共同業務を円滑に機能させ、業務の効率化を図る	病棟・中央診療棟4 階第1 会議室
主任研修(報告会)	2017/02/25		管理者教育	27	主任研修(報告会) 【目的】 1. 固定チームナースにおける主任の役割を理解し、実践できる。 2. 共同業務を明文化し、部署内で応援・共同業務を円滑に機能させ、業務の効率化を図ることができる。 【目 標】 1. ファシリテーションの効果と概要を理解できる。 2. ファシリテーションの各種スキルを身につけることができる。 3. 場面で活用しようという気持ちがある。	病棟・中央診療棟 3 階大ホール
ファシリテーション(基礎編)	2017/02/26	08:30~17:00	院内教育(現任)	28	【目的】 1. ファシリテーションの効果と概要を理解できる。 2. ファシリテーションの各種スキルを身につけることができる。 3. 場面で活用しようという気持ちがある。	病棟・中央診療棟4 階第1 会議室
フォローアップⅢ	2017/03/02	13:00~17:00	院内教育(新人)	88		
フォローアップⅢ	2017/03/03	13:00~17:00	院内教育(新人)	88		
フォローアップⅢ	2017/03/06	13:00~17:00	院内教育(新人)	88		

1 医療に係る安全管理のための指針

名古屋市立大学病院における医療に係る安全管理を推進するため、本指針を定める。

1. 医療機関における安全管理に関する基本的考え方

市立大学病院は、患者さんの貴重な生命を預かる病院として、安全で安心できる質の高い医療を提供する使命がある。特定機能病院として高度な医療の提供や教育を実施する中で、責任体制や役割分担を明確にし、病院全体で安全管理の徹底を図り、職員一人ひとりが患者さんを中心とした安全管理を意識し、医療事故防止に取り組んでいく。当院に勤務する全ての職員に対して、より安全な医療の提供と患者満足度の向上を第一にした医療安全活動を再認識させ、安全に対する意識を高めマニュアルを遵守した改善・改革を推進していくことを安全管理の基本方針とする。

2. 安全管理委員会・その他の組織に関する基本的事項

本院の安全管理体制の確保及び推進のため、副病院長（安全管理担当）を医療安全管理責任者、医療安全管理室長を安全管理指導者とする。また、医療の安全性の確保と適切な医療を提供するとともに、病院機能の向上と運営改善に資するために、医療安全管理室を設置する。医療安全管理室は、医療安全を組織横断的に推進し、適切かつ効率的に事故防止を図り、安全管理を行う。

当院全体の医療安全管理について検討・審議を行う医療安全管理委員会、医療安全管理責任者（副病院長 安全管理担当）から任命された各部門のセーフティマネージャーを中心に活動する周知徹底機関としてセーフティマネージャー会議を設置し病院全体で継続的に取り組んでいくものとする。それらの組織、運用についてはそれぞれ別に規程を設ける。

3. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針

- 1) 医療安全管理委員会は、予め作成した研修計画に従い 1 年に 2 回程度の全職員を対象とした医療安全管理のための研修を定期的実施する。
- 2) 研修は、医療安全管理の基本的な考え方、事故防止の具体的な手法等を全職員に周知徹底することを通じて、職員個々の医療安全意識の向上を図るとともに、当院全体の医療安全を向上させることを目的とする。
- 3) 職員は、研修が実施される際には、極力、受講するよう努めなくてはならない。
- 4) 病院長は、当院で重大医療事故が発生した場合や必要があると認めた場合は、臨時で、報告会を開催し全職員に対して情報を提供する。
- 5) 医療安全管理のための研修の実施方法としては、外部講師を招聘しての講習会、院内での事例または医療安全取り組み報告会、医薬品安全管理・医療機器安全管理に関する研修会等実施する。

4. 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針

- 1) 医療安全管理の推進に必要な事項を定めた、「リスクマネジメントマニュアル」を作成し、医療事故防止対策に活用する。
- 2) インシデント・アクシデントの報告は、リスクマネジメントマニュアルに基づき医療事故等へ結びつく可能性のある事例を院内から広く集約し、その要因を分析することにより、医療事故等の防止を図るとともに、リスクマネジメントに対する病院全体の意識の高揚を図るものとする。
- 3) 報告された事例は、医療安全管理室でとりまとめ、医療安全管理委員会で事例の把握ならびに原因分析に基づいた防止対策・改善策について審議し、セーフティーマネージャー会議やRMニュースを通じて院内に再発防止策を周知徹底する。
- 4) インシデント・アクシデントレポートは、報告により当事者が不利益を受けないことを担保するために、原則非公開とする。

5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針

- 1) 医療事故等が発生した場合は、当院の総力を結集して、患者の救命と被害の拡大防止に全力を尽くす。また、当院内のみでの対応が不可能と判断された場合には、遅滞なく他の医療機関の支援を求めるものとする。
- 2) 患者・家族への説明は、事故発生後、救命措置の遂行に支障を来たさない限り可及的速やかに、事故の状況、現在実施している回復措置、その見通し等について各担当医・部門長等が誠意をもって正確に説明する。
- 3) 重大医療事故が発生した場合には、発生した事故情報の把握、原因究明、対応策及び再発防止策の検討を速やかに図るため、「重大医療事故報告制度の流れ」に基づき対応する。
- 4) 対応した職員は、その事実および説明内容を診療録に記録する。

6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針

医療安全管理のための理念をホームページに掲げるとともに、「名古屋市立大学病院医療事故等公表基準」に基づき医療事故等を公表することにより、より透明な、より安全な医療システムを確立し、尊い生命を預かる病院として信頼できる質の高い医療を提供する。

7. 患者からの相談への対応に関する基本方針

- 1) 患者及びその家族から医療に関する相談に対して適切な対応及び情報提供等の支援を行うために、患者相談室を設置する。誠実に対応するとともに相談により患者等が不利益を被らないこと及び患者等の情報の保護のために適切な配慮を講じるものとする。
- 2) 医療安全に関わる苦情や相談については、医療安全管理委員会やセーフティー

マネージャー会議等に詳細に報告し当院の医療安全対策の見直し等に活用する。

8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針

医療安全をより推進させるために、「リスクマネジメントマニュアル」は定期的（年1回）及び随時改訂し、その内容を病院全職員へ周知・徹底する。また、医療安全確保体制の見直しを行うとともに、他機関からの情報収集に努め医療安全の改善・推進を図る。

9. 本指針の周知ならびに見直し及び改訂

- 1) 本指針の内容は、医療安全管理委員会を通じて、全職員に周知徹底する。
- 2) 医療安全管理委員会は、少なくとも毎年1回以上、本指針の見直しを議事として取り上げ検討するものとする。

附 則

本指針は、平成19年12月1日から施行する。

附 則

本指針は、平成23年4月14日から施行する。

附 則

本指針は、平成26年5月20日から施行する。

附 則

本指針は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

本指針は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

本指針は、平成28年7月19日から施行する。

医療安全管理委員会設置規程

1 設 置

名古屋市立大学病院（以下「本院」という。）に、本院内で医療に係る安全管理を目的として、名古屋市立大学病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 組 織

- (1) 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって構成する。
- (2) 委員長は、医療安全管理責任者である副病院長（安全管理担当）とし、副委員長は、医療安全管理室長とする。
- (3) 委員は、次の各号に掲げる者とする。
 - 一 医薬品安全管理責任者
 - 二 医療機器安全管理責任者
 - 三 病院部長会で選出された部長 2 名（内科系 1 名、外科系 1 名）
 - 四 病院長が指定する診療科（内科、外科においては医学部の分野単位とする。）及び中央部門から選出された教員 6 名（内科系 2 名、外科系 2 名、中央部門 1 名、感染制御室 1 名）
 - 五 看護部長
 - 六 医学・病院管理部長
 - 七 医療安全管理室副室長
 - 八 外部有識者 2 名
 - 九 病院長

3 審議事項

委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 医療事故の調査、分析及び再発防止策に関すること
- (2) 医療に係る安全管理のための職員研修及び広報に関すること
- (3) 医療事故等の公表に関すること
- (4) その他医療に係る安全管理に関すること

4 会 議

- (1) 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
- (2) 委員長に事故がある時は、病院長の指定する者がその職務を代行する。
- (3) 委員会は、構成員の 2 分の 1 以上の出席がなければ開くことができない。
- (4) 委員長が必要と認めるときは、構成員以外の者に出席を求め意見を聴くこ

とができる。

(5) 委員会は、月一回程度開催するとともに、重大な問題が発生した場合は適宜開催する。

5 庶務

委員会の庶務は、医療安全管理室において行う。

6 その他

この規程に定めることのほか、医療に係る安全管理に関して必要な事項は、委員長が委員会に諮ったうえで定める。

附 則

- 1 この規程は、平成28年9月30日から施行する。
- 2 医療安全管理委員会設置要綱は廃止する。

附 則

- 1 この規程は、平成29年5月16日から施行し、4月1日から適用する。

平成28年度 安全管理の体制確保のための職員研修の実績

年月日	研修会名等	対象職員	参加者数	時間	内容
H28. 4. 1	新規採用者研修会	全職員	369名	6時05分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院長訓示・講話 ・ 医療倫理について ・ 個人情報保護について ・ 診療録管理について ・ 利益相反マネジメントについて ・ 保険診療について ・ 医薬品の安全管理について ・ 病院の災害対応について
H28. 4. 2				6時20分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接遇について ・ 医療の安全対策について ・ 院内感染対策について
H28. 5. 2	医師事務作業補助者研修	医師事務作業補助者就業前の職員	4名	1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療事故防止の基本的な考え方 ・ 名古屋市立大学病院の医療安全対策と具体的な対応
H28. 7. 13	第1回 Team STEPPS 学習会	全職員	24名	1時間	Team STEPPS 学習会 講師：分娩成育先端医療センター副センター長 尾崎 康彦先生 他ファシリテーター数名
H28. 7. 19	医薬品安全管理研修会	全職員	188名	1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 麻薬の取り扱いについて ・ 麻薬を上手に使用するために「緩和ケアの立場から」
H28. 7. 29	中途採用者研修会	中途採用職員 (資料確認)	17名 8名	1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 院内感染予防対策 (中村室長、田上認定看護師) ・ 安全管理 (松尾副室長) ・ レポート報告について (水野主幹)
H28. 8. 1	第1回 医療事故防止講演会	全職員	438名	1時間	医療事故調査制度への対応と問題点 ～施行から10ヶ月経過して～ 講師：北海道大学医療安全管理部部長 南須原 康行氏
H28. 8. 19	医師事務作業補助者研修	医師事務作業補助者就業前の職員	4名	1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療事故防止の基本的な考え方 ・ 名古屋市立大学病院の医療安全対策と具体的な対応
H28. 8. 29	第1回 P I C C 院内講習会	若手医師	5名	2時間	・ P I C C の挿入方法について (講義・演習)
H28. 10. 5	第2回 P I C C 院内講習会	若手医師	8名	2時間	・ P I C C の挿入方法について (講義・演習)
H28. 10. 12	第2回 Team STEPPS 学習会	全職員	20名	1時間	Team STEPPS 学習会 講師：分娩成育先端医療センター副センター長 尾崎 康彦先生 他ファシリテーター数名
H28. 10. 18	第1回 危機管理研修会	全職員	557名	1時間	ピアレビュー報告 重大事例報告 モンスターペイシエント対策
H29. 1. 27	中途採用者研修会	中途採用職員 (資料確認)	40名 24名	1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 院内感染予防対策 (中村室長、田上認定看護師) ・ 安全管理 (戸澤副室長) ・ レポート報告について (水野主幹)
H29. 2. 1	第3回 Team STEPPS 学習会	全職員	24名	1時間	Team STEPPS 学習会 講師：分娩成育先端医療センター副センター長 尾崎 康彦先生 他ファシリテーター数名
H29. 2. 13	第2回 医療事故防止講演会	全職員	522名	1時間	インフォームド・コンセントの注意点と診療録・看護記録の重要性 講師：SOMPOリスクケアマネジメント株式会社 医療リスクマネジメント事業部 星野 智史 氏
H29. 2. 27	第3回 P I C C 院内講習会	若手医師	-	2時間	・ P I C C の挿入方法について (講義・演習)
H29. 3. 13	第2回 危機管理研修会	全職員	558名	1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ インシデントレポート影響度分類について：戸澤副室長 ・ 重大事例報告会：村上室長 ・ 医療安全全国共同行動ワーキング活動報告 各グループ代表者 (1～7グループ)
合計	16回		2810名		

I. 名古屋市立大学病院院内感染対策のための指針

1 院内感染対策に関する基本的考え方

患者とその家族、職員、委託職員、学生等院内すべての人々を院内感染から守るための効果的予防及び管理を実践する。

手指衛生をはじめとする標準予防策、あるいは必要に応じて感染経路別予防策を追加しての実践や、抗菌薬の適正使用を推進できるよう、医療従事者全員に指導・教育を徹底する。

また最新情報に基づき現行の感染対策を常に評価し改善していく。

2 名古屋市立大学病院における感染を積極的に防止し、院内の衛生管理に万全を期するため、感染対策委員会を置く。【感染対策委員会規約】

3 院内感染対策のための病院職員に対する研修に関する基本方針

(1) 院内感染対策講演会の開催

毎年2回、全職員を対象に院内感染対策の意識向上を図るため講演会を開催する。

(2) 毎年4月に、新規採用教職員に対して院内感染対策に関する研修会を実施する。

(3) 本院への中途採用者に対して、適時院内感染対策に関する研修を行う。

4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針

中央臨床検査部にて院内感染を疑わせる病原微生物を検出した場合又は医療現場にて院内感染の発生が疑われる場合には、担当医師及び看護師長へ報告する。報告を受けた担当医師は、感染制御室に対応について指示を受け、必要があれば、感染症発生（診断）時の対応マニュアルに従い迅速に対応する。また、時間外に緊急度の高い院内感染の発生が疑われる場合には、感染制御室員に対応について指示を受ける。

感染制御室は、当該事例について、感染対策委員会委員長（病院長）、感染対策チーム会委員長に報告する。

5 院内感染発生時の対応に関する基本方針

院内感染発生を把握した場合には対応について感染制御室に指示を受ける。感染制御室は、緊急度に応じて対策について感染対策委員会委員長（病院長）、感染対策チーム会委員長に相談し、対策を指示・実施する。病院職員及び関連する所属は、指示に基づいて感染症発生（診断）時の対応マニュアルに従い迅速に対応する。

6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針

本指針は、患者等からの申請に応じて、閲覧に供する。閲覧を希望する者は、病院長へ申し出ることとし、閲覧場所は医学・病院管理部事務課とする。(受付窓口：医学・病院管理部事務課)

7 その他の院内感染対策の推進のための基本方針は必要に応じて病院長が別に定める。

8 他医療施設職員等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針

本指針は、他の医療機関における感染対策整備の参考等としての申請に応じて、閲覧に供する。閲覧を希望する者は、病院長へ申し出ることとし、閲覧方法は他医療施設職員等の状況に応じ、医学・病院管理部事務課が対応する。

附 則

この指針は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この指針は、平成 19 年 11 月 6 日から施行する。

附 則

この指針は、平成 20 年 10 月 23 日から施行する。

附 則

この指針は、平成 23 年 5 月 17 日から施行する。

附 則

この指針は、平成 27 年 6 月 16 日から施行し、4 月 1 日から適用する。

附 則

この指針は、平成 29 年 5 月 16 日から施行し、4 月 1 日から適用する。

平成 28 年度 感染対策委員会開催状況

回数・日時	議事
第 1 回 28 年 4 月 14 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 名古屋市立大学病院 院内感染対策のための指針について 2. 感染対策委員会委員の確認について 3. 平成 28 年 3 月分微生物分離菌状況報告について 4. 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について 5. 平成 28 年 1~3 月分抗菌薬使用状況について 6. インフルエンザ発生状況について 7. ICT ラウンドについて 8. 平成 28 年度第 1 回感染対策講演会開催について 9. NCU インфекションセミナーについて
第 2 回 28 年 5 月 26 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 9 月の感染対策委員会の日程について 2. 平成 28 年度 ICT ラウンドについて 3. 平成 28 年度ワクチン接種スケジュールについて 4. 4 月分微生物分離菌状況報告について 5. 感染症・感染対策相談、カンファレンスについて 6. 平成 27 年度針刺し・切創・体液曝露報告について 7. 平成 27 年度 ICT ラウンドまとめ 8. 平成 28 年度第 1 回感染対策講演会開催について 9. NCU インфекションセミナーについて
第 3 回 28 年 6 月 23 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染対策マニュアル（改訂案）について VI. 針刺し・切創による血液・体液曝露時における対応 IX-8. クロイツフェルト・ヤコブ病 2. 5 月分微生物分離菌状況報告について 3. 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について 4. 国公立大学附属病院感染対策協議会ブロック別研修会について 5. 平成 28 年度感染防止対策地域連携加算感染対策相互ラウンドについて 6. 平成 28 年度第 1 回感染対策講演会開催について 7. NCU インфекションセミナーについて
第 4 回 28 年 7 月 28 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 28 年度 手指衛生キャンペーンについて 2. 6 月分微生物分離菌状況報告について 3. 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について 4. 4~6 月分 抗菌薬使用状況について 5. 第 1 回感染対策講演会（7 月 1 日開催）出席状況・アンケート結果報告について 6. 平成 28 年度地域連携加算感染対策相互チェックについて 7. NCU インфекションセミナー開催について
第 5 回 28 年 8 月 25 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジカウイルス感染症マニュアル、デング熱マニュアル一部改訂について 2. 血液培養検体採取ガイドラインの改訂について 3. 7 月分微生物分離菌状況報告について 4. 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について

	<ul style="list-style-type: none"> 5. 平成 28 年度 地域連携加算感染対策相互チェックについて 6. ICTニュース第 18 号、19 号の発行について
<p>第 6 回 28 年 9 月 29 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 通常疥癬発症事例について 2. 平成 28 年度職員インフルエンザワクチン接種について 3. 感染管理マニュアル改訂について 4. 抗酸菌核酸同定検査（PCR法）の運用について 5. 平成 28 年度入院患者インフルエンザワクチン接種について 6. 8 月分微生物分離菌状況報告について 7. 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について 8. 手指衛生キャンペーン中間報告について 9. NCU インфекションセミナーについて
<p>第 7 回 28 年 10 月 20 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. ザイボックス錠 600mg 採用開始に伴う運用について 2. 9 月分微生物分離菌状況報告について 3. 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について 4. 7～9 月抗菌薬使用状況について 5. 地域連携加算感染対策相互チェックの結果について 6. 講演会・セミナーについて <ul style="list-style-type: none"> 1) 栄養サポートチーム特別講演会 2) NCU インフェクションセミナー 3) 桜山ウイルス研究会 4) 第 2 回感染対策講演会開催
<p>第 8 回 28 年 11 月 17 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 10 月分微生物分離菌状況報告について 2. 感染症・感染対策相談、カンファレンスについて 3. 平成 28 年度 ICT ラウンド上半期まとめについて 4. 針刺し・切創・体液曝露の上半期のまとめについて 5. 手指衛生キャンペーンの結果について 6. 第 20 号 ICT ニュースの発行について 7. 講演会・セミナー <ul style="list-style-type: none"> 1) 桜山ウイルス研究会 2) 第 2 回感染対策講演会開催 3) NCU インフェクションセミナー
<p>第 9 回 28 年 12 月 22 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 11 月分微生物分離菌状況報告について 2. 感染症・感染対策相談、カンファレンスについて 3. 平成 28 年度新型インフルエンザ等対策総合訓練の結果について 4. 医療監視の指摘事項に関する報告について 5. 講演会・セミナー <ul style="list-style-type: none"> 1) 第 2 回感染対策講演会開催について 2) NCU インフェクションセミナー
<p>第 10 回 29 年 1 月 26 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 新型インフルエンザ等対策に関するワーキンググループ設置について 2. 12 月分微生物分離菌状況報告について 3. 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について 4. 10～12 月抗菌薬使用状況について 5. インフルエンザ発生状況について

	<ul style="list-style-type: none"> 6. PPEホルダー設置について 7. 第2回感染対策講演会について 8. NCUインフェクションセミナーについて
<p>第11回 29年2月23日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 職員の健康管理・感染対策の提案について 2. 1月分微生物分離菌状況報告について 3. 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について 4. インフルエンザ発生状況について 5. 第1回新型インフルエンザ等対策ワーキングについて 6. NCUインフェクションセミナーについて
<p>第12回 29年3月16日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2月分微生物分離菌状況報告について 2. 平成28年1月～12月微生物検査報告について 3. 感染症・感染対策相談、カンファレンスの報告について 4. インフルエンザ発生状況について 5. JANIS薬剤耐性菌感染症サーベイランス報告について 6. 第2回感染対策講演会eラーニング受講結果について 7. NCUインフェクションセミナーについて

1 医療機器の安全使用のための研修の実施状況(平成28年4月～平成29年3月)(特定機能病院)

① 新しい医療機器の導入時の研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
(例)	2009/6/1 2009/6/3	人工呼吸器の取り扱い方	講義、講義映像の視聴	看護師	100	
1	2016/4/4	超音波観測装置 Asendus	講義・実技	看護師・臨床工学技士	18	中央手術部
2	2016/4/11	携帯型自己調節鎮痛ポンプ(PCAポンプ)	講義・実技	看護師・臨床工学技士	37	看護部
3	2016/4/5	超音波観測装置 Asendus	講義・実技	看護師	9	中央手術部
4	2016/4/5	超音波観測装置 Asendus	講義・実技	医師	6	泌尿器科・脳神経外科
5	2016/4/6	超音波観測装置 Asendus	講義・実技	医師	1	麻酔科
6	2016/4/7	超音波観測装置 Asendus	講義・実技	看護師	9	中央手術部
7	2016/4/8	超音波観測装置 Asendus	講義・実技	看護師	4	中央手術部
8	2016/4/12	携帯型自己調節鎮痛ポンプ(PCAポンプ)	講義・実技	看護師	25	看護部
9	2016/4/14	携帯型自己調節鎮痛ポンプ(PCAポンプ)	講義・実技	看護師	76	看護部
10	2016/4/14	レーザー照射装置 ナビラス	講義	医師	7	眼科
11	2016/4/15	携帯型自己調節鎮痛ポンプ(PCAポンプ)	講義・実技	看護師	29	看護部
12	2016/4/18	携帯型自己調節鎮痛ポンプ(PCAポンプ)	講義・実技	看護師	46	看護部
13	2016/4/19	携帯型自己調節鎮痛ポンプ(PCAポンプ)	講義・実技	看護師	32	看護部
14	2016/4/20	携帯型自己調節鎮痛ポンプ(PCAポンプ)	講義・実技	看護師	26	看護部
15	2016/4/21	携帯型自己調節鎮痛ポンプ(PCAポンプ)	講義・実技	看護師	20	看護部
16	2016/4/22	一酸化窒素ガス管理システム アイノフローDS	講義・実技	医師	2	小児科

17	2016/4/27	白内障手術システム センチュリオン	講義・実技	臨床工学技士	3	臨床工学室
----	-----------	-------------------	-------	--------	---	-------

① 新しい医療機器の導入時の研修

18	2016/5/17	白内障手術システム センチュリオン	講義・実技	看護師	27	中央手術部
19	2016/5/17	一酸化窒素ガス管理システム アイノフローDS	講義	看護師	8	NICU・GCU
20	2016/5/19	一酸化窒素ガス管理システム アイノフローDS	講義	医師・看護師	12	NICU・GCU
21	2016/5/24	一酸化窒素ガス管理システム アイノフローDS	講義	医師・看護師	9	NICU・GCU
22	2016/5/26	電気手術器(電気メス)	講義	看護師	12	中央手術部
23	2016/6/3	放射線検出装置 ネオプローブ	講義・実技	看護師・臨床工学技士	26	中央手術部
24	2016/6/7	放射線検出装置 ネオプローブ	講義・実技	看護師・臨床工学技士	11	中央手術部
25	2016/6/8	放射線検出装置 ネオプローブ	講義・実技	看護師・臨床工学技士	11	中央手術部
26	2016/6/10	非侵襲心拍出量モニタ エスクロンミニ	講義・実技	臨床工学技士	4	臨床工学室
27	2016/6/23	一酸化窒素ガス管理システム アイノフローDS	講義・実技	臨床工学技士	8	臨床工学室
28	2016/6/10	AED ハートスタートFR3 Pro	講義・実技	看護師	12	17南
29	2016/6/13	AED ハートスタートFR3 Pro	講義・実技	看護師	11	17南
30	2016/6/15	AED ハートスタートFR3 Pro	講義・実技	看護師	6	17南
31	2016/6/16	AED ハートスタートFR3 Pro	講義・実技	看護師	6	17南
32	2016/7/21	供血用遠心分離器416G	講義・実技	医師	16	歯科口腔外科
33	2016/9/12	ネーザルハイフロー供給システムF&P Optiflow Jr	講義・実技	看護師	9	9階南
34	2016/9/15	ネーザルハイフロー供給システムF&P Optiflow Jr	講義・実技	看護師	11	9階南
35	2016/10/28	AED ハートスタートFR3 Pro	講義・実技	看護師	11	15南
36	2016/10/31	AED ハートスタートFR3 Pro	講義・実技	看護師	18	15北・南

37	2016/12/6	生体情報モニタ Intellivue X2	講義	看護師	10	NICU・GCU
38	2016/12/14	ウォーターパッド特定加温装置システム ブランケットロールⅢ	講義	看護師	10	ICU・CCU

① 新しい医療機器の導入時の研修

39	2016/12/15	ウォーターパッド特定加温装置システム ブランケットロールⅢ	講義	看護師	13	ICU・CCU
40	2016/12/16	ウォーターパッド特定加温装置システム ブランケットロールⅢ	講義	看護師	9	ICU・CCU
41	2016/12/26	開放型保育器 インファウオーマ	講義	看護師	16	中央手術部
42	2017/1/16	麻酔器 Carestation600	講義	臨床工学技士	5	臨床工学室
43	2017/1/12	MRI-超音波融合画像診断ソフトウェア BioJet	講義	臨床工学技士	6	臨床工学室
44	2017/1/27	AED ハートスタートFR3 Pro	講義	看護師	6	10階南
45	2017/3/2	麻酔器 ペルセウスA-500	講義	看護師	15	中央手術部
46	2017/3/6	麻酔器 ペルセウスA-500	講義	看護師	16	中央手術部
47	2017/3/8	麻酔器 ペルセウスA-500	講義	医師	11	中央手術部
48	2017/3/21	逆浸透水処理装置 MZ-Ⅱ	講義	臨床工学技士	4	人工透析部
49	2017/3/22	ネーザルハイフロー VAPOTHERMプレシジョンフロー	講義	看護師	8	ICU・PICU・CCU
50	2017/3/23	ネーザルハイフロー VAPOTHERMプレシジョンフロー	講義	看護師	3	ICU・PICU・CCU
51	2017/3/23	開放型保育器 インファウオーマ	講義	看護師	9	NICU・GCU
52	2017/3/24	ネーザルハイフロー VAPOTHERMプレシジョンフロー	講義	看護師	13	ICU・PICU・CCU
53	2017/3/27	開放型保育器 インファウオーマ	講義	看護師	9	NICU・GCU
54	2017/3/27	開放型保育器 インファウオーマ	講義	看護師	2	NICU・GCU

② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
----	-------	------------	------	------	------	----

1	2016/4/6	人工呼吸器 トリロジーO2Plus	講義・実技	看護師	7	12階南
---	----------	-------------------	-------	-----	---	------

② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

2	2016/5/6	閉鎖式保育器 V-2100G	講義・実技	看護師	8	NICU・GCU
3	2016/4/21	補助循環装置(PCPS) CAPIOXEB SNEO SP-200	講義・実技	看護師	12	ICU・PICU・CCU
4	2016/4/22	補助循環装置(PCPS) CAPIOXEB SNEO SP-200	講義・実技	看護師	8	ICU・PICU・CCU
5	2016/4/25	補助循環装置(PCPS) CAPIOXEB SNEO SP-200	講義・実技	医師・看護師	8	ICU・PICU・CCU 麻酔科
6	2016/4/28	補助循環装置(PCPS) CAPIOXEB SNEO SP-200	講義・実技	看護師・臨床工学技士	5	ICU・PICU・CCU 臨床工学室
7	2016/5/9	補助循環装置(PCPS) CAPIOXEB SNEO SP-200	講義・実技	医師	5	麻酔科
8	2016/5/10	補助循環装置(PCPS) CAPIOXEB SNEO SP-200	講義・実技	医師・看護師	27	麻酔科 循環器内科 ICU・PICU・CCU
9	2016/4/20	高エネルギーX線発生装置(リニアック・トモセラピー) 密封小線源放射線治療装置(RALS)	講義	診療放射線技師	41	中央放射線部
10	2016/5/13	新生児・小児用人工呼吸器 インファントフローサイパップ	講義・実技	看護師	8	NICU・GCU
11	2016/5/30	補助循環装置(PCPS) CAPIOXEB SNEO SP-200	講義・実技	看護師	9	救急救命
12	2016/6/29	密封小線源放射線治療装置 RALS	講義	診療放射線技師	5	中央放射線部
13	2016/7/7	人工呼吸器 SLE5000	講義・実技	看護師	2	NICU・GCU
14	2016/7/7	人工呼吸器 VN500	講義・実技	看護師	2	NICU・GCU
15	2016/7/7	人工呼吸器 ハミングX	講義・実技	看護師	2	NICU・GCU
16	2016/6/29	人工呼吸器 サーボU	講義・実技	看護師	10	ICU・PICU・CCU
17	2016/7/4	人工呼吸器 サーボU	講義・実技	看護師	8	ICU・PICU・CCU
18	2016/7/8	人工呼吸器 サーボU	講義・実技	看護師	7	ICU・PICU・CCU

19	2016/8/3	人工呼吸器 SLE5000	講義・実技	看護師	4	NICU・GCU
20	2016/8/3	人工呼吸器 VN500	講義・実技	看護師	4	NICU・GCU
21	2016/8/3	人工呼吸器 ハミングX	講義・実技	看護師	4	NICU・GCU
22	2016/8/16	血液浄化装置 ACH-Σ	講義	看護師	9	ICU・PICU・CCU

② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

23	2016/9/1	除細動器 ハートスタートXL+	講義・実技	臨床工学技士	9	臨床工学室
24	2016/9/2	人工呼吸器 SLE5000	講義・実技	看護師	1	NICU・GCU
25	2016/9/2	人工呼吸器 VN500	講義・実技	看護師	1	NICU・GCU
26	2016/9/2	人工呼吸器 ハミングX	講義・実技	看護師	1	NICU・GCU
27	2016/9/13	人工呼吸器 V60	講義・実技	看護師	10	12階南
28	2016/9/15	人工呼吸器 トリロジーO2 Plus	講義	看護師	6	12階南
29	2016/9/23	人工呼吸器 トリロジーO2 Plus	講義	看護師	6	14階南
30	2016/10/6	人工呼吸器 ハミングX	講義・実技	看護師	2	NICU・GCU
31	2016/10/6	人工呼吸器 VN500	講義・実技	看護師	2	NICU・GCU
32	2016/10/6	人工呼吸器 SLE5000	講義・実技	看護師	2	NICU・GCU
33	2016/10/18	人工心肺装置 S5	講義	臨床工学技士	2	中央手術部
34	2016/10/18	人工心肺装置 S5	講義	看護師	15	中央手術部
35	2016/10/21	人工呼吸器 トリロジーO2 Plus	講義	看護師	22	NICU・GCU
36	2016/10/27	高エネルギーX線発生装置(リニアック・トモセラピー) 密封小線源放射線治療装置(RALS)	講義	診療放射線技師	40	中央放射線部
37	2016/11/4	人工心肺装置 S5	講義	看護師	15	中央手術部
38	2016/11/10	血液浄化装置 ACH-Σ	講義	臨床工学技士	10	臨床工学室

39	2016/11/16	新生児・小児用人工呼吸器 インファントフローサイパップ	講義・実技	看護師	8	9階南
40	2016/11/18	新生児・小児用人工呼吸器 インファントフローサイパップ	講義・実技	看護師	8	9階南
41	2016/12/15	人工呼吸器 トリロジーO2	講義	看護師	16	14階北
42	2016/12/16	人工呼吸器 トリロジーO2	講義	看護師	8	12階南

② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

43	2016/12/19	人工呼吸器 トリロジーO2	講義	看護師	10	12階南
44	2017/1/19	除細動器 TEC-5631	講義	臨床工学技士	8	臨床工学室
45	2017/1/24	新生児・小児用人工呼吸器 インファントフローサイパップ	講義	看護師	11	NICU・GCU
46	2017/1/25	除細動器 TEC-5631	講義	医師・看護師・中央放射線技師	6	中央放射線部
47	2017/1/27	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	15	14階北
48	2017/1/30	新生児・小児用人工呼吸器 インファントフローサイパップ	講義	看護師	12	NICU・GCU
49	2017/1/31	除細動器 TEC-5631	講義	医師・看護師・中央放射線技師	6	中央放射線部
50	2017/2/2	人工呼吸器	講義	看護師	15	14階南
51	2017/2/7	人工呼吸器 VN500	講義	臨床工学技士	4	臨床工学室
52	2017/2/10	人工呼吸器 トリロジーO2	講義	看護師	10	11階北
53	2017/2/14	人工呼吸器 VN500	講義	臨床工学技士	4	臨床工学室
54	2017/2/21	人工呼吸器 VN500	講義	臨床工学技士	4	臨床工学室
55	2017/2/23	人工呼吸器 トリロジーO2	講義	看護師	13	11階南
56	2017/2/24	人工呼吸器 トリロジーO2	講義	看護師	4	救急救命
57	2017/2/24	人工呼吸器 トリロジーO2	講義	看護師	6	救急救命
58	2017/2/28	人工呼吸器 VN500	講義	臨床工学技士	4	臨床工学室

59	2017/2/28	個人用人工透析装置 DBB-100NX	講義・実技	看護師・臨床工学技士	9	人工透析部
60	2017/3/1	新生児・小児用人工呼吸器 インファントフローサイパップ	講義	看護師	11	PICU
61	2017/3/1	保育器 V-2100G・インキュ	講義	臨床工学技士・委託職員	6	MEセンター
62	2017/3/2	補助循環装置(PCPS) CAPIOXESNEO SP-200	講義	臨床工学技士	5	臨床工学室
63	2017/3/2	保育器 V-2100G・インキュ	講義	臨床工学技士・委託職員	7	臨床工学室

② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

64	2017/3/3	新生児・小児用人工呼吸器 インファントフローサイパップ	講義	看護師	10	PICU
65	2017/3/6	新生児・小児用人工呼吸器 インファントフローサイパップ	講義	看護師	10	PICU
66	2017/3/7	個人用人工透析装置 DBB-100NX	講義・実技	看護師・臨床工学技士	4	人工透析部
67	2017/3/7	補助循環装置(PCPS) CAPIOXESNEO SP-200	講義・実技	臨床工学技士	4	臨床工学室
68	2017/3/13	人工呼吸器 トリロジーO2	講義	看護師	9	救急救命
69	2017/3/13	個人用人工透析装置 DBB-100NX	講義・実技	看護師・臨床工学技士	6	人工透析部
70	2017/3/14	個人用人工透析装置 DBB-100NX	講義・実技	看護師・臨床工学技士	3	人工透析部
71	2017/3/14	補助循環装置(ECLHA)	講義・実技	医師・看護師・臨床工学技士	21	麻酔科
72	2017/3/14	補助循環装置(ECLHA)	講義・実技	医師・看護師・臨床工学技士	3	麻酔科
73	2017/3/15	個人用人工透析装置 DBB-100NX	講義・実技	医師・看護師	3	人工透析部
74	2017/3/16	個人用人工透析装置 DBB-100NX	講義・実技	医師・看護師・臨床工学技士	5	人工透析部
75	2017/3/16	補助循環装置(ECLHA)	講義・実技	医師・看護師・臨床工学技士	3	麻酔科
76	2017/3/17	個人用人工透析装置 DBB-100NX	講義・実技	看護師・臨床工学技士	2	人工透析部

(注) 1 「特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器」とは、①人工心肺装置及び補助循環装置、②人工呼吸器、③血液浄化装置、④除細動装置(AEDを除く)、⑤閉鎖式保育器、⑥診療用高エネルギー放射線発生装置、⑦診療用放射線照射装置です。

③ ①、②以外に実施している研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
1	2016/4/6	ネーザルハイフロー供給システムF&P850システム	講義・実技	看護師	6	12南
2	2016/4/13	輸液ポンプ・シリンジポンプ	講義・実技	看護師	67	看護部
3	2016/4/15	輸液ポンプ・シリンジポンプ	講義・実技	看護師	67	看護部
4	2016/4/26	病棟用X線撮影装置 Sirius Tiara K	講義	診療放射線技師	40	中央放射線部

③ ①、②以外に実施している研修

5	2016/5/6	開放式保育器 V-505HL	講義・実技	看護師	8	NICU・GCU
6	2016/5/6	開放式保育器 インファウォーマi	講義・実技	看護師	8	NICU・GCU
7	2016/5/6	血液ガス分析装置 ABL800FLEX	講義・実技	臨床工学技士	6	臨床工学室
8	2016/5/30	磁気共鳴断層撮影装置(MR装置) MR-RT Ingenia1.5T	講義	診療放射線技師	11	中央放射線部
9	2016/6/1	ネーザルハイフロー供給システムF&P850システム	講義・実技	看護師	10	8階南
10	2016/7/6	MRI用輸液ポンプ	講義	看護師	10	救急救命
11	2016/7/8	在宅酸素濃縮装置 小夏3	講義・実技	看護師	10	15階南
12	2016/7/15	携帯型自己調節鎮痛ポンプ(PCAポンプ)	講義	看護師	8	8階南
13	2016/8/5	PDT(光線力学的療法)レーザー	講義	医師	2	呼吸器外科
14	2016/8/29	汎用超音波画像診断装置 サイトライト5	講義・実技	医師・看護師	15	臨床シミュレーションセンター
15	2016/8/31	脳深部刺激装置 アクティバSC・RC	講義	医師	15	脳神経外科
16	2016/9/14	排痰補助装置 Comfort Cough Plus	講義	看護師	20	9階
17	2016/9/26	汎用超音波画像診断装置 サイトライト5	講義・実技	臨床工学技士	1	臨床工学室
18	2016/10/7	窒素-空気混合装置 NA2000vi/NAM2000	講義・実技	医師	5	小児科
19	2016/10/19	皮下植込み型除細動器(S-ICD) エンブレム	講義	看護師	12	14階北

20	2016/10/19	硬性鏡コントロールシステム Soloassist II	講義	医師	12	泌尿器科
21	2016/10/28	窒素-空気混合装置 NA2000vi/NAM2000	講義・実技	臨床工学技士	6	臨床工学室
22	2016/11/2	麻酔器 エスティバエスパイア	講義	臨床工学技士	3	中央手術部
23	2016/11/9	シャントシステム J&J Codman Certas	講義	医師	15	脳神経外科
24	2016/11/16	体温管理システム Arcticsun2000	講義・実技	看護師	13	NICU・GCU
25	2016/11/16	搬送用人工呼吸器 パラパックプラス	講義	医師	15	脳神経外科

③ ①、②以外に実施している研修

26	2016/11/17	携帯型精密輸液ポンプ CADD-Legacy	講義	看護師	15	14階北
27	2016/11/18	低圧持続吸引機 SD-3000	講義	看護師	11	7階北
28	2016/11/21	ネーザルハイフロー VAPOTHERMプレシジョンフロー	講義	看護師	9	ICU・PICU・CCU
29	2016/11/22	ネーザルハイフロー VAPOTHERMプレシジョンフロー	講義	臨床工学室	3	臨床工学室
30	2016/11/22	体温管理システム Arcticsun2000	講義・実技	看護師	12	NICU・GCU
31	2016/11/24	ネーザルハイフロー VAPOTHERMプレシジョンフロー	講義	看護師	8	ICU・PICU・CCU
32	2016/11/30	3.0テスラMRI対応シャントシステム ストラートシャントシステム	講義	医師	15	脳神経外科
33	2016/12/1	携帯型自己調節鎮痛ポンプ(PCAポンプ)	講義	医師・看護師・薬剤部	14	中央手術部
34	2016/12/5	加温装置 ホットドッグ	講義	看護師・臨床工学技士	16	中央手術部
35	2016/12/6	補助循環装置 大動脈内バルーンパンピング(IABP) CS300	講義	臨床工学技士	3	臨床工学室
36	2016/12/6	窒素-空気混合装置 NA2000vi/NAM2000	講義・実技	臨床工学技士	6	臨床工学室
37	2016/12/6	携帯型精密輸液ポンプ CADD-Legacy	講義	看護師	7	14北
38	2016/12/7	皮下植込み型除細動器(S-ICD) エンブレム	講義	医師・臨床工学技士	4	臨床工学室

39	2016/12/8	患者加温装置 コクーン	講義・実技	看護師	21	中央手術部
40	2016/12/15	逐次型空気圧式マッサージ器 SCD700	講義・実技	臨床工学技士	5	臨床工学室
41	2017/1/11	陰圧維持管理装置 ActiV.A.C.	講義	医師・看護師	12	15階北
42	2017/1/19	12誘導心電計 ECG-2450	講義	臨床工学技士	8	臨床工学室
43	2017/1/23	呼気ガス分析装置 FIT-2100	講義	管理栄養士	1	医事課栄養管理係
44	2017/2/15	ネーザルハイフロー供給システムF&P850システム	講義	看護師	10	17南
45	2017/2/16	ネーザルハイフロー供給システムF&P850システム	講義	看護師	6	17南

③ ①、②以外に実施している研修

46	2017/3/21	補助循環装置 大動脈内バルーンポンピング(IABP) CS300	講義	臨床工学技士	5	臨床工学室
47	2017/3/30	神経機能検査装置 ニューロマスター	講義	臨床工学技士	2	臨床工学室

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長 小椋 祐一郎
管理担当者氏名	事務課長 三浦 伸介

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	事務課
		各科診療日誌	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
		処方せん	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
		手術記録	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
		看護記録	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
		検査所見記録	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
		エックス線写真	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
		紹介状	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	事務課
		高度の医療の提供の実績	事務課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務課
		高度の医療の研修の実績	事務課
		閲覧実績	事務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部
	掲げる事項	規則第一條の十一第一項に	医療に係る安全管理のための指針の整備状況
医療に係る安全管理のための委員会の開催状況			医療安全管理室
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況			医療安全管理室
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況			医療安全管理室

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御室
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室
	第四号	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部、医療安全管理室
	第五号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第六号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第七号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部、医療安全管理室
	第八号	医療機器安全管理責任者の配置状況	物品供給センター、医療安全管理室
	第九号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	物品供給センター
	第十号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	物品供給センター
第十一号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	物品供給センター、医療安全管理室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	事務課、医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課 医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	監査室 医療安全管理室
		職員研修の実施状況	総務課 事務課 教育研究課 中央臨床検査部 中央放射線部 薬剤部 物品供給センター 医療安全管理室 感染制御室 臨床研究開発支援センター 看護部
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	薬剤部 物品供給センター 医療安全管理室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	事務課長 三浦 伸介		
閲覧担当者氏名	事務係長 釜本 英樹		
閲覧の求めに応じる場所	事務課事務係		
閲覧の手続の概要 記録の閲覧に関する責任者、担当者、及び閲覧の求めに応じる場所を定め、閲覧の求めに応じる場所の入口に掲示をしている。閲覧の求めがあった際は、閲覧責任者の許可のもと、閲覧担当者にて書記録の公開を行う。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：(別紙 2 参照)1. 医療機関における安全管理に関する基本的考え方2. 安全管理委員会・その他の組織に関する基本的事項3. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針4. 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針7. 患者からの相談への対応に関する基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無 (有・無)・ 開催状況：年 12 回・ 活動の主な内容：(別紙 3 参照) 次の事項の審議を行う。<ul style="list-style-type: none">(1) 安全管理体制の確保に関すること(2) 安全管理のための教育・研修に関すること。(3) 医療事故防止のための周知、啓発及び広報に関すること。(4) 医療事故等の事例検討及び事故防止策に関すること。(5) 医療事故発生時における検証と再発防止対策に関すること。(6) 医療事故等の公表に関すること(7) その他医療事故の防止に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 16 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：(別紙 4 を参照)①新規採用者を対象「新規採用者研修」「中途採用者研修」年2回「医薬品安全管理研修会」②全職員対象外部講師による講演「医療事故防止講演会」年2回③ある程度解決された重大事故について全職員へ周知徹底を図る「危機管理研修会」年2回④安全な医療技術・チームワークに関する研修会「PICC研修会」「チームSTEPPS研修会」⑤看護部における医療安全の教育 上記研修を全職員が受講できるよう従前から e ラーニングを積極的に活用している。	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ インシデントレポートの患者影響度レベルの見直し・ リスクマネジメントマニュアルの定期的な見直し (追録・修正)・ 安全管理に関する自己点検評価報告書の策定・まとめ・ 事故収集による分析 (定量および定性分析) ・ 対策・実施・ リスクマネジメントニュースの発行・ eラーニングの実施・ 院内医療安全巡視・ 医療安全全国共同行動参加にてワーキング活動・ 暴力対策の実施	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：(別紙 5 参照)・ 院内感染対策に関する基本的考え方 患者とその家族、職員、委託職員、学生等院内すべての人々を院内感染から守るための効果的予防及び管理を実践する。手指衛生をはじめとする標準予防策、あるいは必要に応じて感染経路別予防策を追加しての実践や、抗菌薬の適正使用を推進できるように、医療従事者全員に指導・教育を徹底する。また、最新情報に基づき現行の感染対策を常に評価し改善していく。・ 感染症の発生状況の報告に関する基本方針・ 院内感染発生時の対応に関する基本方針・ 患者等に対する該当指針の閲覧に関する基本方針・ 他施設職員等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：(別紙 6 参照)・ 感染対策委員会は、院内における感染症の感染予防対策に関する次の事項について審議し、方針を決定する。<ol style="list-style-type: none">(1) 感染防止対策マニュアルの策定及び変更(2) 全職員を対象とした感染防止教育と啓発(3) 各職種、各部門の予防対策に関し、必要と思われる事項(4) 職業感染予防の策定(5) 院内感染発生時の改善策について病院職員への周知(6) その他管内感染に関する重要事項	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 8 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">(1) 院内感染対策講演会<ol style="list-style-type: none">① 平成28年7月1日 「当院における感染対策上の現状」 講師：中村 敦 医師 (名古屋市立大学病院 学 感染制御室) 田上由紀子 看護師 (名古屋市立大学病院感染制御室) 朝岡 みなみ 薬剤師 (名古屋市立大学病院 薬剤部) 近藤 周平 医師 (名古屋市立大学病院 中央臨床検査部 感染制御室)② 平成29年1月6日 「感染制御に関する最近の考え方」 講師：大久保 憲 氏 (医療法人平岩病院 東京医療保健大学 名誉教授)(2) 新規採用者研修 平成28年4月4日 院内感染対策についての講義、手洗い・個人防護具着脱演習(3) 中途採用者研修 平成28年7月29日、平成29年1月27日 「感染予防対策」「血流感染対策と標準予防策」講義(4) その他 医師事務補助者研修 平成28年4月22日、8月19日 清掃業務職員研修 平成28年8月19日、8月22日 滅菌洗浄・環境部門研修 平成29年3月8日	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：	

- ・感染制御室を中心とした感染対策チーム（ICT）に、微生物検出状況、現場での感染症状を呈する患者の状況が報告される。ICTは横断的活動の権限をもって、状況確認、情報収集、対策の検討をし、現場の実施に対して指導・助言をする。
- ・ICTにより現場のラウンドを実施（部署別ラウンド43回、目的別ラウンド428回）し、感染対策上の問題の早期改善に努めている。
- ・抗菌薬の使用動向を監視し、適正使用に向けた診療支援を行う。平成28年度の抗菌薬ラウンドは648件行った。
- ・職業感染防止策を積極的に導入・実践していくことで、職員が感染源となる感染予防対策を強化する。
- ・感染に関するコンサルテーションに関して、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師が1148件に対応し、診療支援や部署の感染対策の課題につなげている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>新人看護師向け薬剤研修会（2回）</p> <p>①平成28年4月7日（木） 8時30分～ 9時30分（病院第1会議室）</p> <p>②平成27年4月8日（金） 8時30分～ 9時30分（病院第1会議室）</p> <p>内容：管理が必要な医薬品・与薬時の注意点・薬剤師による情報提供など（調剤担当薬剤師）</p> <p>医薬品安全管理講習会（1回）</p> <p>平成28年7月19日（火） 18時00分～19時00分（病院大ホール）</p> <p>内容：麻薬の取扱いについて（麻薬業務担当薬剤師）</p> <p>麻薬を上手に使用するために－緩和ケアの立場から－（緩和ケア担当薬剤師）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 薬剤部の業務 薬剤部の業務については『薬剤部業務マニュアル（新病院総合マニュアル 第8章 薬剤部門）』に従う。2. 医薬品の採用 医薬品の採用については『薬事委員会規約』及び『名古屋市立大学病院薬事委員会運営申し合わせ事項』に従う。3. 医薬品の管理 薬剤部における医薬品の管理については『薬品管理業務マニュアル』、『調剤マニュアル』、『調剤マニュアル（簡易版）』、『調剤薬補充・管理マニュアル』に従う。4. また、病棟・外来においては薬品管理者（責任医師、看護師、薬剤師）を配置し、『各部門の薬品管理担当者による医薬品の管理および確認について』に従う。5. 毒薬、向精神薬（第2種）、麻薬についてはそれぞれ『毒薬管理手順書』、『第2種向精神薬・毒薬（筋弛緩薬）管理マニュアル』、『麻薬管理マニュアル』に従う。6. 病棟・各部門への医薬品の供給 病棟・部門への医薬品の供給については『薬品管理業務マニュアル』、『各部門の薬品管理担当者による医薬品の管理および確認について』に従う。7. 外来患者への医薬品の供給 外来患者への医薬品の供給については『調剤マニュアル』に従う。 <p>。</p>	

8. 入院患者への医薬品の供給 医薬品の患者への投与については『与薬に関するマニュアル（看護手順 8. 与薬の看護技術）』に従う。
9. 入院患者への医薬品の情報提供 入院患者への医薬品の情報提供については『薬剤管理指導マニュアル』に従って薬剤師は患者へ服用薬の情報を提供する。
10. 医薬品情報の収集・管理・提供 医薬品情報の収集・管理・提供については『名古屋市立大学病院における医薬品情報管理マニュアル』に従う。
11. 他の医療機関・調剤薬局との連携 他の医療機関・調剤薬局との連携については『院外薬局から送られた後発医薬品変更のFAXの管理（新病院総合マニュアル 第19章 医療・福祉地域連携室）』、『薬剤管理指導マニュアル』および『薬薬連携のための地域の薬剤師会との検討会について』に従う。
12. 抗がん剤の管理・調製 抗がん剤の管理・調製については、『抗がん剤調製マニュアル（入院用・外来用）』および『抗がん剤レジメンチェックマニュアル』に従う。
13. 感染対策 感染対策については、『抗菌薬適正使用マニュアル』、『術後抗生剤投与マニュアル』および『抗MRSA薬使用の手引き』に従う。
14. 中心静脈栄養（TPN）調製 中心静脈栄養（TPN）調製については、『中心静脈栄養（TPN）無菌混合調製マニュアル』に従う。
15. 入院時の持参薬 入院時の持参薬については、『入院支援センターマニュアル（新病院総合マニュアル 第25章）』および『持参薬管理マニュアル』に従う。
16. 危険薬 危険薬の定義については、『本院における危険薬一覧』に従う。
17. 処方せんの記載方法 処方せんの記載方法については、システム操作マニュアル 第6章 オーダリングツールの『6.1処方オーダー』および『6.7 注射オーダー』に従う。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 無)

1. 病棟での3者ミーティングでの情報収集（医師・看護師 ⇒ 病棟担当薬剤師）
2. 調剤時等の情報収集（調剤担当薬剤師 ⇒ 病棟担当薬剤師）
3. 診療報酬審査委員会からの査定情報（医事課 ⇒ 病棟担当薬剤師）

・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. 医薬品適正使用のための注意喚起

薬事委員会において、本院で発生した有害事象についての報告および再発防止対策の周知を適宜実施している。平成28年度は4件（3薬品）報告した。

2. 院内安全性情報の活用

本院に重要と考えられる安全性情報について、安全性情報に基づく必要な対応（検査の実施・患者への説明等）について薬剤師が該当患者のカルテ上に記載して、医師に対応を求める取り組みを実施している。平成28年度には、院内での副作用報告2件（タグリッソ錠80mgによる薬剤性間質性肺炎）の発生を受け、現在使用中の患者の状態確認について実施した。

3. 医療安全全国共同行動への取り組み

医療安全全国共同行動の「医薬品の誤投与防止」への取り組みに沿った改善活動として、医師・薬剤師・看護師等の多職種による検討を行い、以下の点について実施した。

➤ 抗がん剤使用患者に対する薬剤師外来についてのアンケート

調査期間：H28. 10. 17～11. 7 対象：薬剤師外来を利用した患者の主治医20名

結果：患者への介入の有用性 「大変役に立つ」「役に立つ」が約95%

医師の負担軽減・医療の質等の評価 「大変役に立つ」「役に立つ」が約96%

今後期待する点：患者アセスメント、患者指導、支持療法提案 等

薬剤師による処方・検査オーダーの代行については、「認定薬剤師のみ代行可」が87%と大勢を占めた。

4. 抗がん剤の管理・調製

薬剤部にてすべての抗がん剤使用レジメンの登録管理を行っている。かつ外来および入院のすべての抗がん剤使用患者の抗がん剤の調製も行っている（休日含む）。抗がん剤使用患者に対する薬学的管理（入院患者はもちろん、外来患者への説明を含む）を実践している。また陰圧アイソレーター（ケモシールド®）を使用することにより、ファシールを使用することなく揮発性の抗がん剤（エンドキサン注®等）を安全に調製できる作業環境を提供している。

5. 内服抗がん剤使用患者に対する薬剤師外来

平成27年9月より、内服抗がん剤使用開始患者を対象とした薬剤師外来を開始した。対象は「外来にて開始する内服抗がん剤処方（院内、院外処方ともに）」とし、医師からの依頼を受け薬剤師が面談を行う形式とした。平成28年度の実施件数は634件（注射抗がん剤指導が287件、内服抗がん剤件数が347件）であった。

6. 患者サポートセンターでの持参薬確認

これから入院される方への案内と入院当日の受付、入院時の持参薬確認を集約して一か所で行う「入院支援センター」を設置し、持参薬管理を目的とした薬剤師による面談を全入院予定患者で開始している。薬剤師による面談は入院時だけでなく、入院決定日にお薬手帳などの情報をもとに術前中止薬を把握することを目的とする「入院前の服用薬確認」も実施されており、これらの運用により持参薬の服用状況および術前休止薬の確認が実施されるため、院内全体で

の持参薬に関する情報の共有・安全管理が可能となった。

➤ 平成28年度の服用薬確認件数：入院時8689件（約36件/日）、入院前5016件（約21件/日）

7. リスクマネジメント関連情報の発信

院内配布のRMニュース「おくすりのはなし」の項に薬物取扱・使用における安全管理の留意点を定期的（3か月に1回の割合）に継続連載して、院内医療関係者への注意喚起を実施している。

8. 医療安全教育（医薬品に関する安全教育）の実施

医療安全管理室が主催する医療安全教育（電子カルテを用いたe-ラーニング）に参加し、全職種を対象に医薬品に関する安全教育を実施している。平成28年度は「薬袋の変更について」を実施した。

9. 薬薬連携の取り組み

薬薬連携のための地域の薬剤師会の薬剤師との検討会を定期的を実施して、疑義照会事例・新規採用薬情報・地域連携クリニック（がん地域連携パス）などについて意見交換を行っている（平成28年度は計4回実施）。また、呼吸器内科と協働して、地域の保険薬局の薬剤師を対象とした吸入指導講習会（吸入指導ネットワーク）を年2回実施している。

※第5回講習会（H28.9月：62名参加、第6回講習会（H29.3：33名参加）、合計95名

10. 部門ごとの医薬品管理者の選定

部門ごとに医師・看護師・薬剤師の3者の医薬品管理者を選定し、医薬品適正管理（定数医薬品の見直しを含む）を実施している。さらに管理担当薬剤師からは、毎月発行の「医薬品情報誌」を用いた医師、看護師への情報提供も行っている。平成23年度からは部門における医薬品管理の問題点の収集と情報共有を目的として、医薬品管理者（医師・看護師・薬剤師）による3者ミーティングも実施している。3者ミーティングの記録内容については定期的に医薬品安全管理責任者が内容を把握している。

（注）前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 177 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：(別紙 7 を参照)I 新しい医療機器の導入時の安全使用のための研修II 人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置等の特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する取扱研修III 新規採用職員に対するシリンジポンプ、輸液ポンプ等の医療機器の取扱研修及び在職職員に対する随時研修。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)・ 保守点検の主な内容：I 人工呼吸器、除細動器、保育器、シリンジポンプ等の中央管理している医療機器については、使用後MEセンターへ返却し、使用後及び一定の点検周期毎に保守点検を実施している。II 診療用高エネルギー放射線発生装置などその他の医療機器については、業者による定期点検を実施している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：I 医療機器に係る院内のインシデント・アクシデント情報、メーカーから直接寄せられるリコール情報、安全性情報、医薬品医療機器総合機構から発信される情報等については、医療安全管理室へ一元的に集約され、同室及び臨床工学室が中心となり各部署への情報発信及び対策を実施している。II 機器の安全使用の観点から、中央管理する医療機器については、標準化を図っている。III 医療機器の使用に係る医療事故の発生を防ぐことを目的として作成した医療機器使用マニュアルの適宜見直しを行った。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有 無
<p>・ 責任者の資格 (医師・歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>安全管理担当の副病院長を医療安全管理責任者とし、医療安全管理室室長を安全管理指導者とする。医療安全管理委員会の委員長は医療安全管理責任者とする。医療安全管理責任者のもと、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者を配置する。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (5 名) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療安全管理室にて院内での医薬品使用状況についての疑問点を把握した場合、医療安全管理室の専従薬剤師から医薬品安全管理責任者から指名された薬剤師 (以下、医薬品情報係長) に報告される。2. 医薬品の発注・購入を担当している薬務係長は医薬品の購入状況を精査し、通常と異なる使用状況等の有無について確認する (最低月 1 回)。疑問点がある場合は医薬品情報係長に連絡する。医薬品情報係長は該当部署の病棟担当薬剤師と協力して、使用状況の詳細な把握を行う。3. 調剤を担当する薬剤師が、調剤時に通常とは異なる使用状況等の疑問を持った場合、病棟担当薬剤師および医薬品情報係長に情報を伝える。4. また、医薬品情報係長は、緊急安全性情報・安全性速報などの安全性情報の内容を確認し、必要に応じて院内の医薬品の使用状況を把握する。5. これらの情報に関して、医薬品情報係長が必要に応じて医薬品安全管理責任者に報告を行う。医薬品安全管理責任者はその報告をもとに、院内への情報周知・運用上の提案・オーダ時の制御などの対策を検討し実施する。 <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none">1. 病棟担当薬剤師が、病棟で担当患者に対する薬学的管理の際や医師・看護師との 3 者ミーティングの際などにおいて、未承認等の医薬品の使用に係る情報収集を行い、適宜医薬品情報係長へ伝達を行う。2. 調剤を担当する薬剤師が、調剤時に適応外使用等の疑問を持った場合、病棟担当薬剤師や医薬品情報係長に情報を伝える。	

<p>3. 診療報酬審査委員会での査定情報を、医事課担当職員から病棟担当薬剤師や医薬品情報係長が収集する。</p> <p>4. これらの情報に関して、医薬品情報係長が必要に応じて医薬品安全管理責任者に報告を行う。医薬品安全管理責任者はその報告をもとに、院内への情報周知・運用上の提案・オーダ時の制御などの対策を検討し実施する。</p> <p>・ 担当者の指名の有無 (有・無)</p> <p>・ 担当者の所属・職種： (所属：薬剤部医薬品情報係長，職種 薬剤師)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有) 無
<p>・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： インシデントが発生した際、同意書及び診療録にて遵守状況を確認し、該当部門へ個別に指導している。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有) 無
<p>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 実務内容は情報処理室の職員、診療情報管理士からの相談対応、システム会社との定期的な打合せ、診療記録の監査業務や各種業務提案を病院情報システム会議、及び診療情報管理委員会で行っています。様々な活動を通じ、適切な病院情報システムと診療情報管理業務の運用管理の推進に努めています。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有) 無
<p>・ 所属職員：専従 (9) 名、専任 () 名、兼任 (3) 名 うち医師：専従 (1) 名、専任 () 名、兼任 (3) 名 うち薬剤師：専従 (1) 名、専任 () 名、兼任 () 名 うち看護師：専従 (2) 名、専任 () 名、兼任 () 名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全確保のための研修会や講演会の企画・運営 ・ 医療安全管理委員会やセーフティーマネージャー会議の企画・運営 (資料・議事録の作成及び保存) ・ 医療事故防止のための未然防止策の検討や、事故後再発防止策の検討・策定・実施・評価 </p>	

- ・リスクマネジメントマニュアルの改訂
- ・医療安全巡視の計画・実施・評価
- ・職員への安全意識の向上のための教育システム（eラーニング）の掲載・成績把握・職場への周知
- ・説明・同意文書の見直しの企画・運営等
- ・重大医療事故後の原因分析や再発防止策のための各部署との検討会、各関連科との連携
- ・患者相談室との連携
- ・患者死亡報告書の確認

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：高難度新規医療技術の届出対応及び審査業務。その他、対象技術の調査及び、承認後の実施状況確認
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：未承認新規医薬品等の使用の届出対応及び審査業務。その他、対象医療の調査及び、承認後の実施状況確認
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 監査委員会の設置状況

有・無

- ・監査委員会の開催状況：年 1 回
- ・活動の主な内容：高度な医療安全管理体制を確保するため「医療安全監査委員会」を設置し、法律家や一般の立場の方で外部監査を行い、医療安全管理についての是正措置を講ずるよう意見し、改善に向けた助言を行うことを目的としています。

・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 委員名簿の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 委員の選定理由の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 公表の方法：病院ホームページにて公表

<https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/anzen-kanri/externalauditor/>

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
中村 勝己	後藤・太田・立 岡法律事務所 所属弁護士	○	法律に関する見 識を有するため	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
宮本 忠壽	知多厚生病院 名誉病院長		医療及び病院管 理の見識を有す るため	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
小島 一彦	元中日新聞社 編集委員		報道機関に努め た経歴を有する ため	有 <input checked="" type="radio"/> 無	2
岩崎 良平	日本ガイシ株 式会社取締役 専務執行役員		一般企業におい て組織管理の経 験を有するため	有 <input checked="" type="radio"/> 無	2
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

<p>⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 577 件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 130 件 ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 事例に関する経過及び医療安全管理室によるヒアリング内容を報告し、医療事故調査制度への対象となるかどうか審議を行う。また、原因の究明と再発防止策について協議する。
<p>⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院への立入り（<input checked="" type="radio"/>）（病院名：横浜市立大学病院）・無） ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（<input checked="" type="radio"/>）（病院名：横浜市立大学病院）・無） ・技術的助言の実施状況 インシデント・アクシデントの分析方法と再発防止対策について助言を受けた。 診療情報管理の徹底による診療状況の確認について助言を受けた。
<p>⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 病院内に、「患者相談室」を設置し、医療内容についての心配や不安等の相談を相談員（看護師）が受けている。
<p>⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>・無） ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（<input checked="" type="radio"/>・無） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（<input checked="" type="radio"/>・無）
<p>⑭ 職員研修の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況（別紙4参照） ①新規採用者を対象「新規採用者研修」「中途採用者研修」年2回「医薬品管理研修会」 ②全職員対象外部講師による講演「医療事故防止講演会」年2回 ③ある程度解決された重大事故について全職員へ周知徹底を図る「危機管理研修会」年2回 ④安全な医療技術・チームワークに関する研修会「PICC研修会」「チームSTEPS研修会」 上記研修を全職員が受講できるよう従前からeラーニングを積極的に活用している。
<p>⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況

管理者：

①病院管理者研修会

平成 28 年 5 月 6 日 一般社団法人 医療安全全国共同行動

医療安全管理責任者：

①医療事故調査制度に係る講演会

平成 28 年 12 月 18 日 特定非営利活動法人 日本医学歯学情報機構

②医療安全に関するワークショップ

平成 28 年 12 月 20 日・21 日 厚生労働省 東海北陸厚生局

医薬品安全管理責任者：

①医療安全に関するワークショップ

平成 28 年 12 月 20 日・21 日 厚生労働省 東海北陸厚生局

②薬剤安全セミナー

平成 29 年 1 月 30 日 公益財団法人 日本医療機能評価機構

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 評価を行った機関名：公益財団法人 日本医療機能評価機構 評価を受けた時期：2013年8月2日 (初回認定：2008年2月18日) 備考：認定第JC1440-2号 一般病院2 機能種別版評価項目3rdG：Ver. 1.0	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 【病院HP等】 ○病院HPや外来で放映しているメディネットに当院のご案内、最新のお知らせ、患者・一般向け、医療関係者向けの情報を掲載している。 ○愛知県が管理する「あいち医療情報ネット」に診療時間や診療科目等の情報を掲載している。 【院外広報紙】 ○「さくらほっとNEWS」を刊行 (年4回) し、当院の最新情報やお知らせを、患者や地域の住民向けに発信している。病院HPへの掲載、院内での配布、院外 (近隣病院、市内区役所等) 及び職員向けに配布している。 ○「名古屋市立大学病院臨床シミュレーションセンターNEWS」を刊行 (年4回程度) し、当院におけるシミュレーション教育の内容について発信している。病院HPへの掲載、院内及び院外 (近隣病院) 向けに配布している。 【公開講座等】 ○「患者情報ライブラリーセミナー」 (年6回程度) や、各科による公開講座 (不定期) について、疾患に対する理解を深めるため、患者や一般市民向けに開催している。 病院、大学HPに開催情報が掲載される。 ○国際福祉健康産業展「ウェルフェア」の開催に伴う併催行事として講演会が開催されており、当院の職員が講師となって講演を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
--------------------------	-----

・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要

- 診療にあたる際、必要に応じて複数の診療科による合同のカンファレンスを実施している。
- 全診療科の代表者を含む各種委員会を定期的に開催している。
- 複数の診療科によって組織する「センター」機能を有し、診療科ごとの特性を融合することにより、特色となる診療を実施したり、診療の支援業務や教育・研究業務などを行っている。
- 医療安全、感染、栄養サポート（NST）、褥瘡等に対して複数の診療科、職種を交えてチームを組み、対策を行っている。
- 診療連携拠点病院（肝疾患、地域がん）として都道府県における診療ネットワークの中心的な役割を果たす病院である。また、災害拠点病院として地域における災害医療を担っている。
- 救命救急センターとして24時間高度な医療が提供できるよう、全診療科及び全部門が連携して救急医療のバックアップ体制を整えている。夜間・休日においても、医師、看護師、薬剤師、X線技師、検査技師が待機しており、常時迅速な引継が可能である。